目　　次

Ⅰ. 調査の概要 1
　１　調査の概要 2

Ⅱ. 調査結果 3
　１　お住まいの地域・ご家族の状況等について 4
　２　子供の育ちをめぐる環境について 9
　３　保護者の就労状況について 12
　４　平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について（就学前保護者） 14
　５　地域の子育て支援事業の利用状況について 20
　６　土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の 利用希望について（就学前保護者） . 30
　７　病気の際の対応について 33
　８　不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について 38
　９　小学校の放課後の過ごし方について 42
　10　育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について（就学前保護者） 47
　11　妊娠中や出産、子育ての不安と悩みについて 52
　12　仕事と生活の調和について（小学生保護者） 58
　13　子供の健全な育成、安全について（小学生保護者） 61
　14　施策全般について 65

Ⅲ. 調査結果 73
　１　性別や学年などについて 73
　２　学校生活について 78
　３　放課後や休日の過ごし方について 80
　４　携帯電話（スマートフォン）やパソコンの利用について 84
　５　日常生活の様子やふだん思っていることについて 87
　６　将来のことについて 97
　７　あなた自身のことについて 107
　８　将来、家庭を持つことについて（中学生・高校生） 112

Ⅳ. 調査結果からみた本市の課題 117

Ⅰ．調査の概要

1　調査の概要

（１）調査の目的

第二期和歌山市子ども・子育て支援事業計画の策定にあたり、和歌山市民の子育ての状況や、幼児教育・保育・地域の子育て支援事業の利用希望などを把握し、計画策定の基礎資料とすることで、よりよい子育て施策の推進につなげていくことを目的として実施しました。

（２）調査対象

和歌山市内に居住する就学前児童の保護者（就学前保護者）2,500 人、小学生児童の保護者（小学生保護者）1,500 人、小学生・中学生・高校生約 1,000 人を対象として行いました。

（３）調査の方法と回収状況

就学前保護者、小学生保護者については、住民基本台帳から無作為抽出で対象者を選定し、郵送による調査票の配布・回収を行いました。小・中・高生については、市内の小学校・中学校・高校の協力を得て、人数等のバランスを考慮して、クラス単位での配付・回収を行いました。

調査期間は平成 30 年 12 月 10 日から 12 月 25 日です。

回収状況は以下の通りです。

■配布数・回収数・回収率

	配布数	有効回収数	有効回収率
就学前保護者	2,500	1,155	46.2%
小学生保護者	1,500	688	45.9%
小学生･中学生･高校生	1,024	970	94.7%

（４）表記方法について

●回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第２位で四捨五入したものです。そのため、複数の選択肢から１つの選択肢を選ぶ方式の質問であっても、表記のパーセント値の合計が 100.0 ちょうどにならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表のいずれにおいても同様です。

●複数回答（複数の選択肢から２つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、集計対象者の総数に対する、選択肢ごとの回答者数の割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。

●図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難だったものです。

●図表中の「N（number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

●本文・図表中の設問の選択肢は簡略化した表記にしている場合があります。

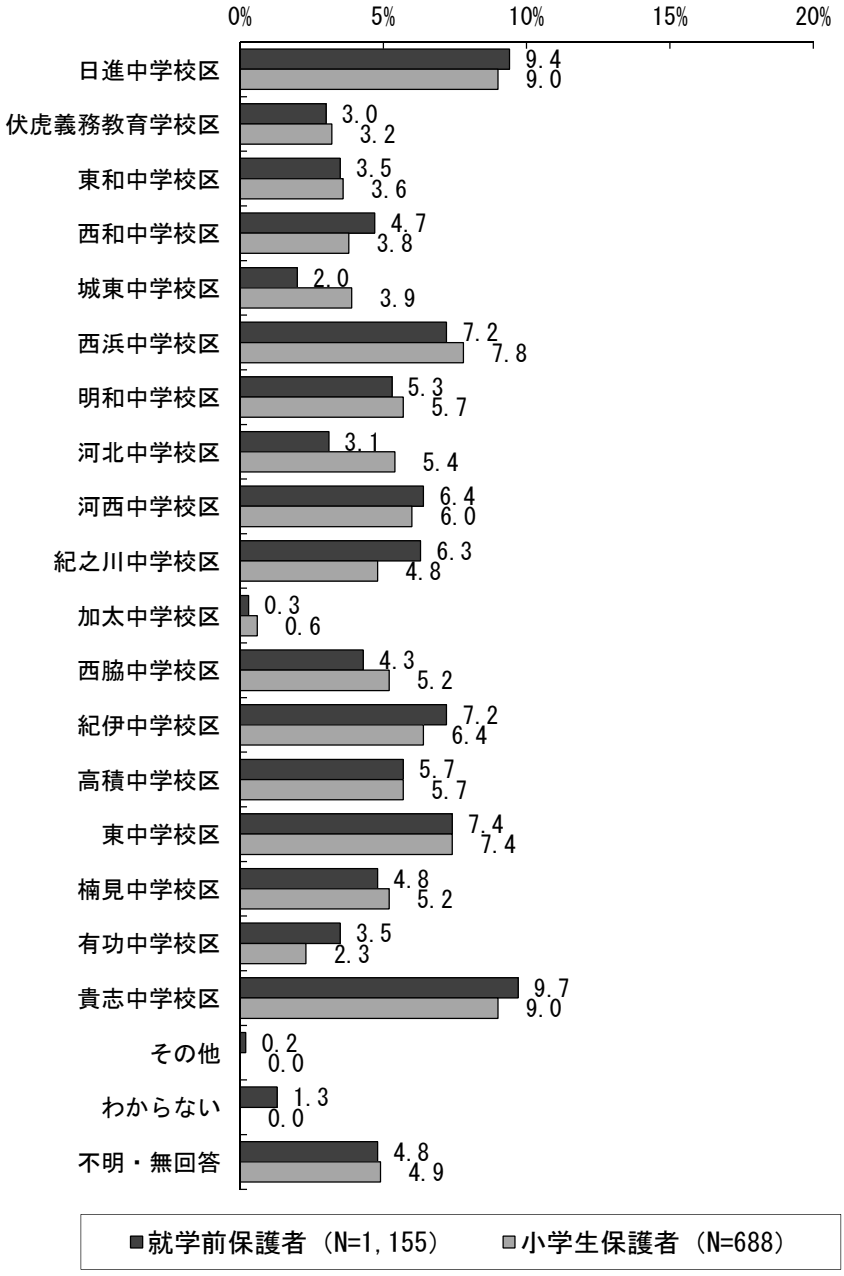
Ⅱ. 調査結果

（就学前保護者調査・小学生保護者調査）

1　お住まいの地域・ご家族の状況等について

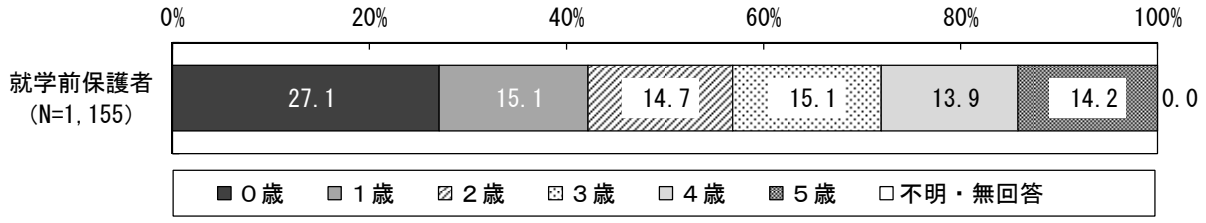
（１）お住まいの中学校区〔就学前保護者調査・小学生保護者調査…問1〕

居住する中学校区についてみると、就学前保護者では「貴志中学校区」が 9.7%で最も多く、小学生保護者では「日進中学校区」と「貴志中学校区」が 9.0%と最も多くなっています。



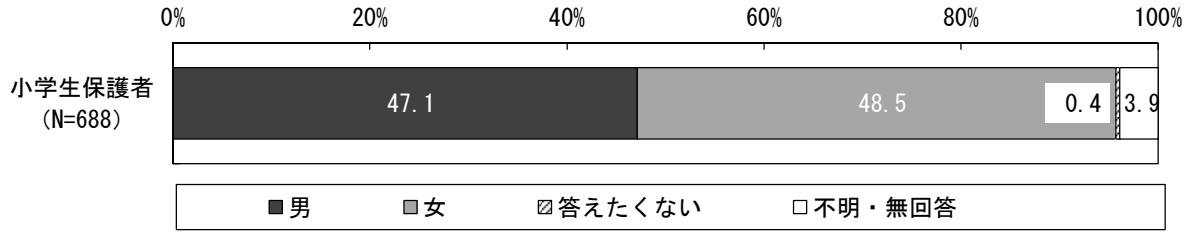
（２）対象の子供の年齢（平成 30 年４月１日現在）〈数量回答〉〔就学前保護者調査…問2〕

対象の就学前児童の年齢についてみると、「０歳」が 27.1%で最も多くなっています。

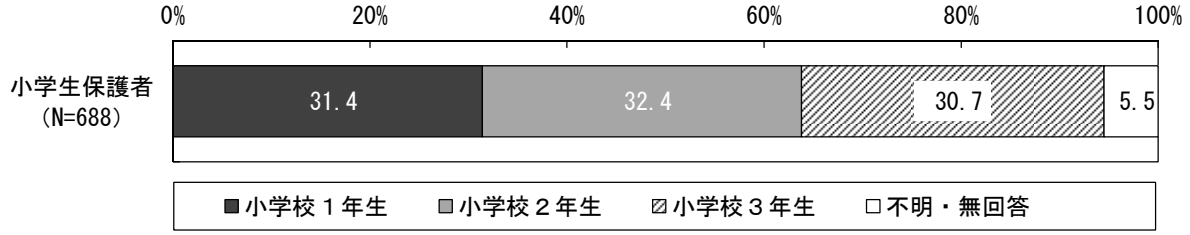


（２）－１　対象の子供の性別〔小学生保護者調査…問2〕

対象の小学生の学年についてみると、「１年生」から「３年生」がほぼ同数となっています。

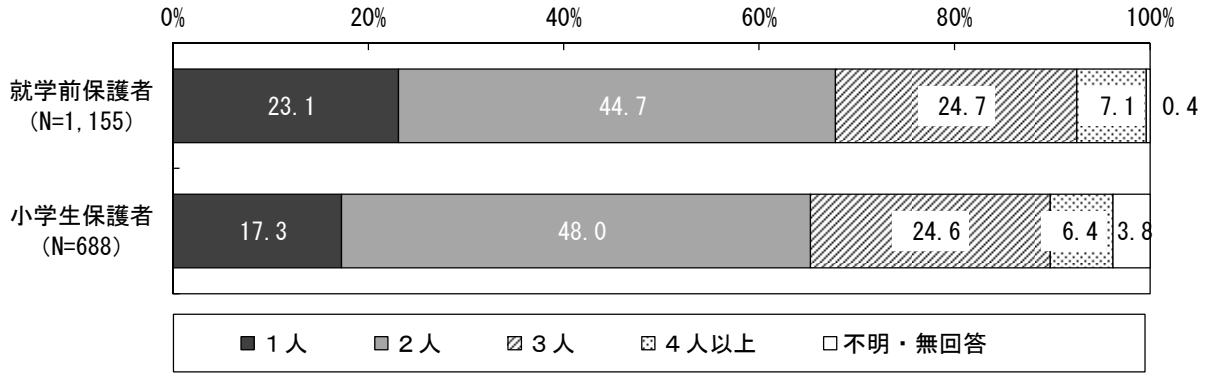


◎学年〈数量回答〉

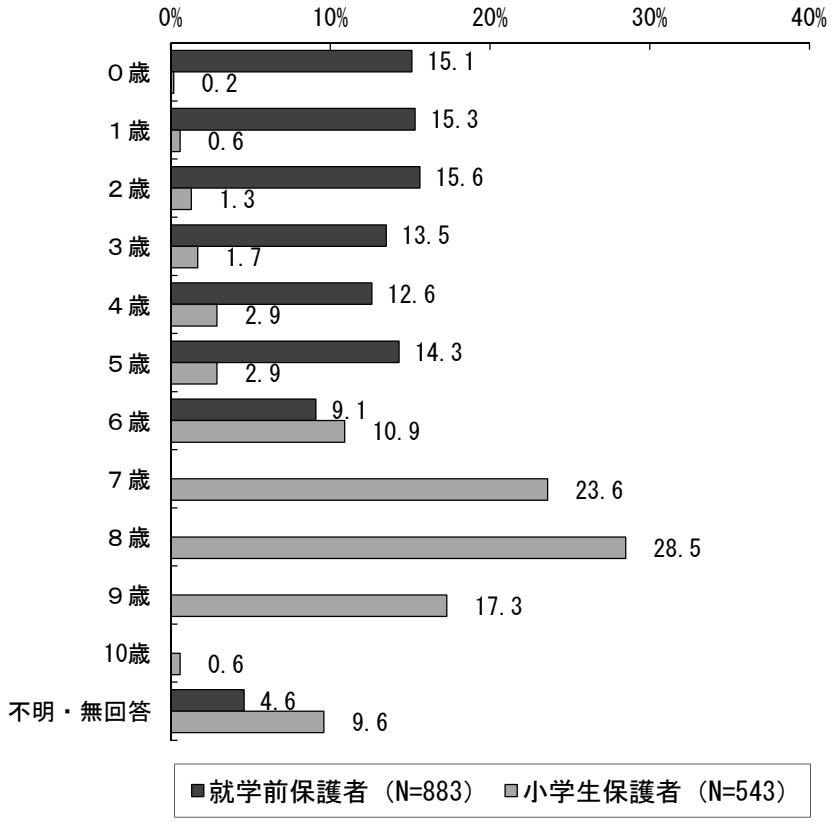


（３）子供の人数（平成 30 年４月１日現在）〔就学前保護者調査・小学生保護者調査…問3〕

子供の人数についてみると、「２人」が就学前保護者で 44.7%、小学生保護者で 48.0%と最も多くなっています。小学生保護者の方が子供の人数がやや多い傾向です。

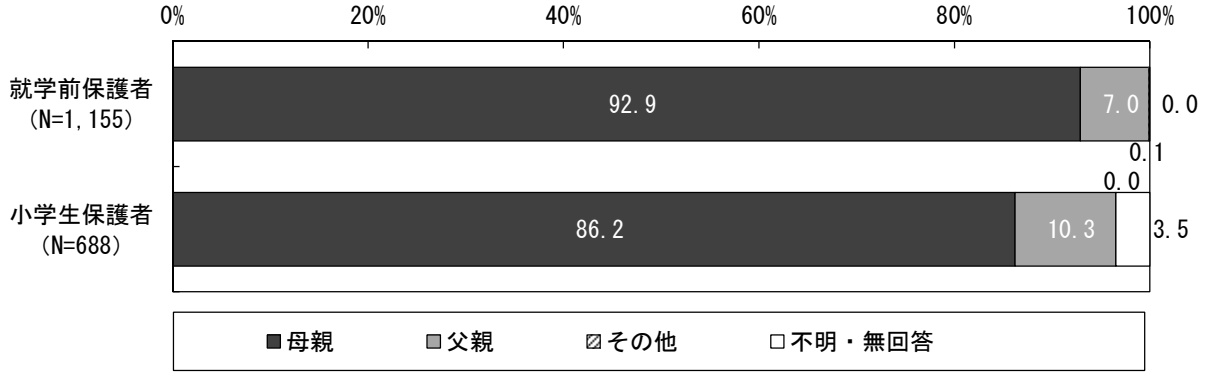


◎子供が２人以上いる場合の末子の年齢



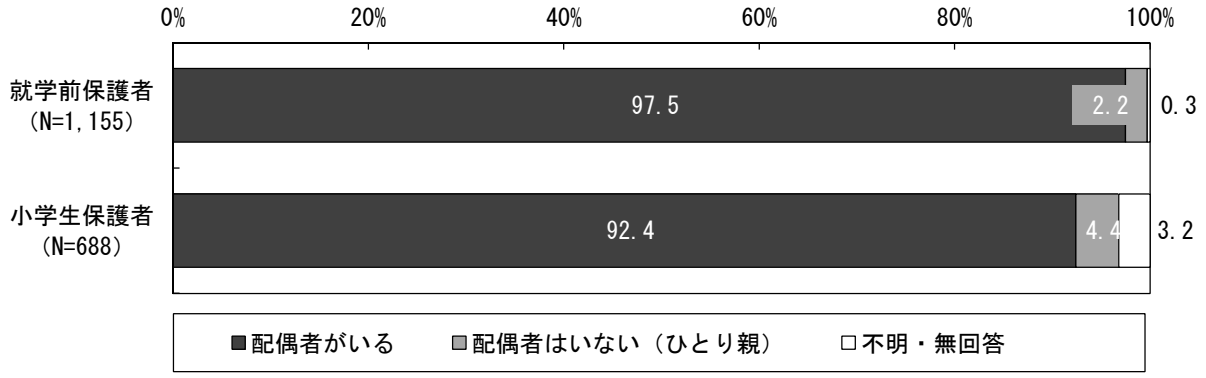
（４）調査票の回答者〔就学前保護者調査・小学生保護者調査…問4〕

回答者についてみると、「母親」が９割前後となっています。



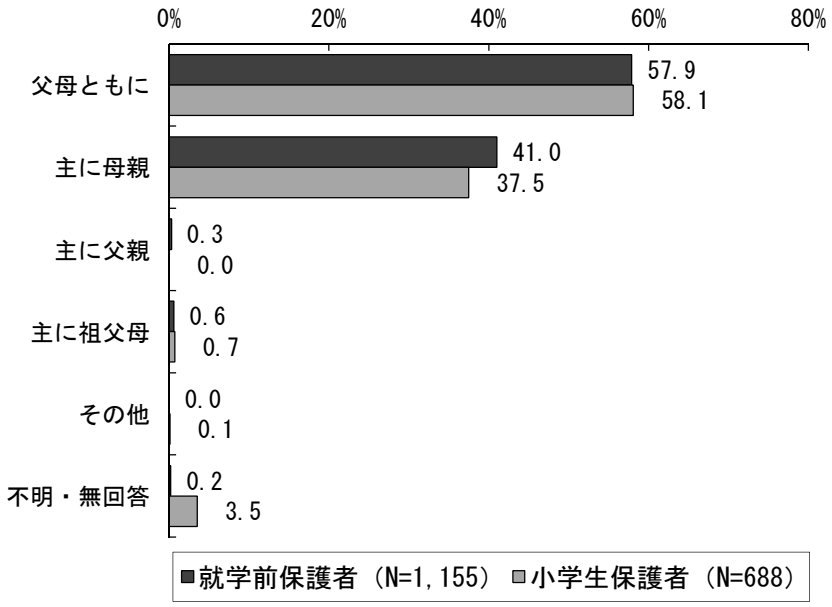
（５）調査票の回答者の配偶関係の有無〔就学前保護者調査・小学生保護者調査…問5〕

「配偶者はいない（ひとり親）」は、就学前保護者で 2.2%、小学生保護者で 4.4%となっています。



（６）子育てを主に行っている方〔就学前保護者調査・小学生保護者調査…問6〕

子育てを主に行っている方についてみると、「父母ともに」が就学前保護者、小学生保護者ともに最も多く、次いで、「主に母親」が多くなっています。

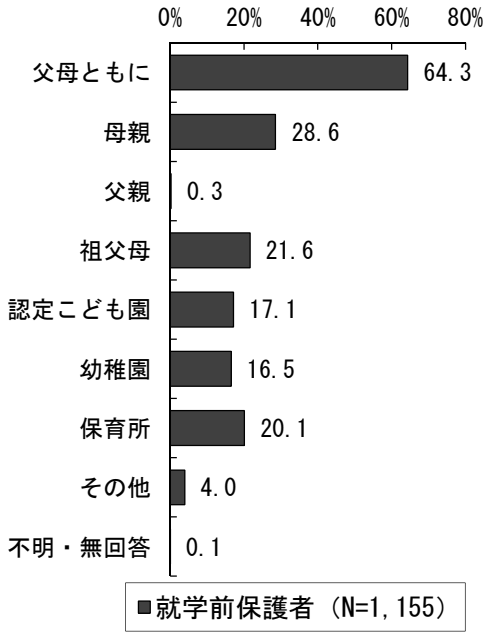


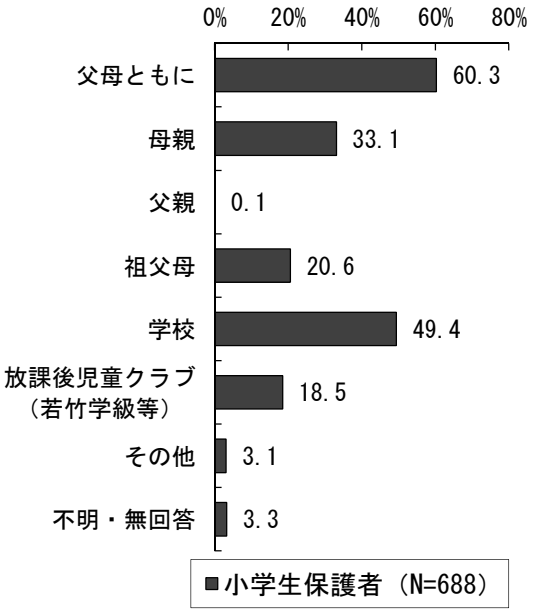
２　子供の育ちをめぐる環境について

（１）子育てに日常的に関わっている方（施設）〈複数回答〉

〔就学前保護者調査・小学生保護者調査…問7〕

子育てに日常的に関わっている方（施設）についてみると、「父母ともに」が就学前保護者、小学生保護者ともに６割を超えて最も多くなっています。

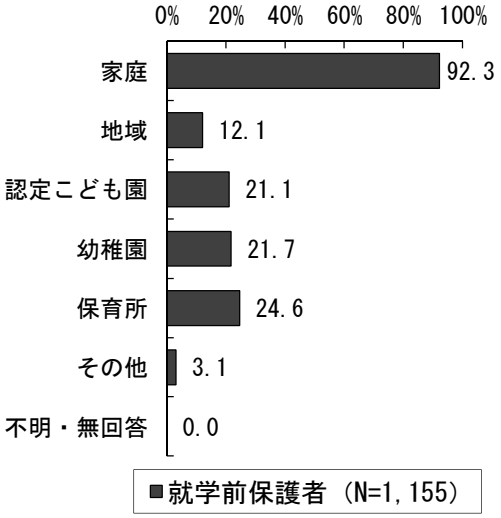


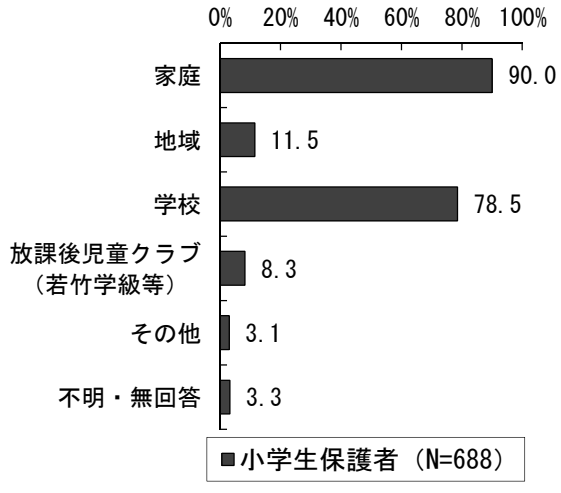


（２）子育てや教育に影響すると思われる環境〈複数回答〉

〔就学前保護者調査・小学生保護者調査…問8〕

子育てや教育に影響すると思われる環境については、「家庭」と通っている教育・保育施設が多く挙げられており、「地域」はいずれも１割台にとどまっています。



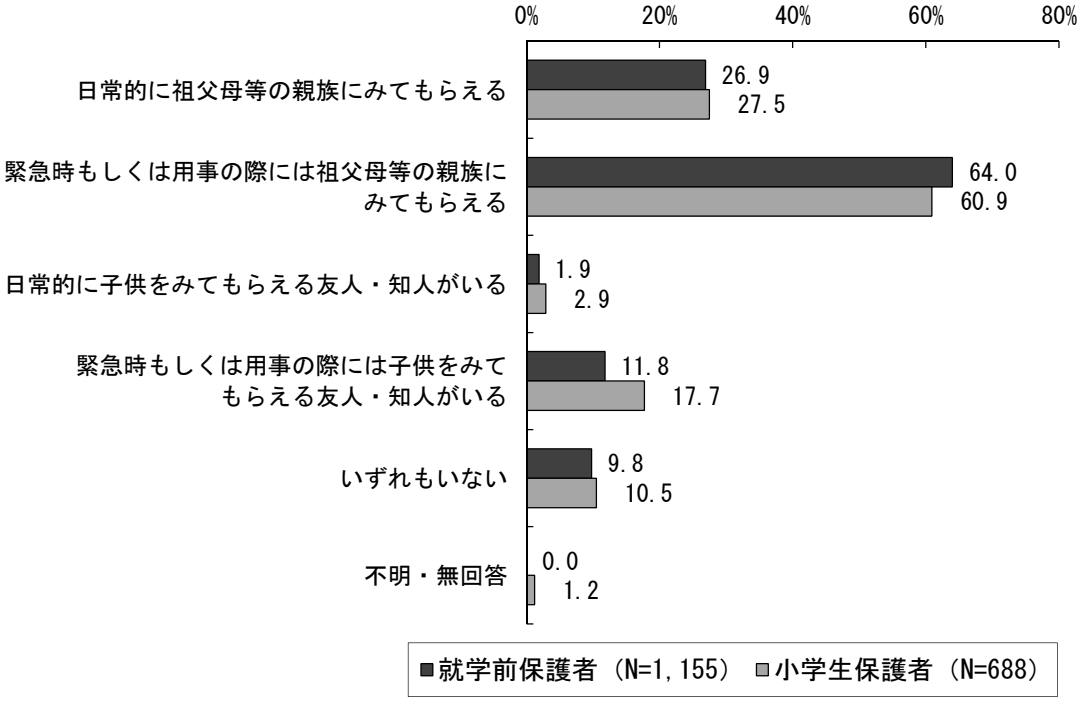


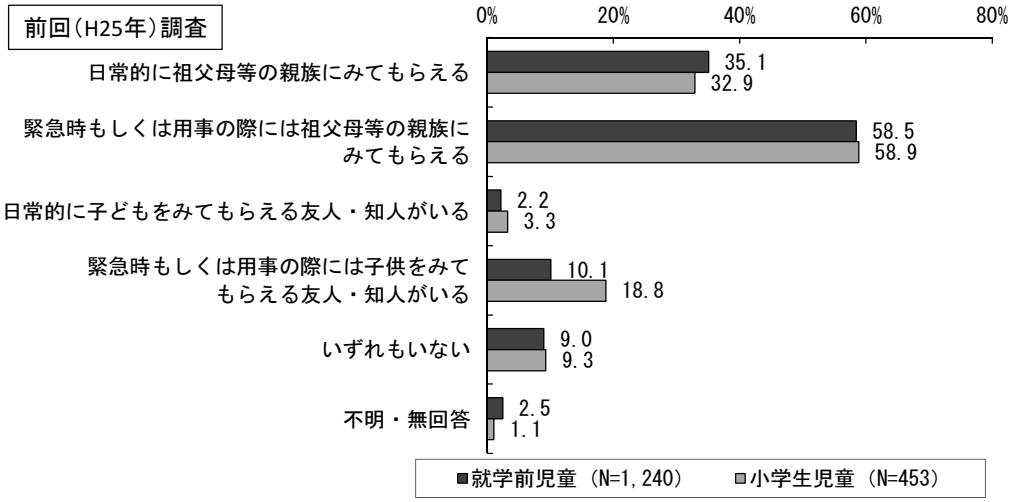
（３）日頃、子供をみてもらえる親族・知人の有無〈複数回答〉

〔就学前保護者調査･小学生保護者調査…問9〕

日頃、子供をみてもらえる親族・知人の有無についてみると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が就学前保護者、小学生保護者ともに６割を超えて最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が多くなっています。

前回調査と比較すると、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が減少しています。

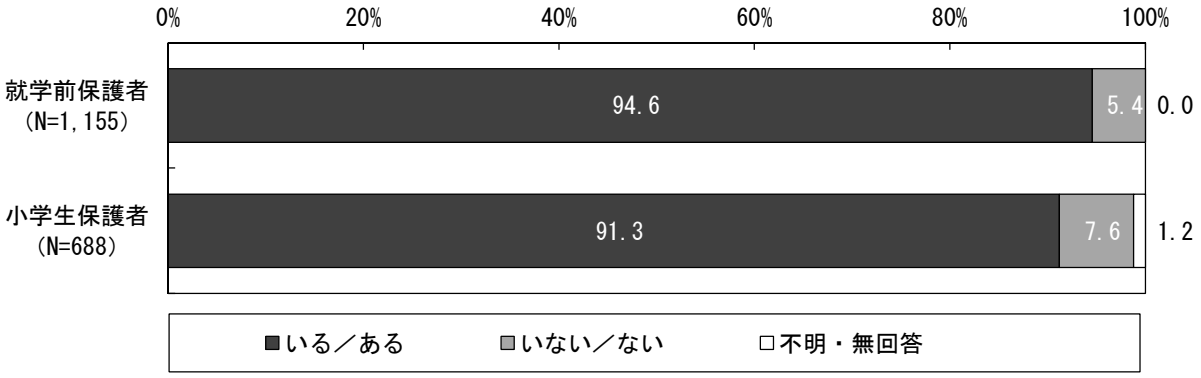




（４）子育てをする上での相談相手や相談できる場所の有無

〔就学前保護者調査・小学生保護者調査…問 10〕

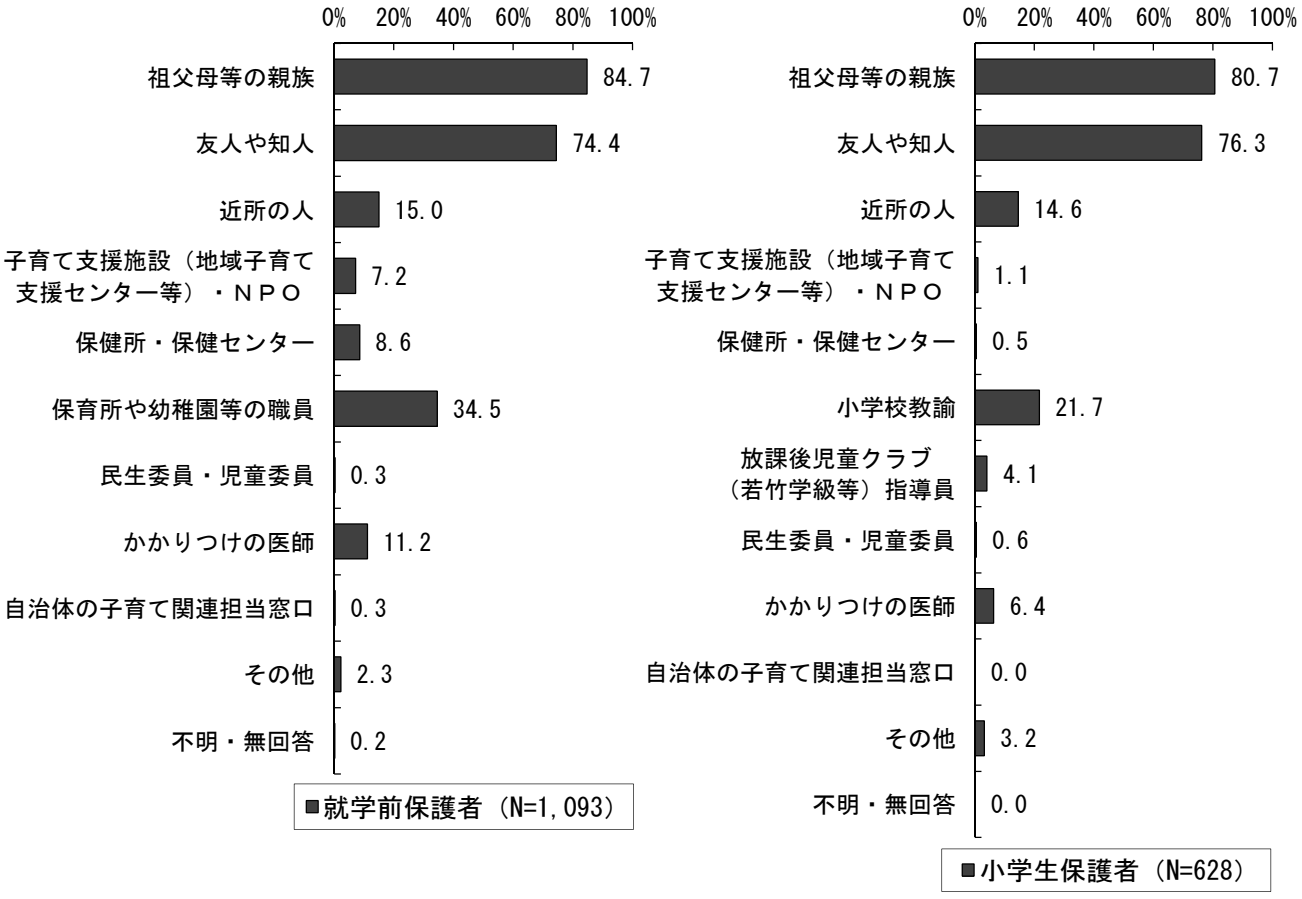
子育てをする上での相談相手（場所）が「いない／ない」という人は、就学前保護者で 5.4%、小学生保護者で 7.6%となっています。



（４）で「いる／ある」を選んだ方

（４）－１　気軽に相談できる先〈複数回答〉〔就学前保護者調査・小学生保護者調査…問 10-1〕

子育てに関して、気軽に相談できる先についてみると、就学前保護者、小学生保護者ともに「祖父母等の親族」が８割を超えて最も多く、次いで、「友人や知人」が７割台で多くなっています。



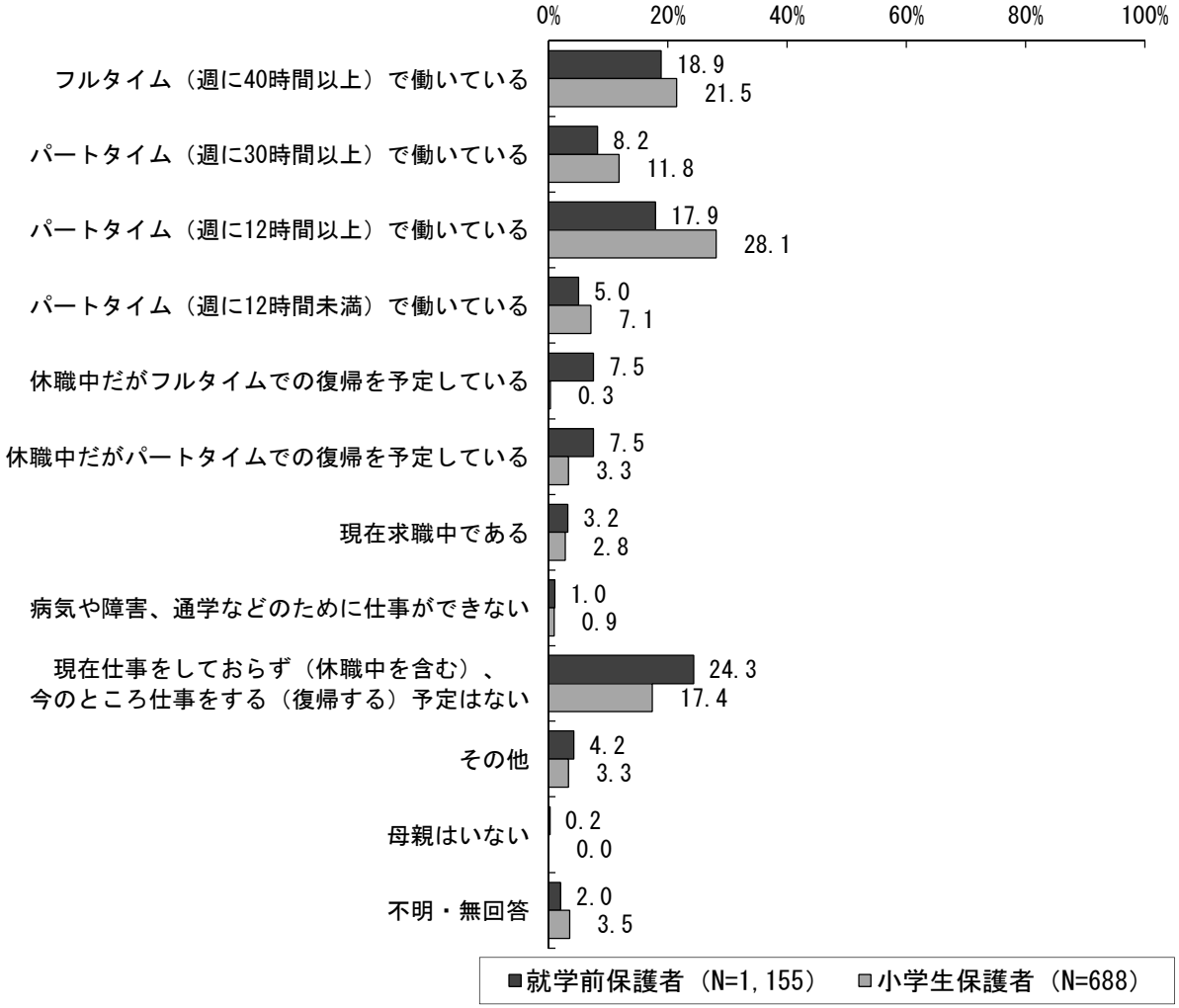
３　保護者の就労状況について

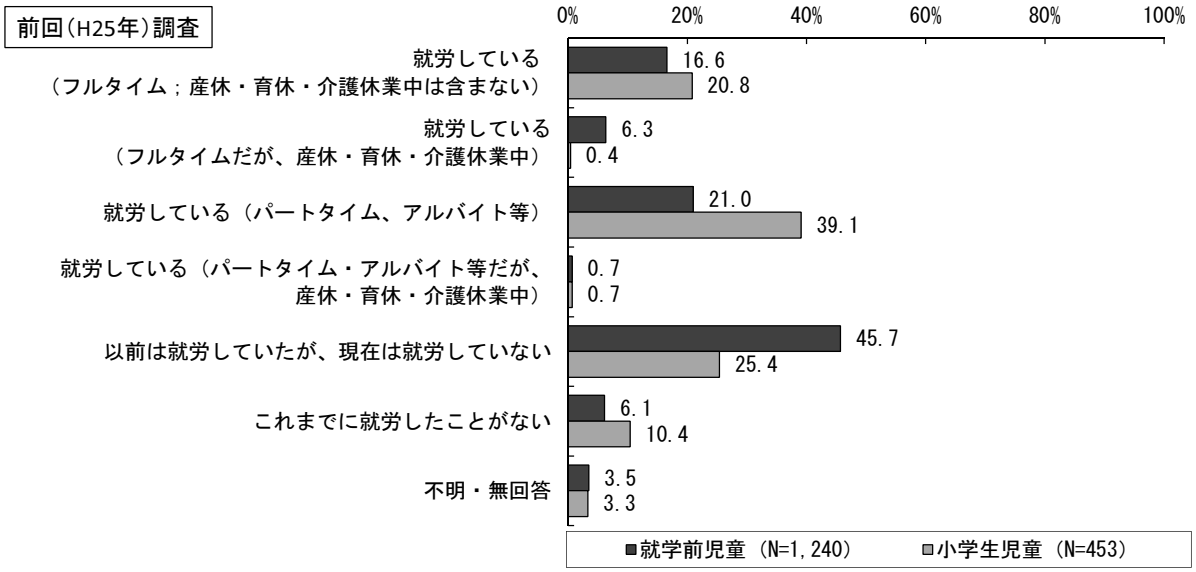
（１）保護者の就労状況〔就学前保護者調査・小学生保護者調査…問 11〕

保護者の就労状況についてみると、母親では就学前保護者で「現在仕事をしておらず（求職中を含む)、今のところ仕事をする（復帰する）予定はない」が 24.3%、小学生保護者で「パートタイム（週に 12 時間以上）で働いている)」が 28.1%で最も多くなっています。前回調査とは質問の形式が異なりますが、仕事をしている母親が増加しています。

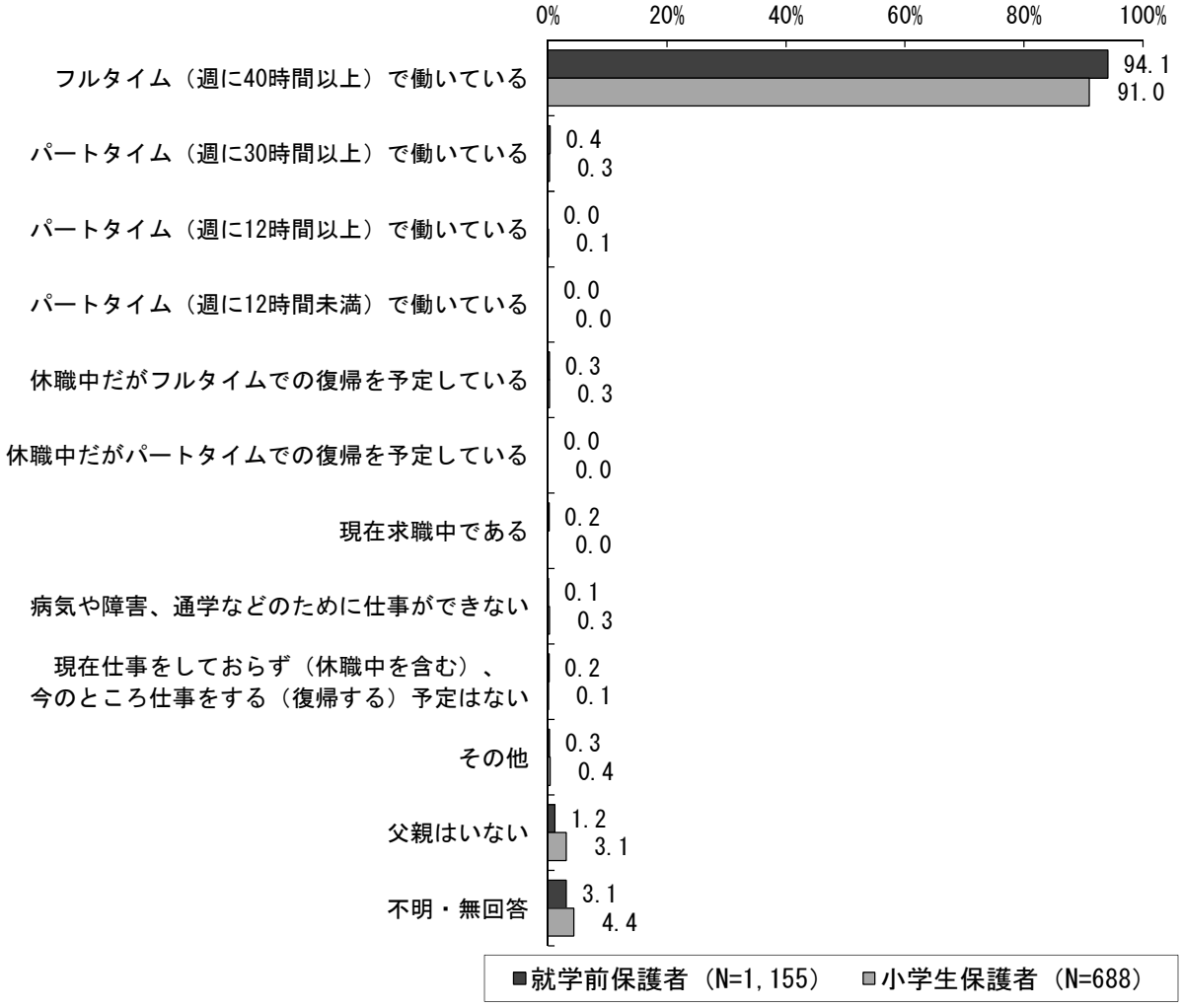
父親では「フルタイムで働いている」が就学前保護者、小学生保護者ともに最も多くなっています。

【母親】




前回(H25年)調査
0%
20%
40%
60%
80%
100%
就労している（フルタイム；産休・育休・介護休業中は含まない）
16.6
20.8
就労している（フルタイムだが、産休・育休・介護休業中）
6.3
0.4
就労している（パートタイム、アルバイト等）
21.0
39.1
就労している（パートタイム・アルバイト等だが、産休・育休・介護休業中）
0.7
0.7
以前は就労していたが、現在は就労していない
45.7
25.4
これまでに就労したことがない
6.1
10.4
不明・無回答
3.5
3.3
就学前児童（N=1,240）
小学生児童（N=453）

【父親】

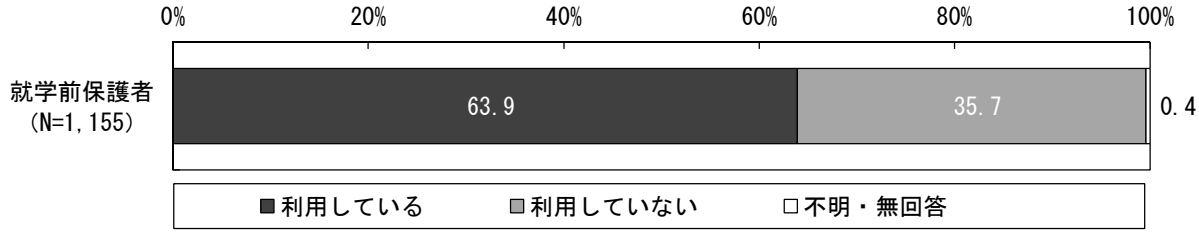

0%
20%
40%
60%
80%
100%
フルタイム（週に40時間以上）で働いている
94.1
91.0
パートタイム（週に30時間以上）で働いている
0.4
0.3
パートタイム（週に12時間以上）で働いている
0.0
0.1
パートタイム（週に12時間未満）で働いている
0.0
0.0
休職中だがフルタイムでの復帰を予定している
0.3
0.3
休職中だがパートタイムでの復帰を予定している
0.0
0.0
現在求職中である
0.2
0.0
病気や障害、通学などのために仕事ができない
0.1
0.3
現在仕事をしておらず（休職中を含む）、今のところ仕事をする（復帰する）予定はない
0.2
0.1
その他
0.3
0.4
父親はいない
1.2
3.1
不明・無回答
3.1
4.4
就学前保護者（N=1,155）
小学生保護者（N=688）

4　平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について（就学前保護者）

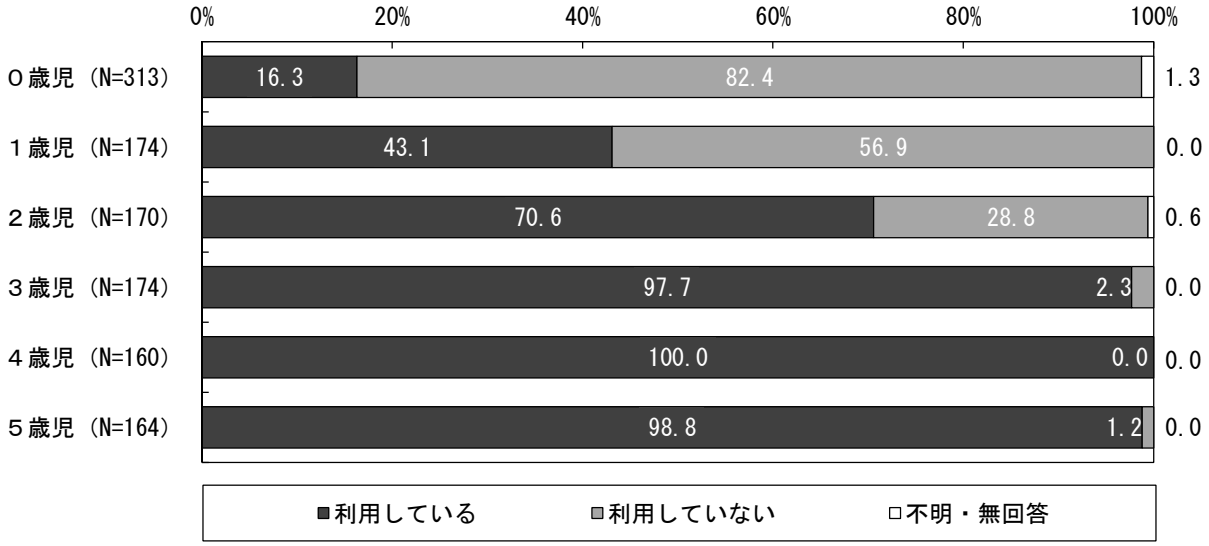
（１）現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無〔就学前保護者調査…問 12〕

現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無についてみると、「利用している」が 63.9%、「利用していない」が 35.7%となっています。

子供の年齢別にみると、０歳児は 16.3%、年齢が上がるほど利用率が上がり、３歳児以上はほぼ 100%となっています。



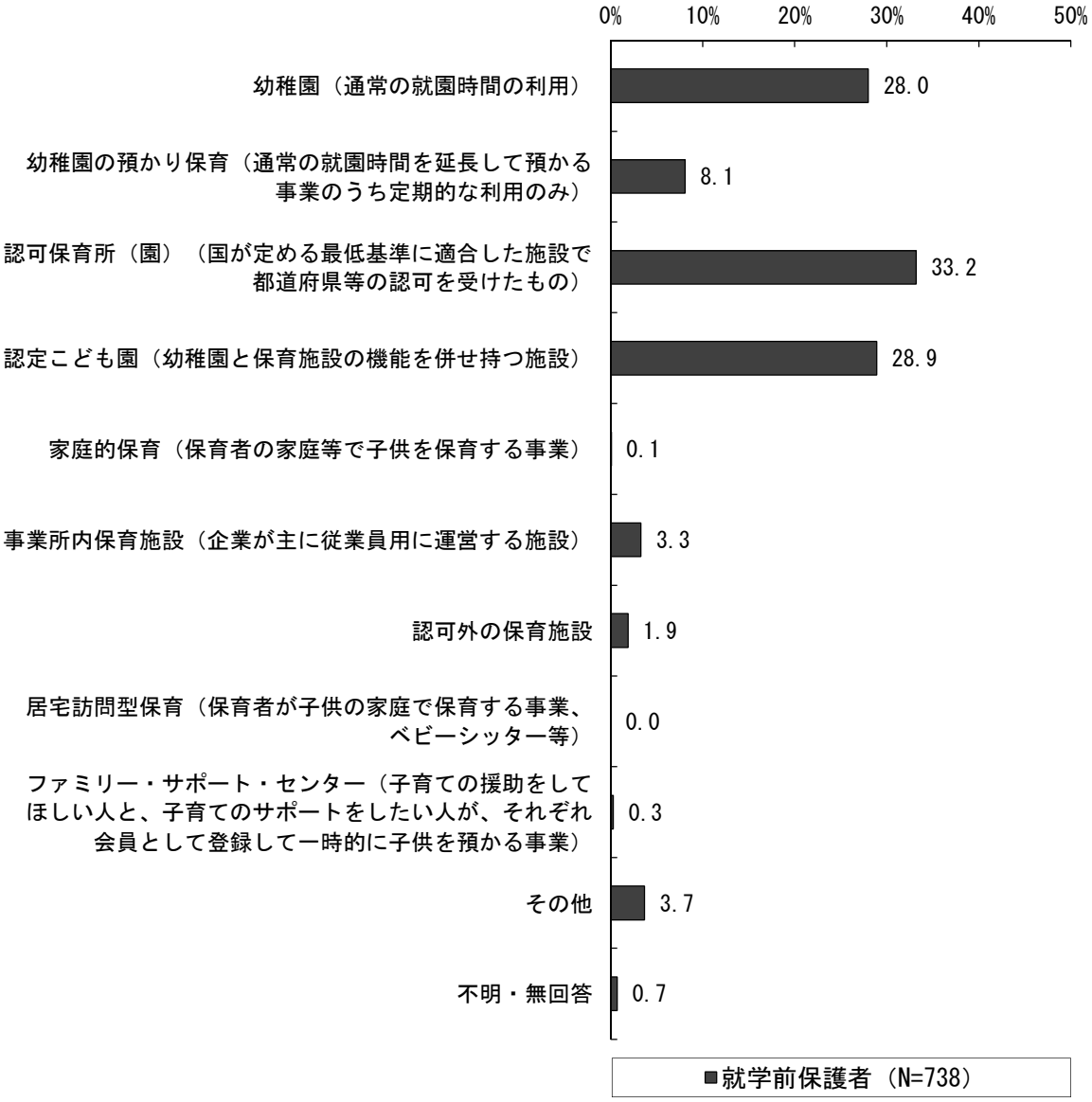
■子供の年齢別にみた定期的な教育・保育事業の利用の有無



（１）で「利用している」を選んだ方

（１）－１　平日に利用している教育・保育事業〈複数回答〉〔就学前保護者調査…問 12-1〕

平日に利用している教育・保育事業についてみると、「認可保育所（園）」が 33.2％で最も多く、次いで「認定こども園」が 28.9％、「幼稚園」が 28.0％となっています。

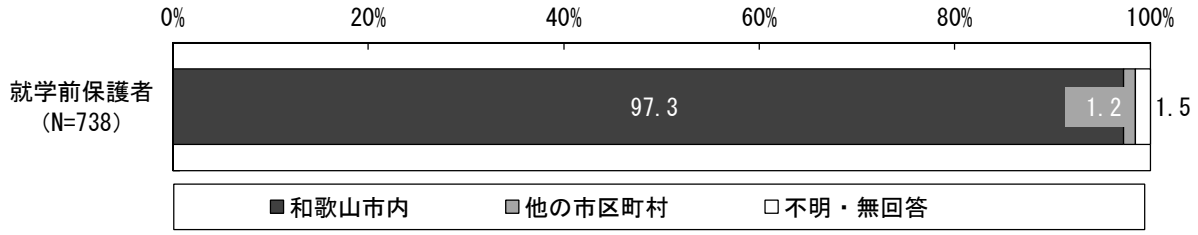


（１）で「利用している」を選んだ方

（１）－２　平日、利用している教育・保育事業の実施場所

〔就学前保護者調査…問 12-2〕

平日、利用している教育・保育事業の実施場所についてみると、「和歌山市内」がほとんどを占めており、「他の市区町村」は 1.2%となっています。

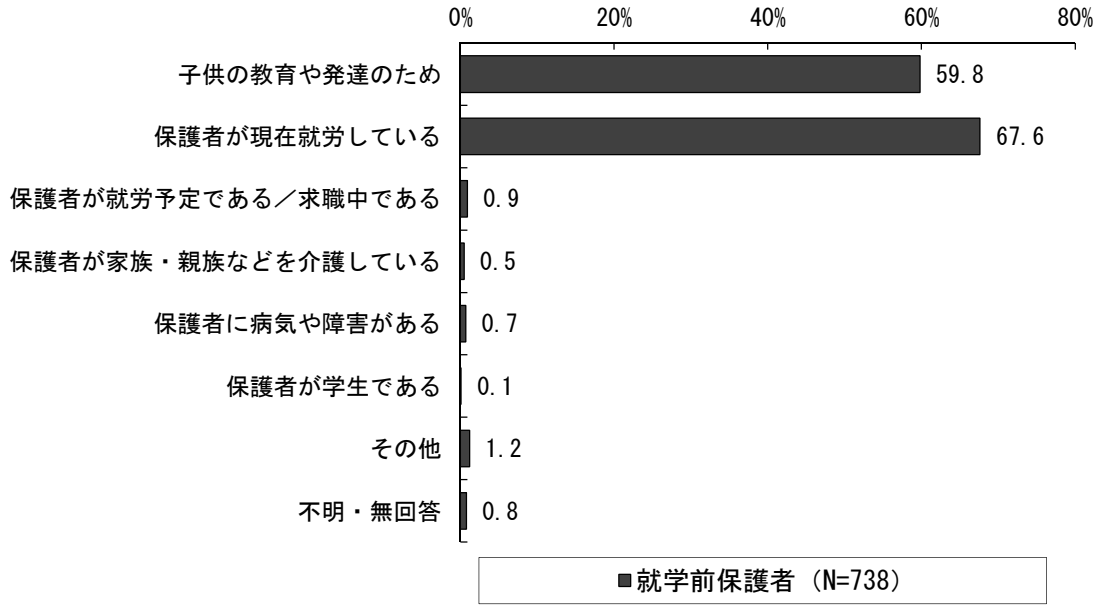


（１）で「利用している」を選んだ方

（１）－３　平日、教育・保育事業を利用している理由〈複数回答〉

〔就学前保護者調査…問 12-3〕

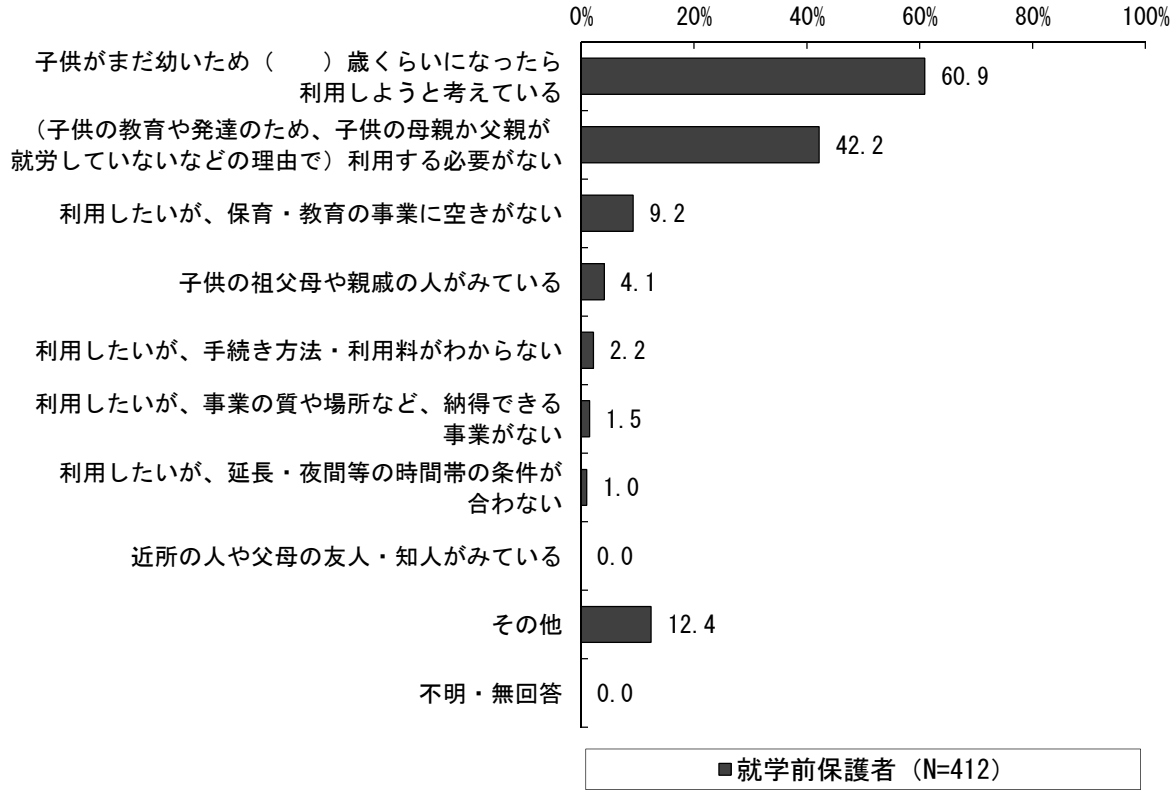
平日、教育・保育事業を利用している主な理由についてみると、「保護者が現在就労している」が 67.6%、「子供の教育や発達のため」が 59.8%で、これ以外の理由は少なくなっています。



（１）で「利用していない」を選んだ方

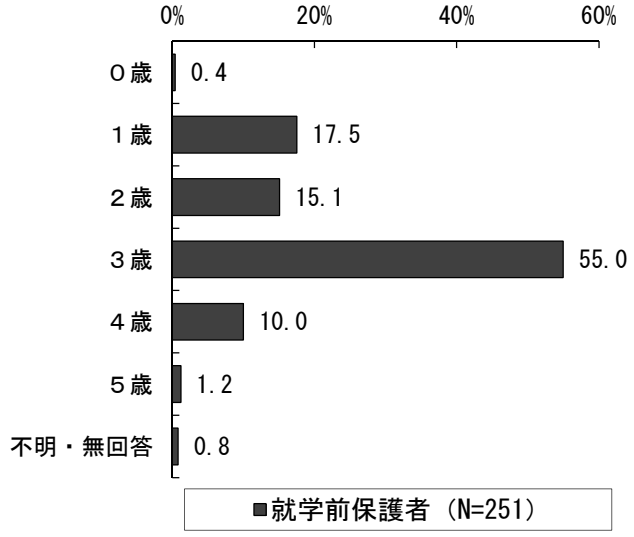
（１）－４　利用していない理由〈複数回答〉〔就学前保護者調査…問 12-4〕

平日、教育・保育事業を利用していない理由についてみると、「子供がまだ幼いため」が 60.9%で最も多く、次いで「(子供の教育や発達のため、子供の母親か父親が就労していないなどの理由で)利用する必要がない」が 42.2%となっています。「子供がまだ幼いため」を選んだ人が、教育・保育事業を利用しようと思う年齢は、「３歳」が 55.0%で最も多く、次いで１歳が 17.5%となっています。



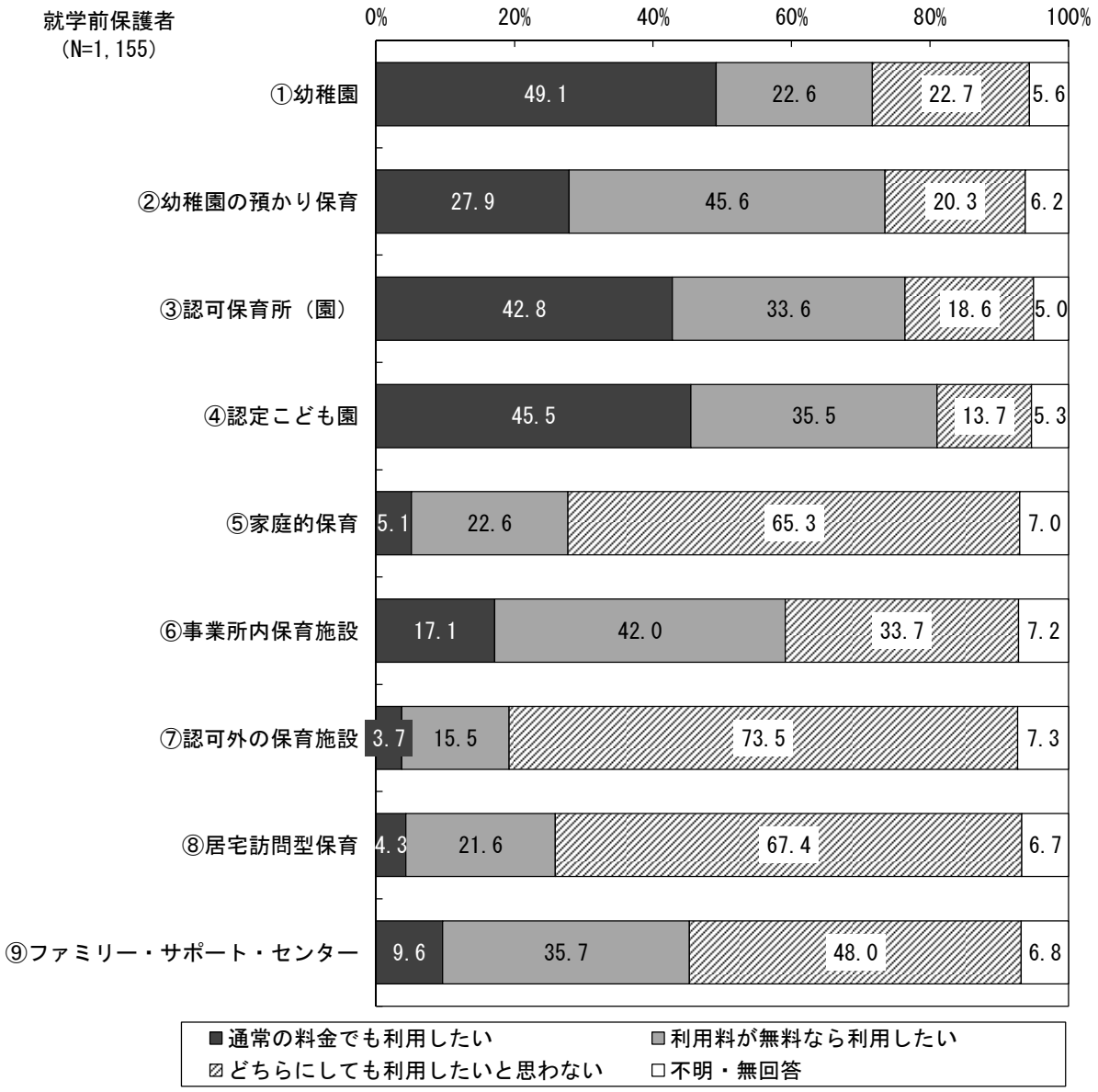
◎利用したい時の子供の年齢〈数量回答〉

《「子供がまだ幼いため（　）歳くらいになったら利用しようと考えている」を選んだ方》



（２）通常の利用料が生じた場合の教育・保育事業の利用希望と、利用料が無料になった場合の利用希望〔就学前保護者調査…問 13〕

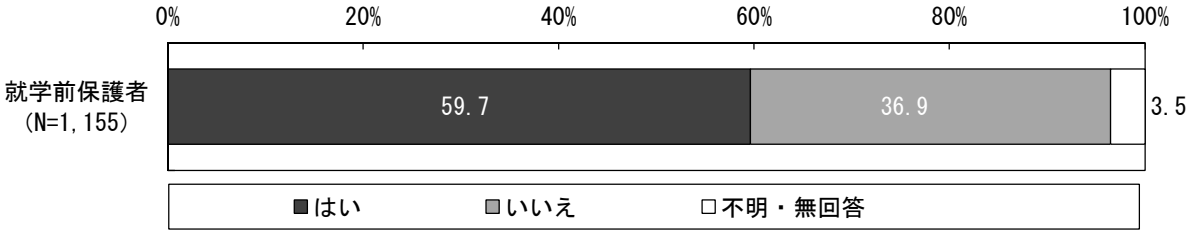
今後、平日に定期的に利用したいと考える教育・保育事業についてみると、「通常の料金でも利用したい」は「幼稚園」「認定こども園」「認可保育所（園）」がいずれも４割台となっています。「利用料が無料なら利用したい」との合計でみると、「認定こども園」が８割を超えて最も利用希望が多くなっています。「利用料が無料なら利用したい」は「幼稚園の預かり保育」「事業所内保育施設」で４割を超えており、無償化による利用の伸びが大きくなることが考えられます。



（２）－１　幼稚園や幼稚園の預かり保育の優先的な利用希望

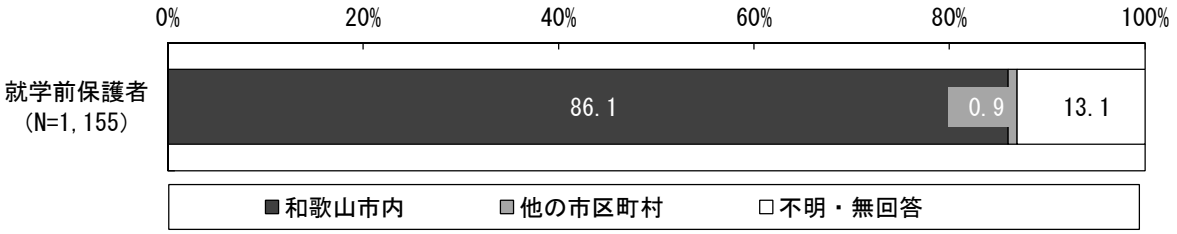
〔就学前保護者調査…問 13-1〕

幼稚園や幼稚園の預かり保育の優先的な利用希望がありますかという質問についてみると、約６割が「はい」と回答しており、他の就学前施設よりも幼稚園の利用を希望しています。



（３）教育・保育事業を利用したい場所〔就学前保護者調査…問 14〕

教育・保育事業を利用したい場所についてみると、「和歌山市内」が 86.1％と大部分を占めています。



５　地域の子育て支援事業の利用状況について

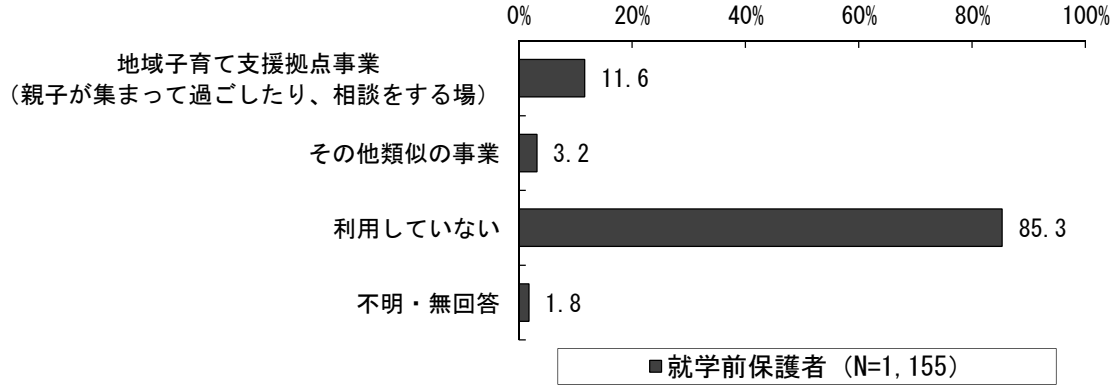
（１）現在の地域子育て支援拠点事業の利用状況（就学前保護者のみ）〈複数回答〉

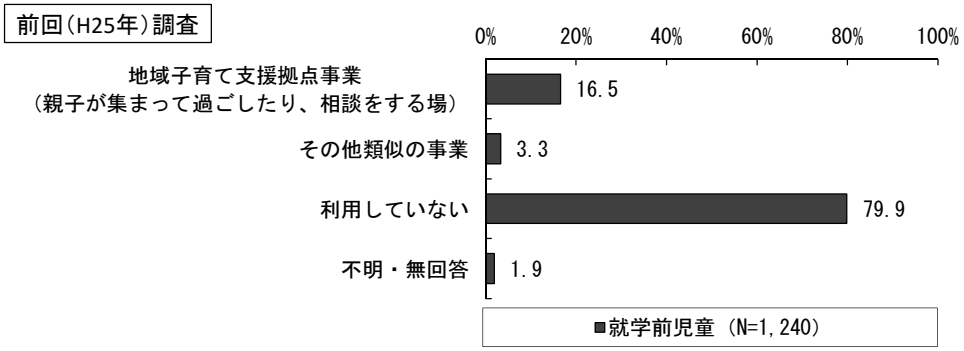
〔就学前保護者調査…問 15〕

現在の地域子育て支援拠点事業の利用状況についてみると、「地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をする場)」が 11.6%、「その他類似の事業」が 3.2%となっています。一方、「利用していない」は 85.3%となっています。前回調査と比較すると、「地域子育て支援拠点事業」が減少し、「利用していない」が増加しています。

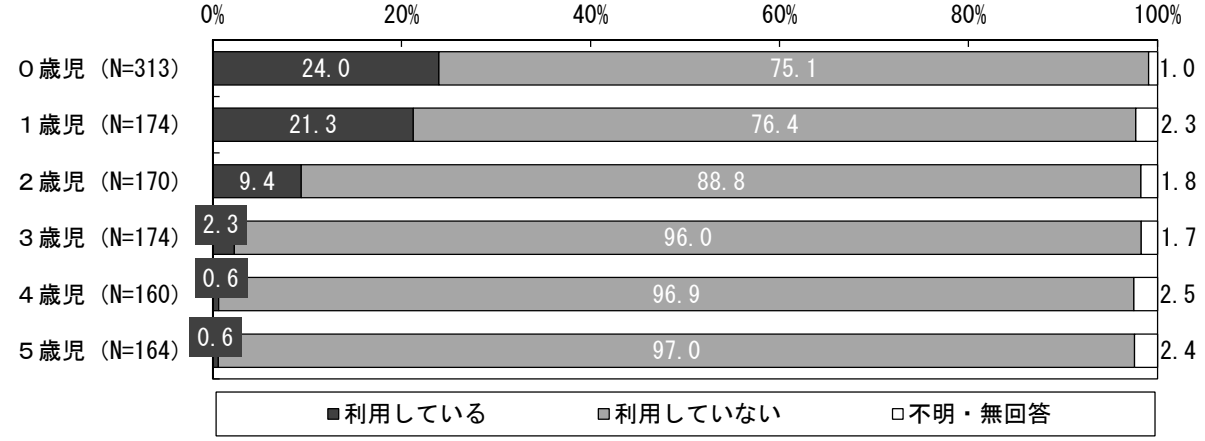
「地域子育て支援拠点事業」の利用を子供の年齢別にみると、０歳児と１歳児の２割台、２歳児の約１割が利用しています。

１ヶ月当たりの利用回数では、「地域子育て支援拠点事業」「その他類似の事業」ともに「１回」の割合が高くなっています。



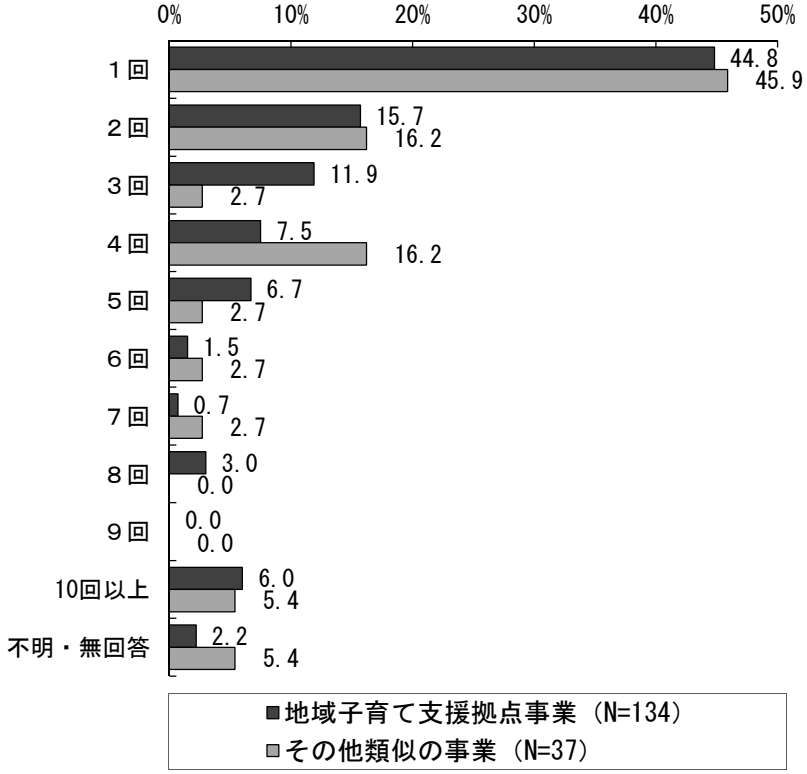


■子供の年齢別にみた「地域子育て支援拠点事業」の利用状況



◎１ヶ月当たりの利用回数〈数量回答〉

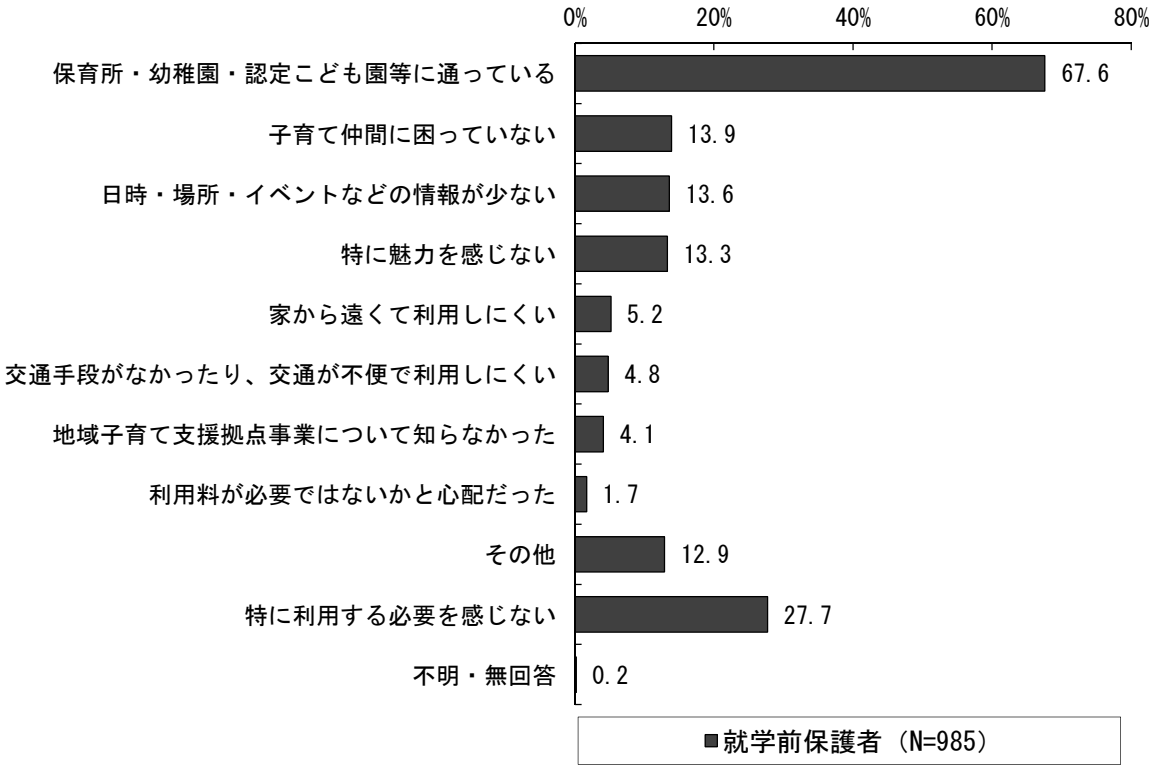
《「地域子育て支援拠点事業」「その他類似の事業」を選んだ方》



（１）で「利用していない」を選んだ方

（１）－１　利用していない理由（就学前保護者のみ）〈複数回答〉〔就学前保護者調査…問 15-1〕

利用していない理由についてみると、「保育所・幼稚園・認定こども園等に通っている」が 67.6%で最も多く、次いで「特に利用する必要を感じない」が 27.7%となっています。

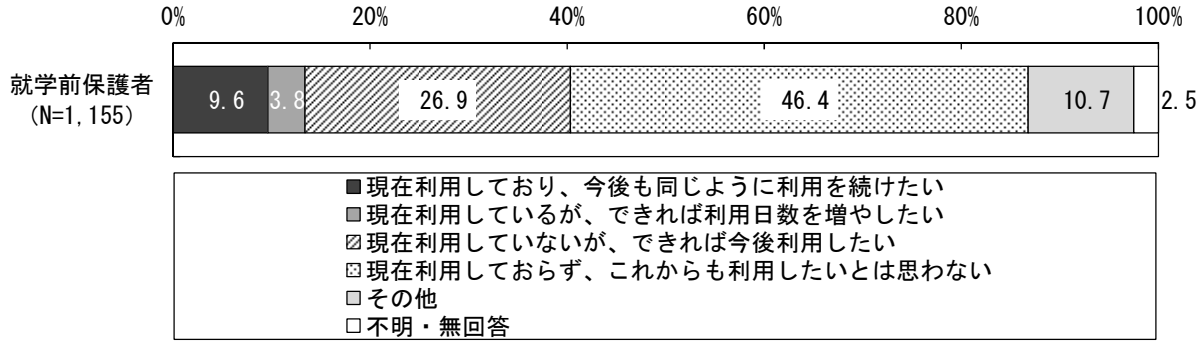


（２）地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向（就学前保護者のみ）

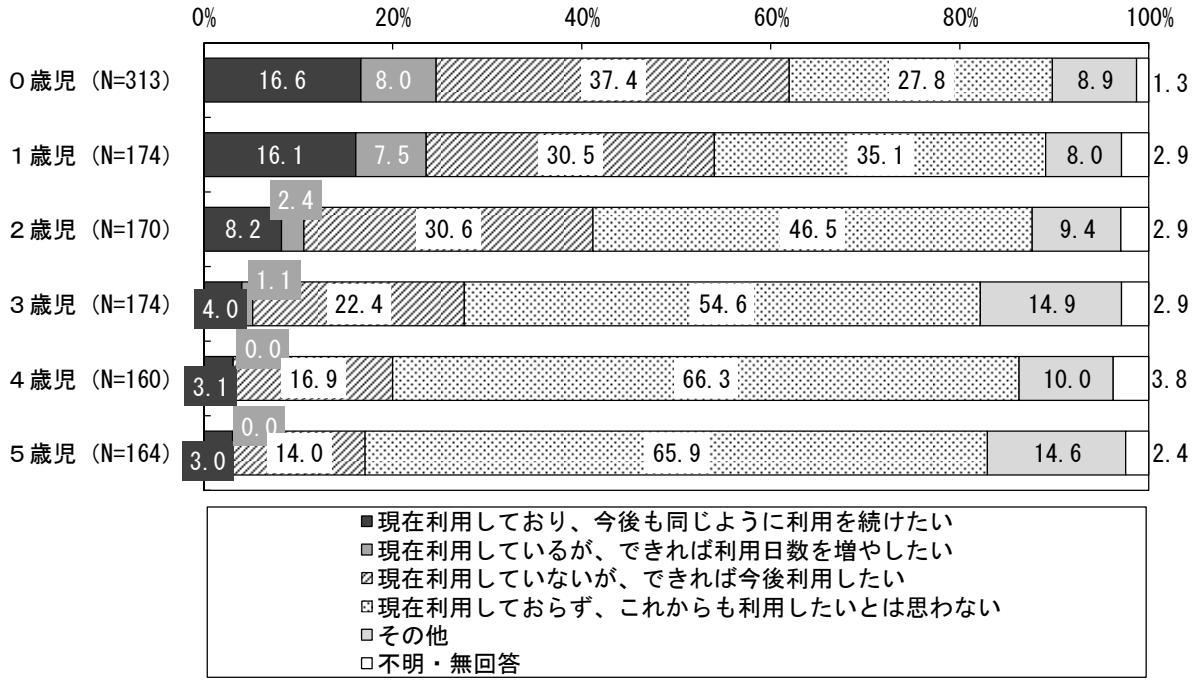
〔就学前保護者調査…問 16〕

地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向についてみると、「現在利用していないが、できれば今後利用したい」が 26.9%と、現在利用しているという回答の約２倍となっており、潜在的な利用ニーズが少なくないことがうかがえます。

子供の年齢別にみると、０～２歳児ではいずれも３割台が「現在利用していないが、できれば今後利用したい」と回答しています。



■子供の年齢別にみた地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向



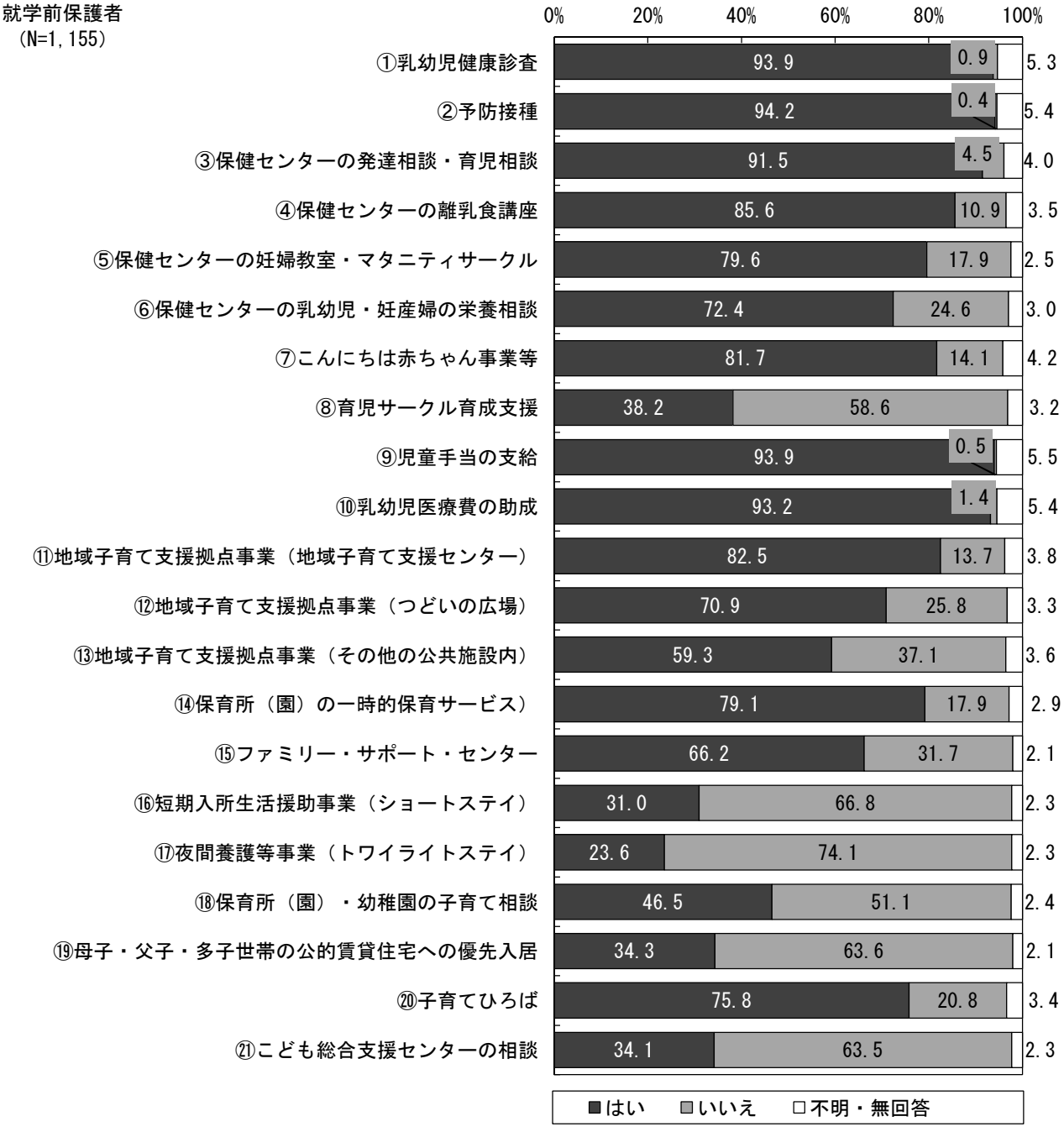
（３）子育て支援に関する事業の認知度と利用経験、今後の利用意向

〔就学前保護者調査…問 17、小学生保護者調査…問 19〕

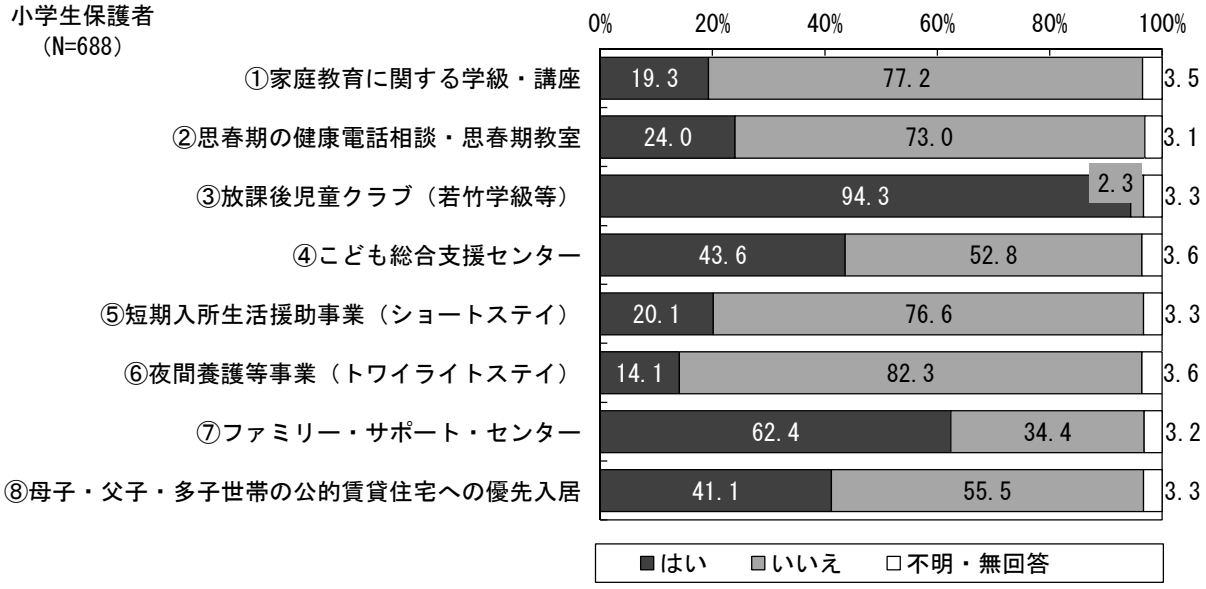
子育て支援に関する事業の認知度についてみると、就学前保護者では「乳幼児健康診査」「予防接種」「保健センターの発達相談・育児相談」「児童手当の支給」「乳幼児医療費の助成」を知っているかどうかについては９割以上が「はい」と回答しています。一方で、「育児サークル育成支援」「短期入所生活援助事業」「夜間養護等事業」「保育所（園）・幼稚園の子育て相談」「母子・父子・多子世帯の公的賃貸住宅への優先入居」、「こども総合支援センターの相談」については、認知度が半数未満となっています。

小学生保護者については、「放課後児童クラブ」「ファミリー・サポート・センター」以外の認知度が低くなっています。

◎認知度（Ａ：知っている）

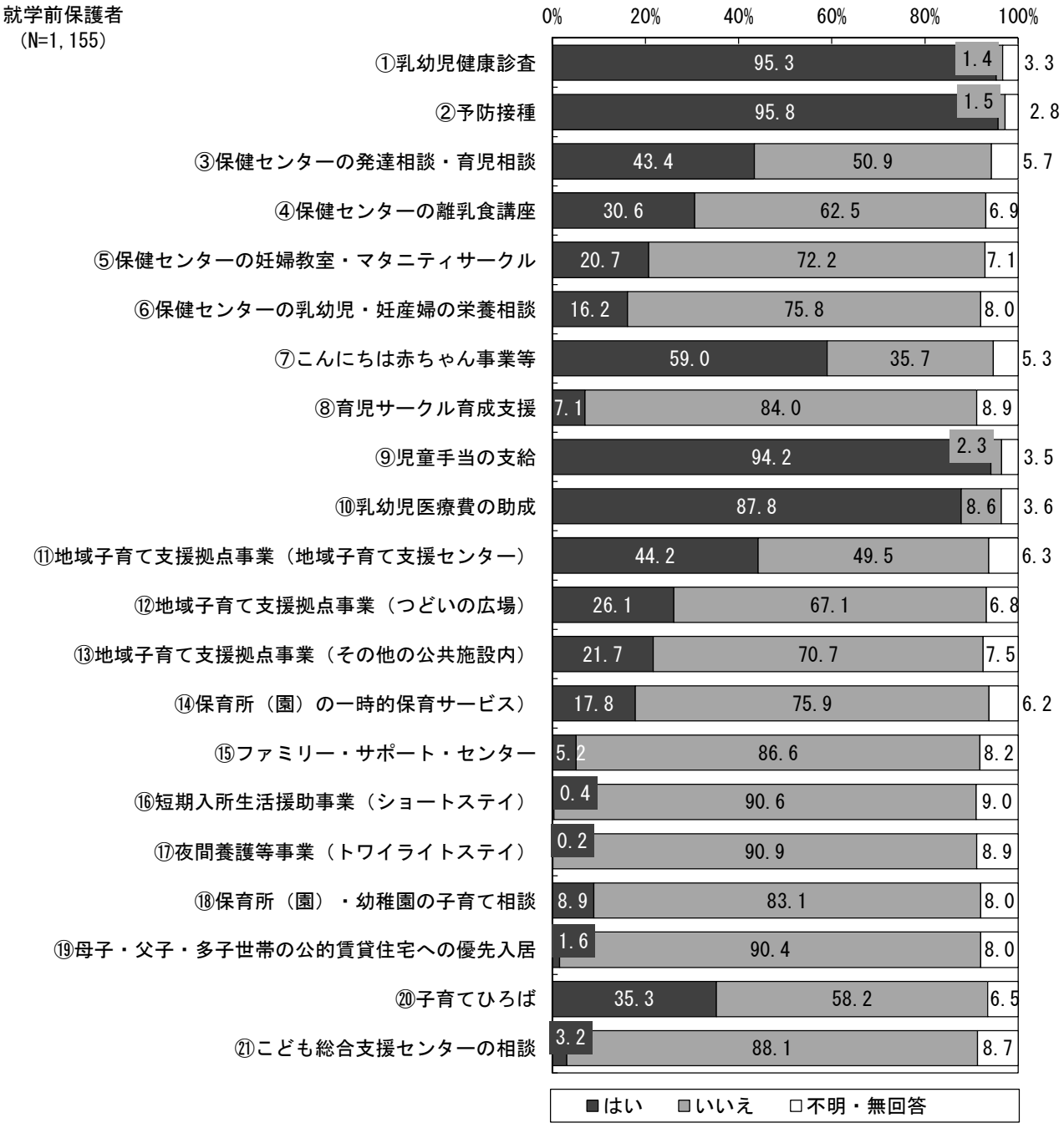


小学生保護者
（N=688）

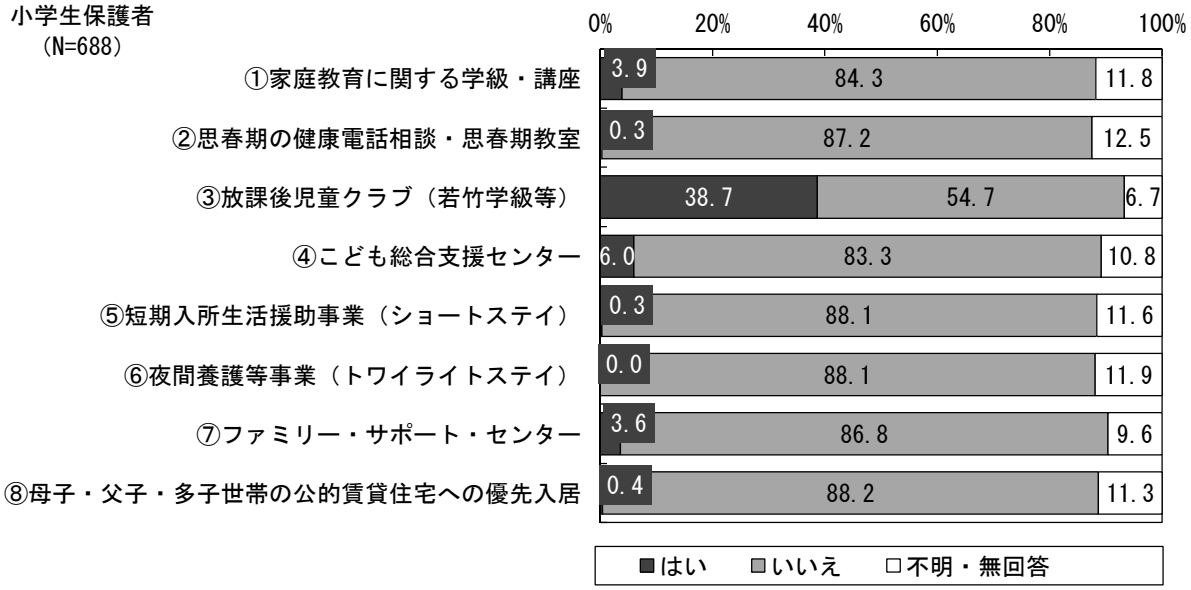

0%
20%
40%
60%
80%
100%
①家庭教育に関する学級・講座
19.3
77.2
3.5
②思春期の健康電話相談・思春期教室
24.0
73.0
3.1
③放課後児童クラブ（若竹学級等）
94.3
2.3
3.3
④こども総合支援センター
43.6
52.8
3.6
⑤短期入所生活援助事業（ショートステイ）
20.1
76.6
3.3
⑥夜間養護等事業（トワイライトステイ）
14.1
82.3
3.6
⑦ファミリー・サポート・センター
62.4
34.4
3.2
⑧母子・父子・多子世帯の公的賃貸住宅への優先入居
41.1
55.5
3.3
■はい
■いいえ
□不明・無回答

子育て支援に関する事業の利用経験についてみると、就学前では「乳幼児健康診査」「予防接種」「児童手当の支給」を利用したことがあるかどうかについては、９割以上が「はい」と回答しています。全体的に認知度の低い事業については、利用経験も少なくなっています。

◎利用経験（Ｂ：利用したことがある）

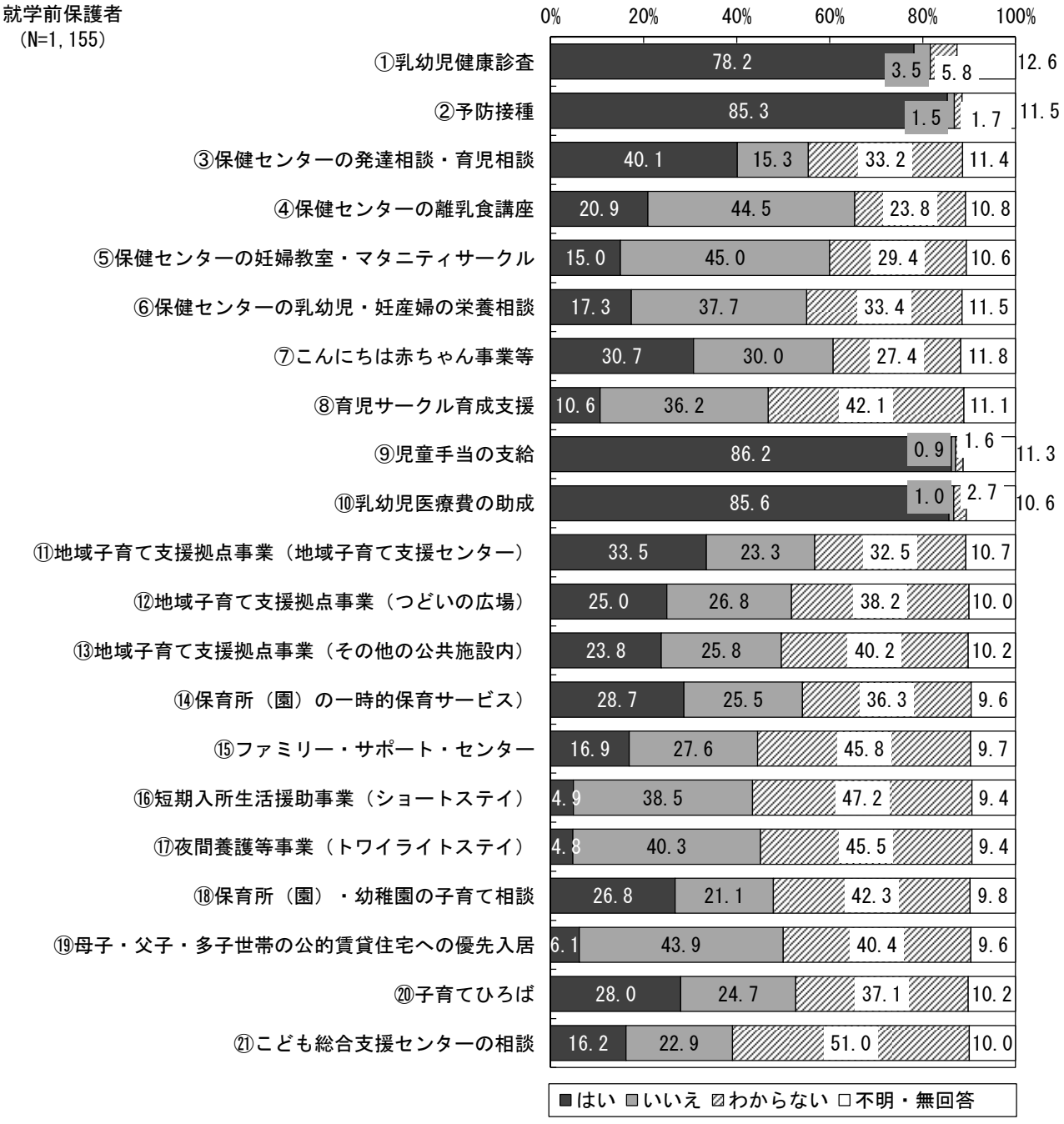


小学生保護者
（N=688）

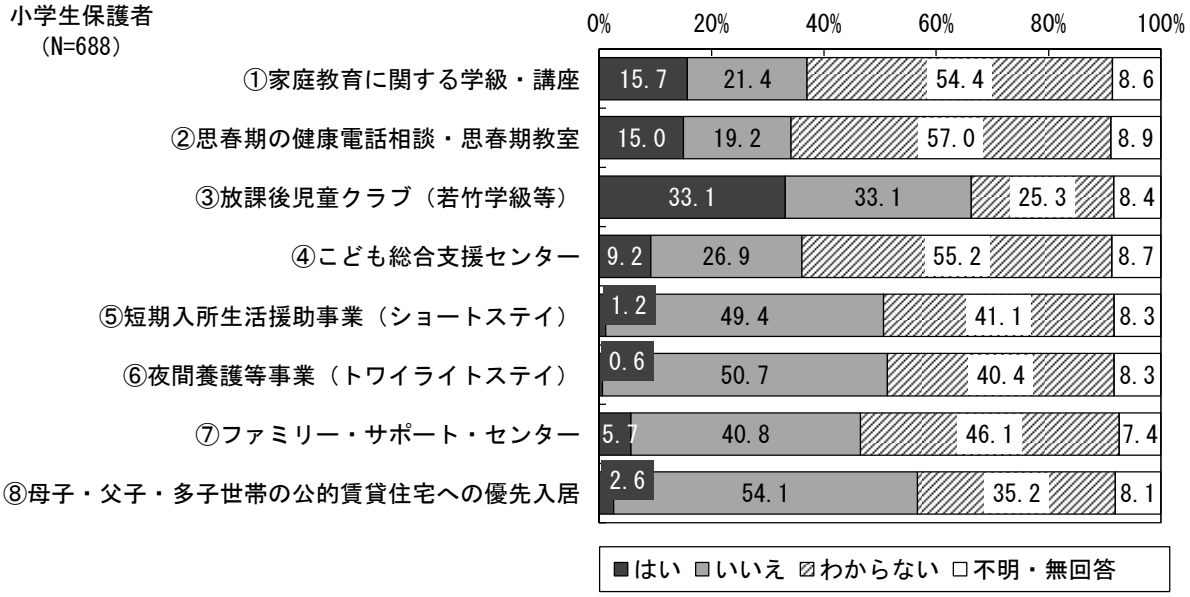

0%
20%
40%
60%
80%
100%
①家庭教育に関する学級・講座
3.9
84.3
11.8
②思春期の健康電話相談・思春期教室
0.3
87.2
12.5
③放課後児童クラブ（若竹学級等）
38.7
54.7
6.7
④こども総合支援センター
6.0
83.3
10.8
⑤短期入所生活援助事業（ショートステイ）
0.3
88.1
11.6
⑥夜間養護等事業（トワイライトステイ）
0.0
88.1
11.9
⑦ファミリー・サポート・センター
3.6
86.8
9.6
⑧母子・父子・多子世帯の公的賃貸住宅への優先入居
0.4
88.2
11.3
■はい
■いいえ
□不明・無回答

今後の利用意向についても、利用経験の回答の多いものが多くなっていますが、就学前保護者の「保育所（園）・幼稚園の子育て相談」、小学生の「思春期の健康電話相談・思春期教室」については利用経験と利用意向の差が大きく、現在は利用していないが今後利用したいと考えている人が多いことがうかがえます。

◎今後の利用意向（Ｃ：今後利用したい）



小学生保護者
（N=688）


0%
20%
40%
60%
80%
100%
①家庭教育に関する学級・講座
15.7
21.4
54.4
8.6
②思春期の健康電話相談・思春期教室
15.0
19.2
57.0
8.9
③放課後児童クラブ（若竹学級等）
33.1
33.1
25.3
8.4
④こども総合支援センター
9.2
26.9
55.2
8.7
⑤短期入所生活援助事業（ショートステイ）
1.2
49.4
41.1
8.3
⑥夜間養護等事業（トワイライトステイ）
0.6
50.7
40.4
8.3
⑦ファミリー・サポート・センター
5.7
40.8
46.1
7.4
⑧母子・父子・多子世帯の公的賃貸住宅への優先入居
2.6
54.1
35.2
8.1
■はい ■いいえ ▨わからない □不明・無回答

前回調査と比較すると、「こんにちは赤ちゃん事業等」「地域子育て支援拠点事業(つどいの広場)」の認知度と利用経験が増加し、「育児サークル育成支援」の認知度と利用経験が減少しています。「子ども総合支援センター」「ファミリー・サポート・センター」の認知度もやや増加しています。

■前回調査との比較（無回答を除いて再集計した数値で比較）

	認知有		利用経験有		利用意向有	
	H25 年	H30 年	H25 年	H30 年	H25 年	H30 年
就学前保護者						
①乳幼児健康診査	99.0	99.1	97.2	98.6	86.8	89.5
②予防接種	99.8	99.6	98.0	98.6	95.7	96.4
③保健センターの発達相談・育児相談	96.1	95.3	46.7	46.0	45.7	45.3
④保健センターの離乳食講座	88.5	88.7	30.3	32.9	24.0	23.4
⑤保健センターの妊婦教室・マタニティサークル	86.3	81.6	23.5	22.3	20.5	16.8
⑥保健センターの乳幼児・妊産婦の栄養相談	80.7	74.6	19.0	17.6	24.2	19.6
⑦こんにちは赤ちゃん事業等	74.7	85.3	49.4	62.3	32.2	34.8
⑧育児サークル育成支援	52.3	39.5	12.5	7.8	19.4	11.9
⑨児童手当の支給	99.2	99.4	96.2	97.6	95.1	97.2
⑩乳幼児医療費の助成	98.3	98.5	91.7	91.1	93.5	95.8
⑪地域子育て支援拠点事業(地域子育て支援センター)	88.6	85.8	47.8	47.2	46.4	37.5
⑫地域子育て支援拠点事業(つどいの広場)	59.4	73.3	19.7	28.0	31.4	27.8
⑭保育所(園)の一時的保育サービス)	81.6	81.5	14.8	19.0	37.0	31.7
⑮ファミリー・サポート・センター	59.3	67.6	5.7	5.7	21.8	18.7
⑯短期入所生活援助事業(ショートステイ)	24.4	31.7	1.2	0.4	5.8	5.4
⑰夜間養護等事業(トワイライトステイ)	18.9	24.2	1.2	0.2	5.2	5.3
⑱保育所(園)・幼稚園の子育て相談	50.7	47.6	10.0	9.7	34.2	29.7
⑲母子・父子・多子世帯の公的賃貸住宅への優先入居	37.5	35.0	1.1	1.7	8.3	6.7
⑳子育てひろば	83.7	78.5	46.9	37.8	43.6	31.2
㉑こども総合支援センターの相談	31.7	34.9	4.6	3.5	20.3	18.0
小学生保護者						
①家庭教育に関する学級・講座	21.0	20.0	3.7	4.4	15.3	17.2
②思春期の健康電話相談・思春期教室	25.8	24.8	0.2	0.3	18.5	16.5
③放課後児童クラブ(若竹学級等)	98.1	97.5	35.7	41.5	31.0	36.1
④こども総合支援センター	37.7	45.2	4.5	6.7	9.2	10.1
⑤短期入所生活援助事業(ショートステイ)	17.0	20.8	0.5	0.3	2.5	1.3
⑥夜間養護等事業(トワイライトステイ)	11.2	14.6	0.0	0.0	1.7	0.7
⑦ファミリー・サポート・センター	55.7	64.5	3.0	4.0	7.7	6.2
⑧母子・父子・多子世帯の公的賃貸住宅への優先入居	40.9	42.5	0.8	0.5	3.3	2.8

※就学前保護者の「⑬地域子育て支援拠点事業（その他の公共施設内)」は前回調査に対応する項目なし

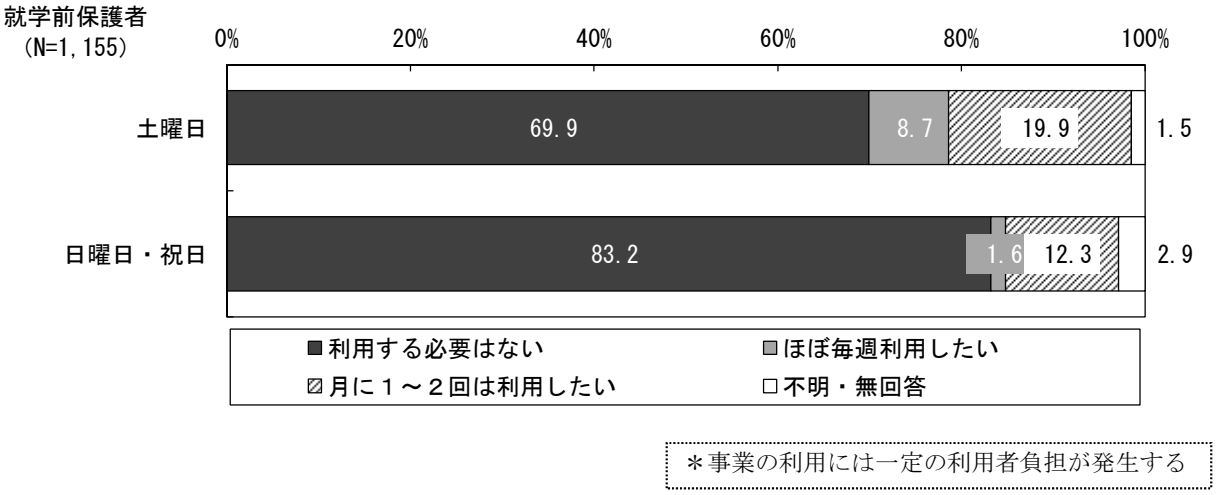
６　土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について（就学前保護者）

（１）土曜日と日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望（一時的な利用は除く）

〔就学前保護者調査…問 18〕

土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望についてみると、「ほぼ毎週利用したい」は土曜日 8.7%、日曜日・祝日 1.6%となっており、「月に１～２回は利用したい」と合わせると、土曜日は 28.6%、日曜日・祝日は 13.9%が利用希望を持っています。

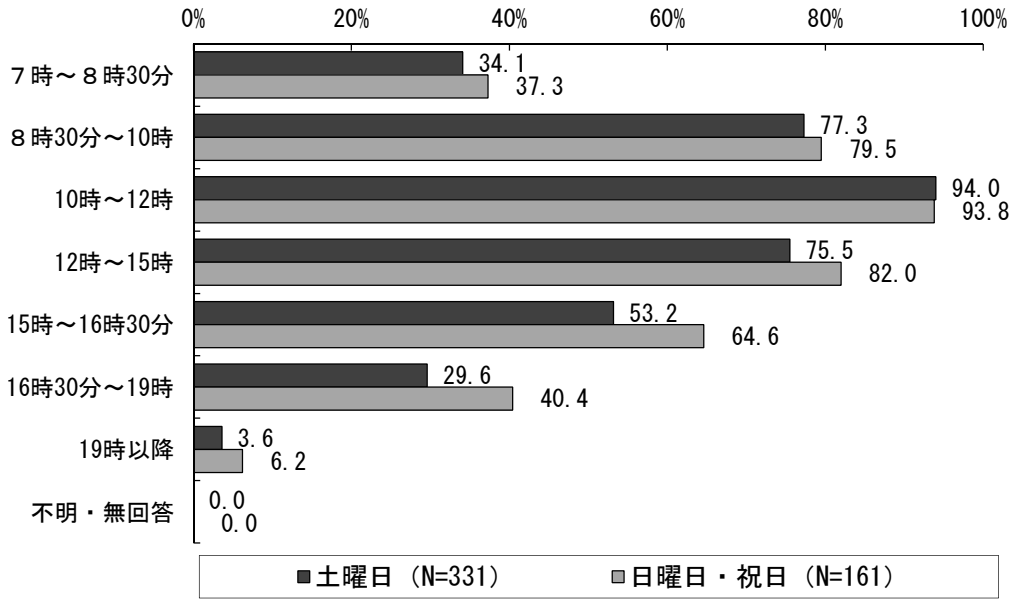
利用を希望する利用時間帯については、土曜日、日曜日・祝日ともに８時 30 分から 16 時 30 分の間の利用を希望する人が半数を超えています。



＊事業の利用には一定の利用者負担が発生する

◎利用したい時間帯〈複数回答〉

《「ほぼ毎週利用したい」「月に１～２回は利用したい」を選んだ方》



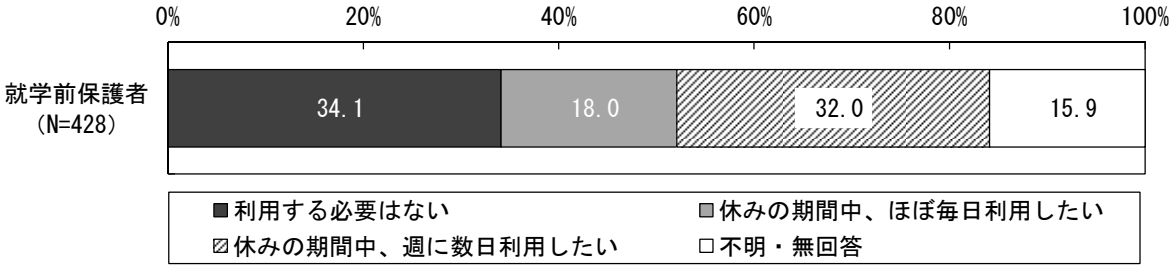
「幼稚園」または「認定こども園（教育部分）」を利用している方

（２）夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望

〔就学前保護者調査…問 19〕

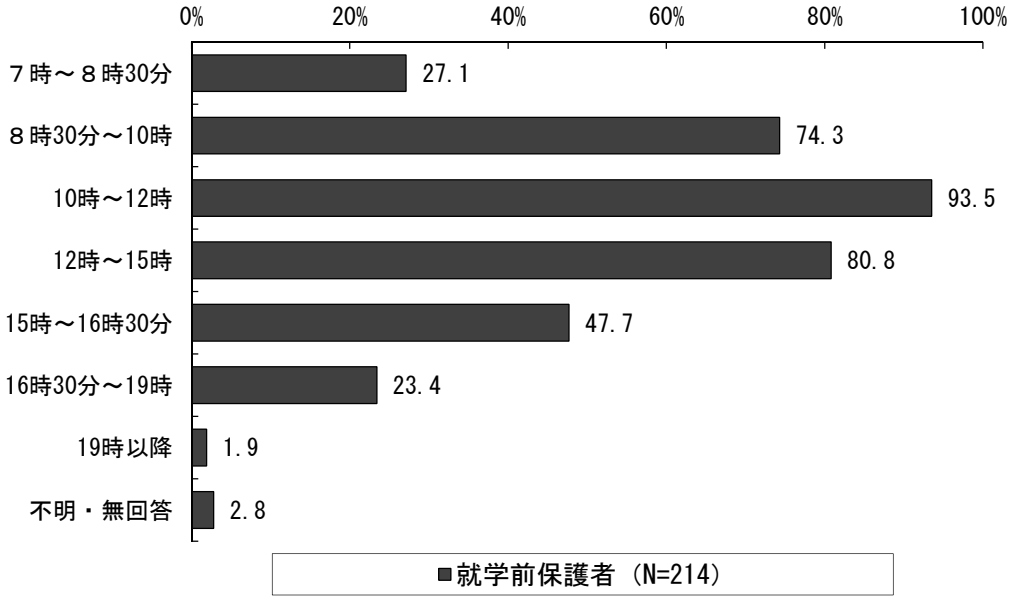
夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望についてみると、「ほぼ毎日利用したい」が 18.0%、「週に数日利用したい」と合わせると 50.0%が利用希望を持っています。

利用したい時間帯については、８時 30 分から 15 時の時間帯の希望が特に多くなっています。



◎利用したい時間帯〈複数回答〉

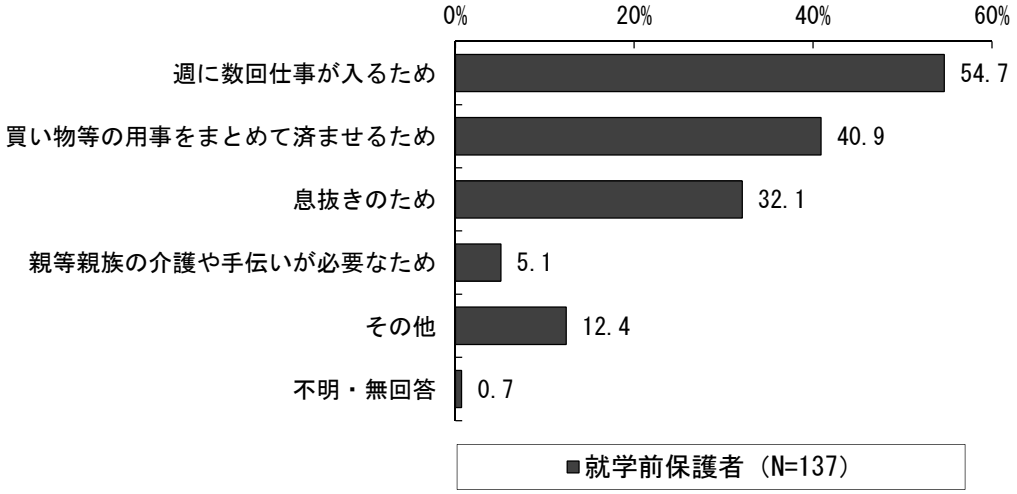
《「休みの期間中、ほぼ毎週利用したい」「休みの期間中、週に数日利用したい」を選んだ方》



（２）で「休みの期間中、週に数日利用したい」を選んだ方

（２）－１　毎日ではなく、たまに利用したい理由〈複数回答〉〔就学前保護者調査…問 19-1〕

毎日ではなく、たまに利用したい理由についてみると、「週に数回仕事が入るため」が 54.7%で最も多く、次いで「買い物等の用事をまとめて済ませるため」が 40.9%、「息抜きのため」が 32.1%となっています。

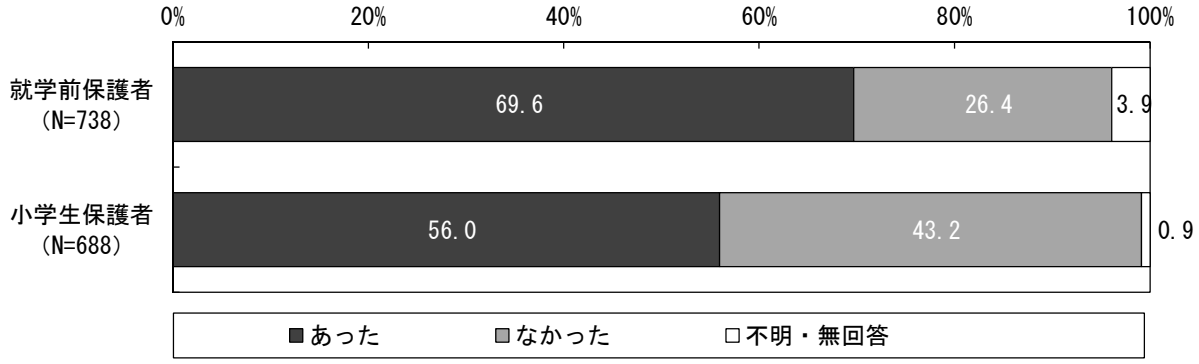


7　病気の際の対応について

就学前保護者は平日の教育・保育事業を利用する方

（１）この１年間に、子供が病気やケガで通常の事業が利用できなかったり、小学校を休まなければならなかったことの有無〔就学前保護者調査…問 20、小学生保護者調査…問 16〕

この１年間に、子供が病気やケガで通常の事業が利用できなかったことが「あった」という回答は就学前保護者で 69.6%、小学生保護者で学校を休まなければならなかったことが「あった」という回答は 56.0%となっています。

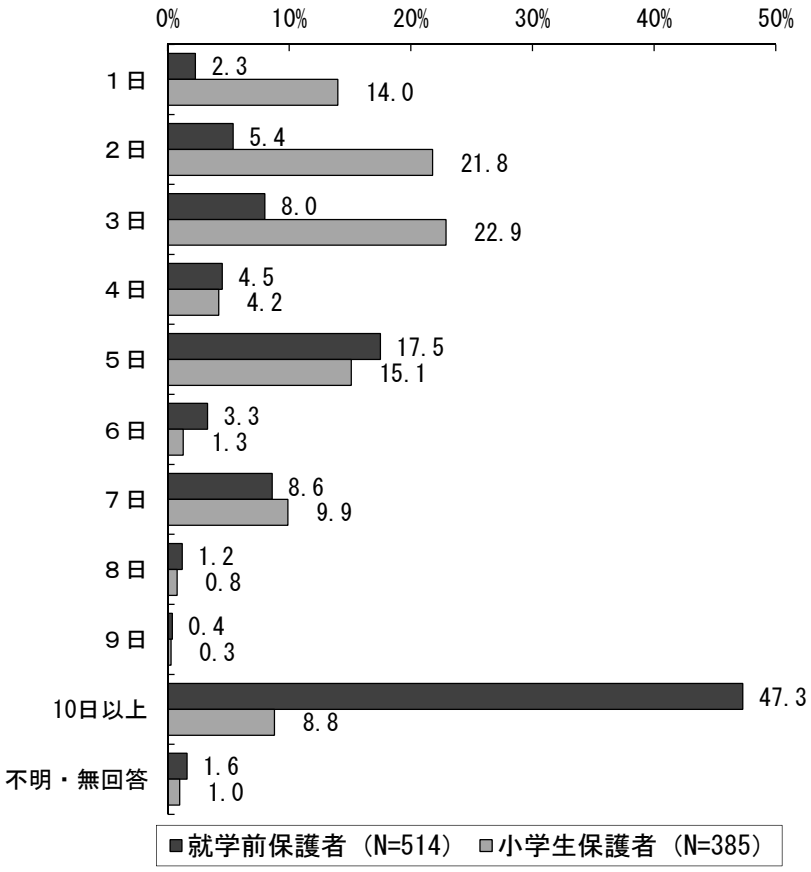


（１）で「あった」を選んだ方

（１）－１　１年間に通常の利用ができなかった（小学生の場合は、病気やケガで小学校を休まなければならなかった）日数〈数量回答〉

〔就学前保護者調査…問 20-1、小学生保護者調査…問 16-1〕

１年間に通常の利用ができなかった日数についてみると、就学前保護者は 10 日以上の回答が約半数を占めており、小学生保護者では３日以内が約６割となっています。

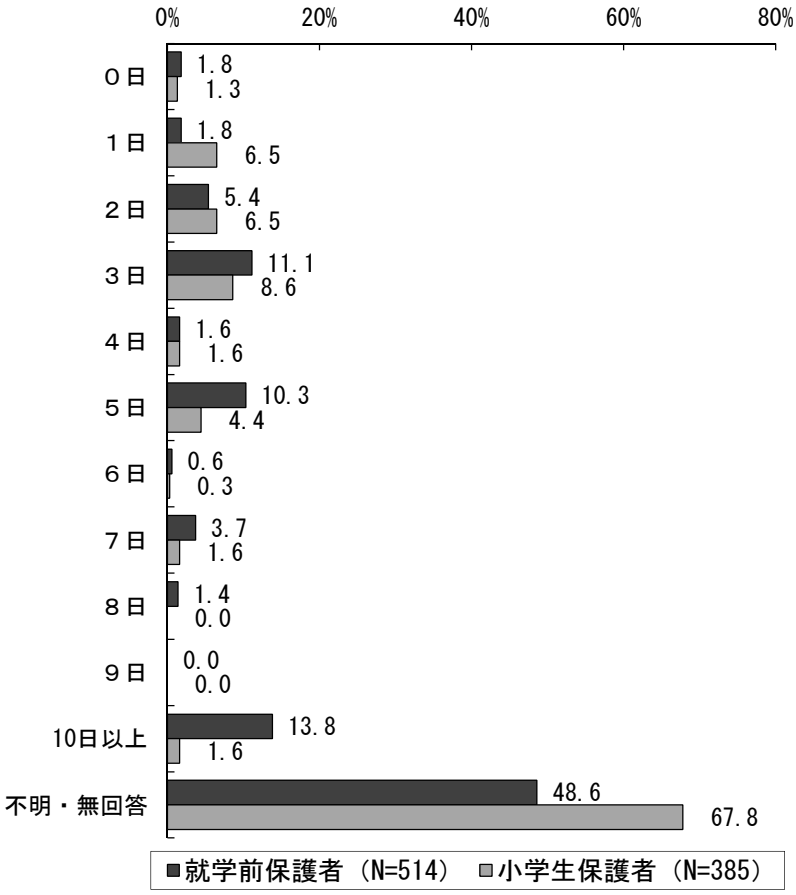


（１）で「あった」を選んだ方

（１）－２　通常の利用ができなかった日数のうち、病児・病後児保育（病児・病後児のための保育施設等）を利用したいと思った日数〈数量回答〉

〔就学前保護者調査…問 20-2、小学生保護者調査…問 16-2〕

病児・病後児保育（病児・病後児のための保育施設等）を利用したいと思った日数についてみると、就学前保護者では 10 日以上、５日、３日がいずれも１割を超えています。小学生保護者で利用希望がある回答では１～３日が多くなっています。



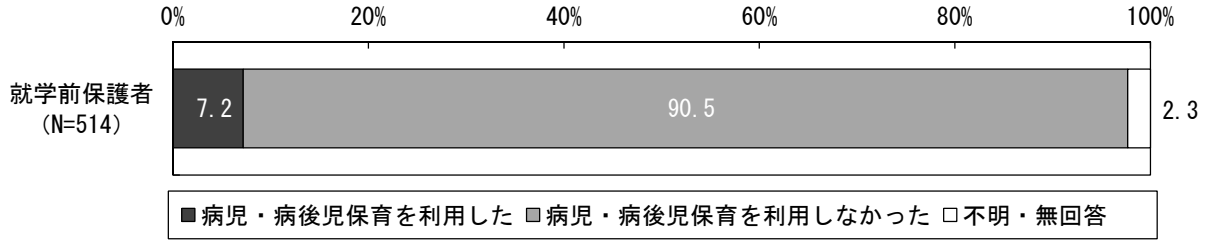
（１）で「あった」を選んだ方

（１）－３　その際の病児・病後児保育の利用状況（就学前保護者のみ）

〔就学前保護者調査…問 20-3〕

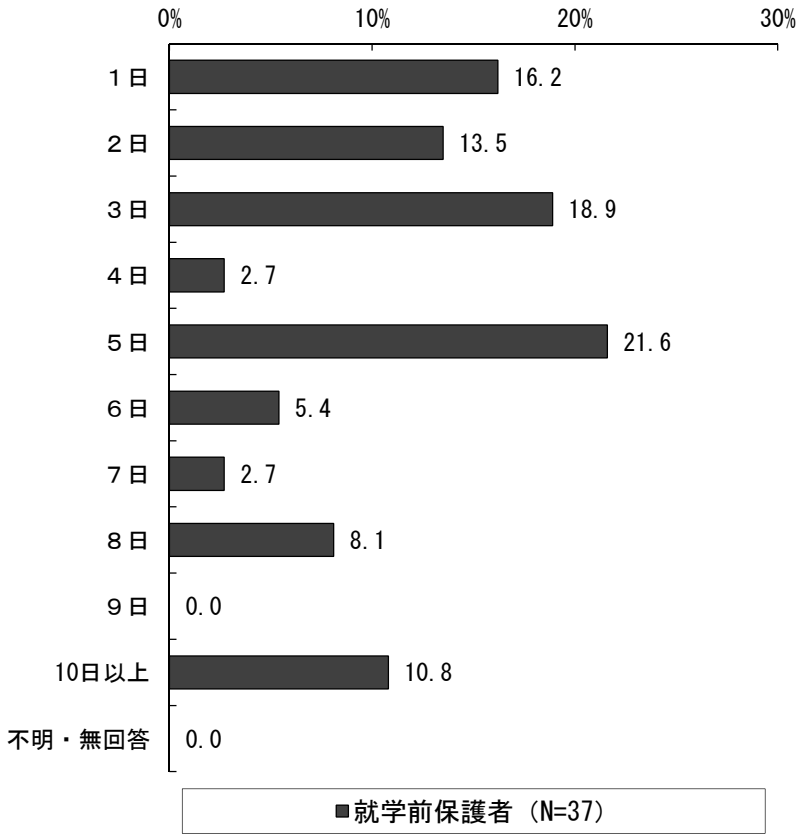
病児・病後児保育を利用したのは全体の 7.2%となっています。

利用日数については、５日以内の回答が全体の約７割となっている一方、10 日以上という回答も１割あります。



◎病児・病後児保育を利用した方の年間日数〈数量回答〉

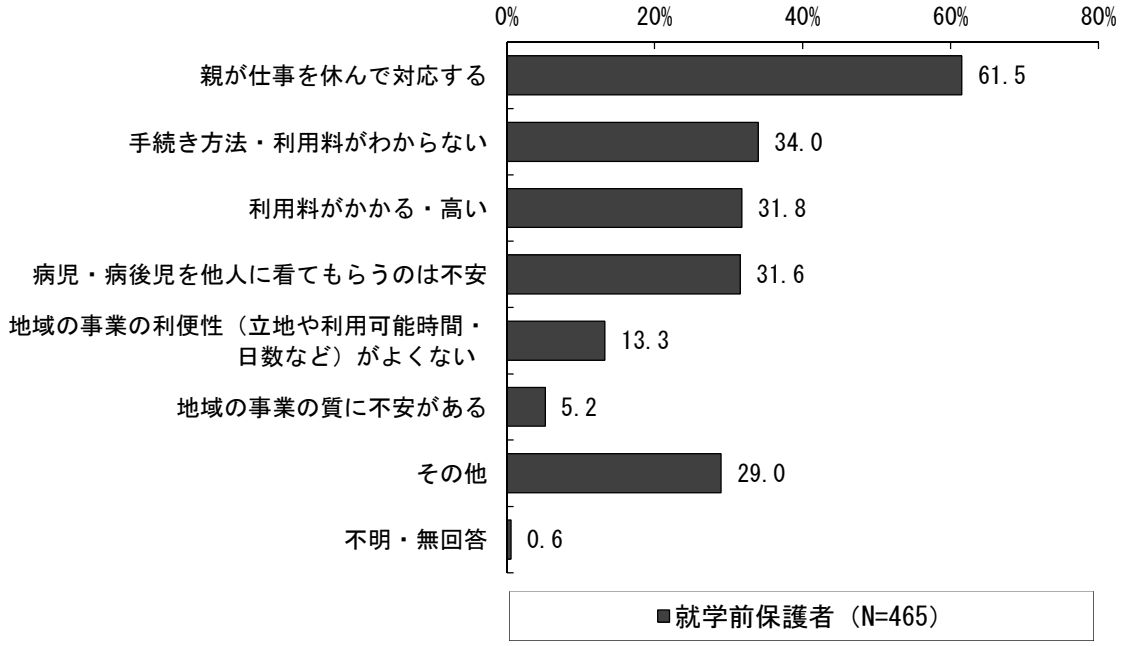
《「病児・病後児保育を利用した」を選んだ方》



（１）－３で「病児・病後児保育を利用しなかった」を選んだ方

（１）－４　利用しなかった理由（就学前保護者のみ）〈複数回答〉〔就学前保護者調査…問 20-4〕

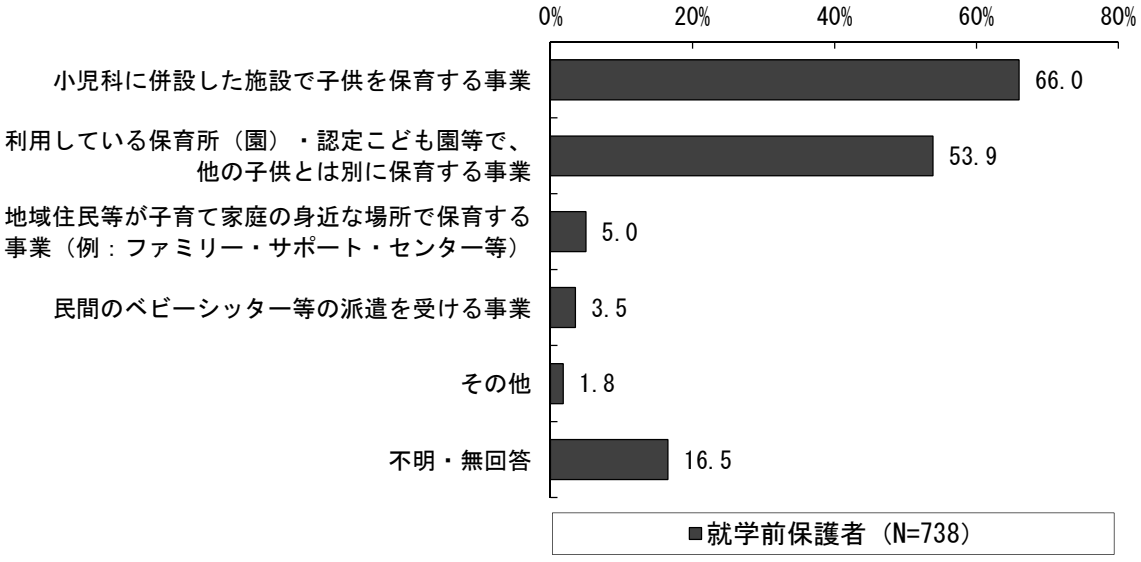
利用しなかった理由についてみると、「親が仕事を休んで対応する」が 61.5%と最も多く、次いで「手続き方法・利用料がわからない」「利用料がかかる・高い」「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が３割台となっています。



平日の定期的な教育・保育事業を利用している方

（２）病児・病後児保育を利用するとした場合に望ましいと思う事業形態（就学前保護者のみ）〈複数回答〉〔就学前保護者調査…問 21〕

病児・病後児保育を利用するとした場合に望ましいと思う事業形態についてみると、「小児科に併設した施設で子供を保育する事業」と「利用している保育所（園）・認定こども園等で他の子供とは別に保育する事業」が５割を超えて多くなっています。



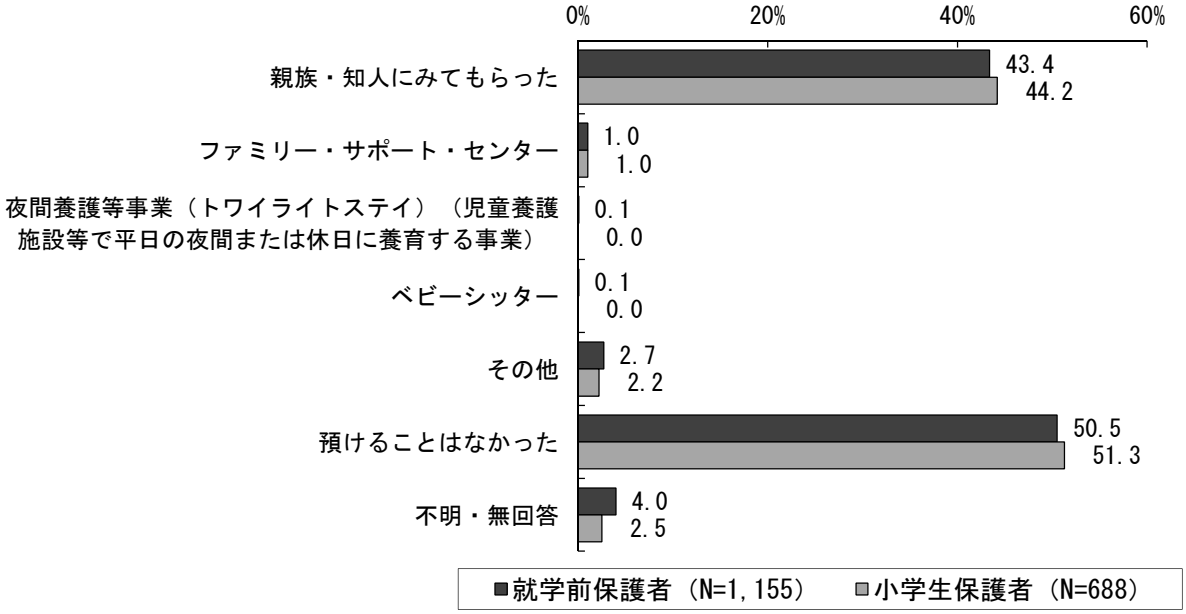
８　不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

（１）日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、不定期に利用している事業〈複数回答〉

〔就学前保護者調査…問 22、小学生保護者調査…問 17〕

一時預かりなど、不定期に利用する必要がある事業についてみると、「預けることはなかった」が就学前保護者、小学生保護者ともに約５割、「親族・知人にみてもらった」はいずれも約４割となっています。

預けた日数については、年に 10 日以上の回答が多くなっています。



◎１年間の利用日数〈数量回答〉《「預けることはなかった」以外を選んだ方》

就学前保護者	親族・知人にみてもらった N=501		ファミリー・サポート・センター N=11		その他 N=31	
	件数	%	件数	%	件数	%
1日	27	5.4	1	9.1	3	9.7
2日	35	7.0	3	27.3	6	19.4
3日	61	12.2	0	0.0	6	19.4
4日	6	1.2	0	0.0	0	0.0
5日	61	12.2	2	18.2	2	6.5
6日	9	1.8	0	0.0	0	0.0
7日	13	2.6	0	0.0	2	6.5
8日	2	0.4	0	0.0	0	0.0
9日	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10日以上	257	51.3	5	45.5	11	35.5
不明・無回答	30	6.0	0	0.0	1	3.2

小学生保護者	親族・知人にみてもらった N=304		ファミリー・サポート・センター N=7		その他 N=15	
	件数	%	件数	%	件数	%
1日	29	9.5	1	14.3	0	0.0
2日	38	12.5	1	14.3	0	0.0
3日	44	14.5	0	0.0	1	6.7
4日	4	1.3	1	14.3	0	0.0
5日	37	12.2	1	14.3	1	6.7
6日	2	0.7	0	0.0	2	13.3
7日	13	4.3	0	0.0	0	0.0
8日	1	0.3	0	0.0	0	0.0
9日	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10日以上	110	36.2	2	28.6	9	60.0
不明・無回答	26	8.6	1	14.3	2	13.3

※就学前保護者：“夜間養護等事業（トワイライトステイ）”（N=1）は「３日」が１件、
“ベビーシッター”（N=1）は「10 日以上」が１件

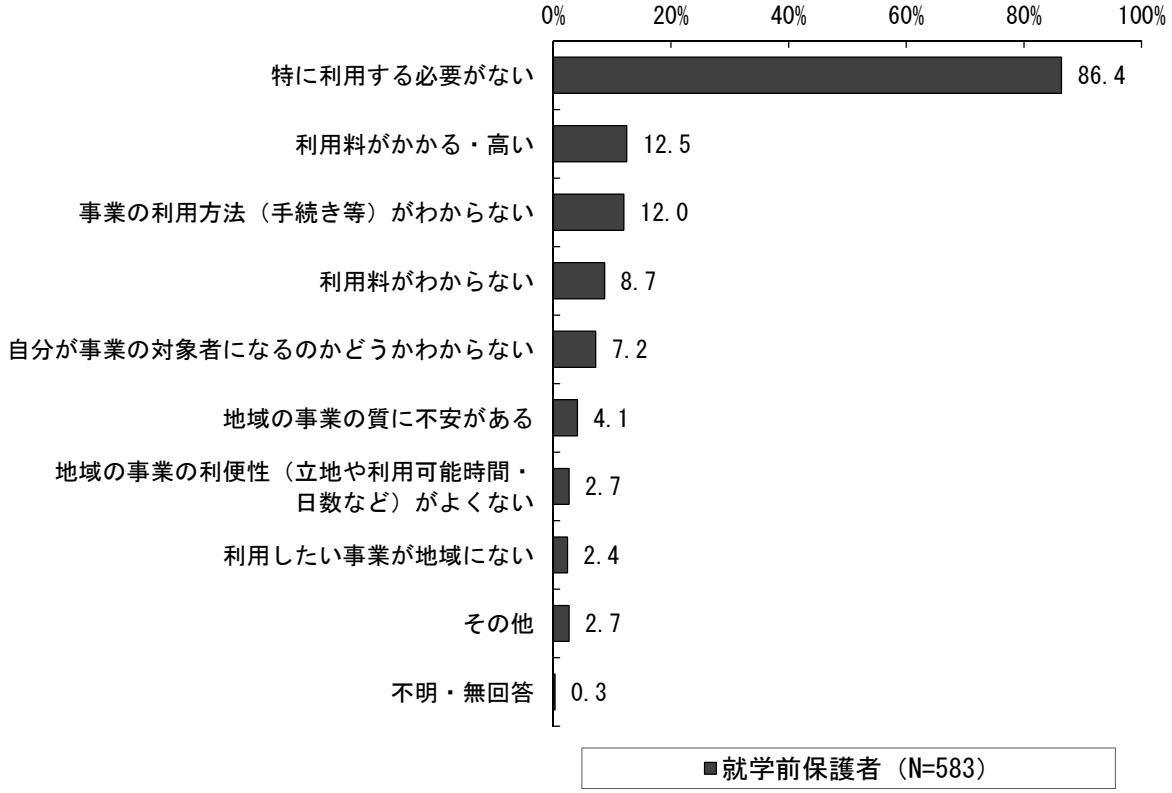
※小学生保護者：“夜間養護等事業（トワイライトステイ）”、“ベビーシッター”は回答者なし

（１）で「預けることはなかった」を選んだ方

（１）－１　一時預かり等を利用しなかった理由（就学前保護者のみ）〈複数回答〉

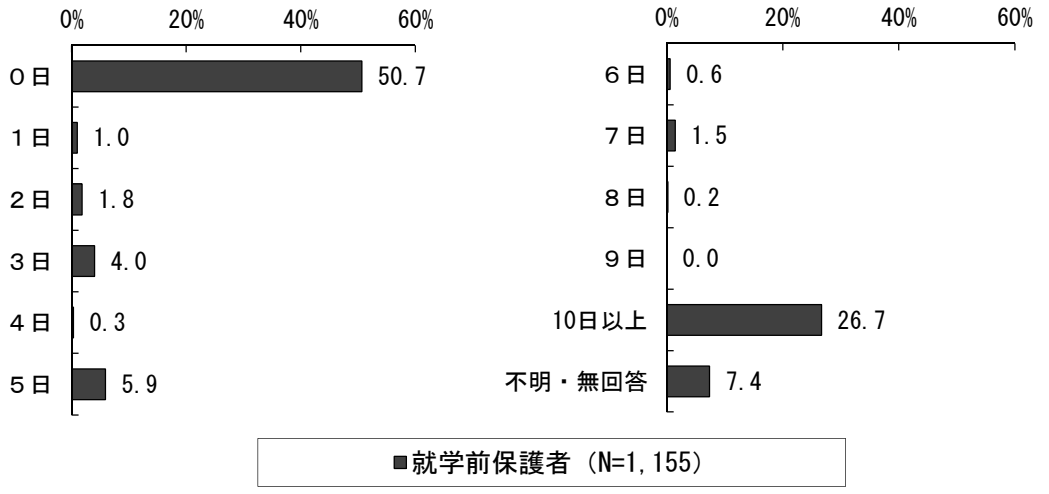
〔就学前保護者調査…問 22-1〕

現在利用していない理由についてみると、「特に利用する必要がない」が 86.4％で最も多くなっています。また、「利用料がかかる・高い」「事業の利用方法（手続き等）がわからない」が１割を超えています。



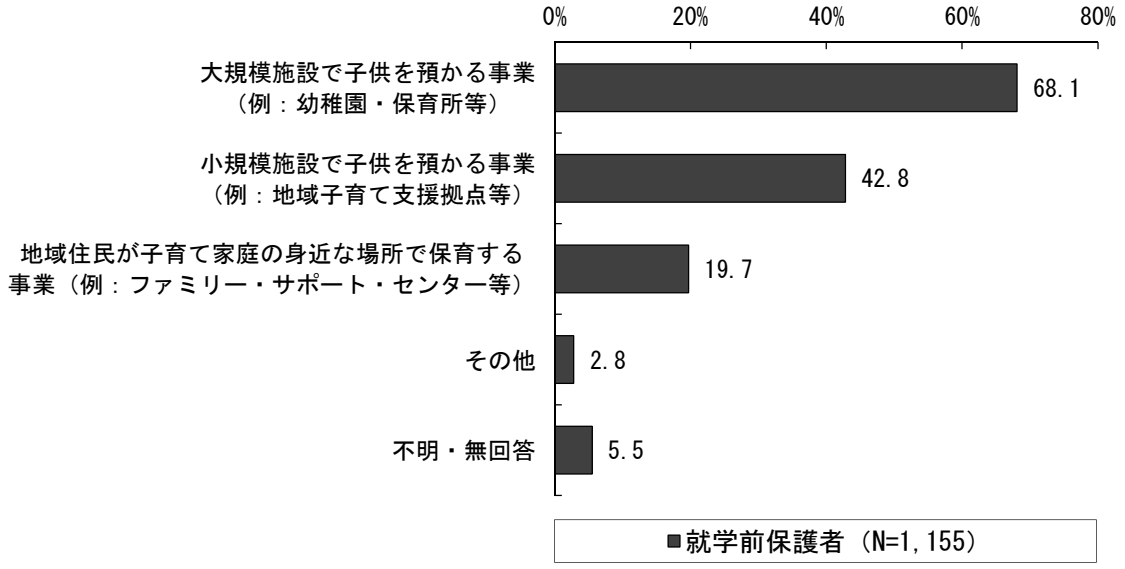
（２）私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、利用する必要がある事業の年間日数（就学前保護者のみ）〈数量回答〉〔就学前保護者調査…問 23〕

不定期に利用する必要がある事業の年間日数についてみると、「０日」が５割を占めています。一方で、「10 日以上」も 26.7％の回答があります。



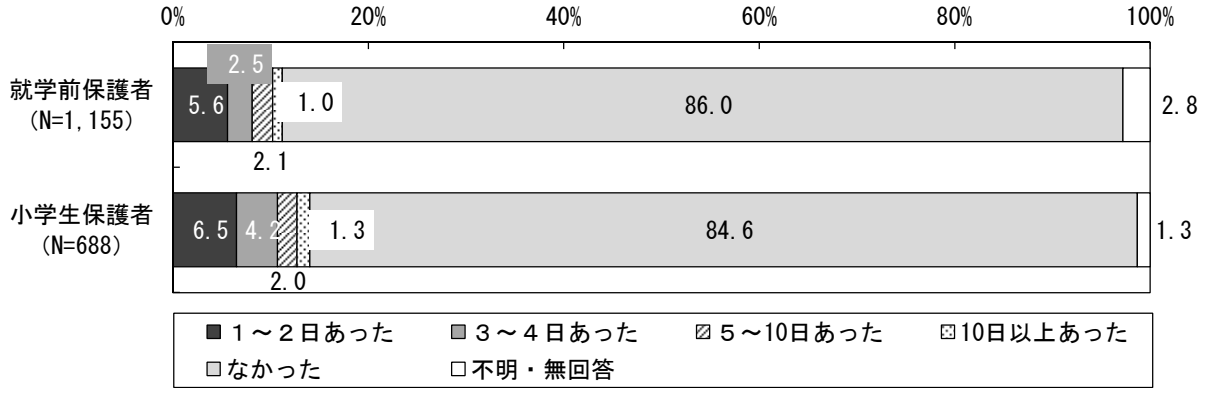
（３）私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、子供を預ける場合の望ましい事業形態（就学前保護者のみ）〈複数回答〉〔就学前保護者調査…問 24〕

子供を預ける場合の望ましい事業形態についてみると、「大規模施設で子供を預かる事業」が 68.1%と最も多く、次いで「小規模施設で子供を預かる事業」が 42.8%となっています。



（４）この１年間に、保護者の用事などにより、子供を泊りがけで家族以外にみてもらわなければならなかった経験の有無〔就学前保護者調査…問 25、小学生保護者調査…問 18〕

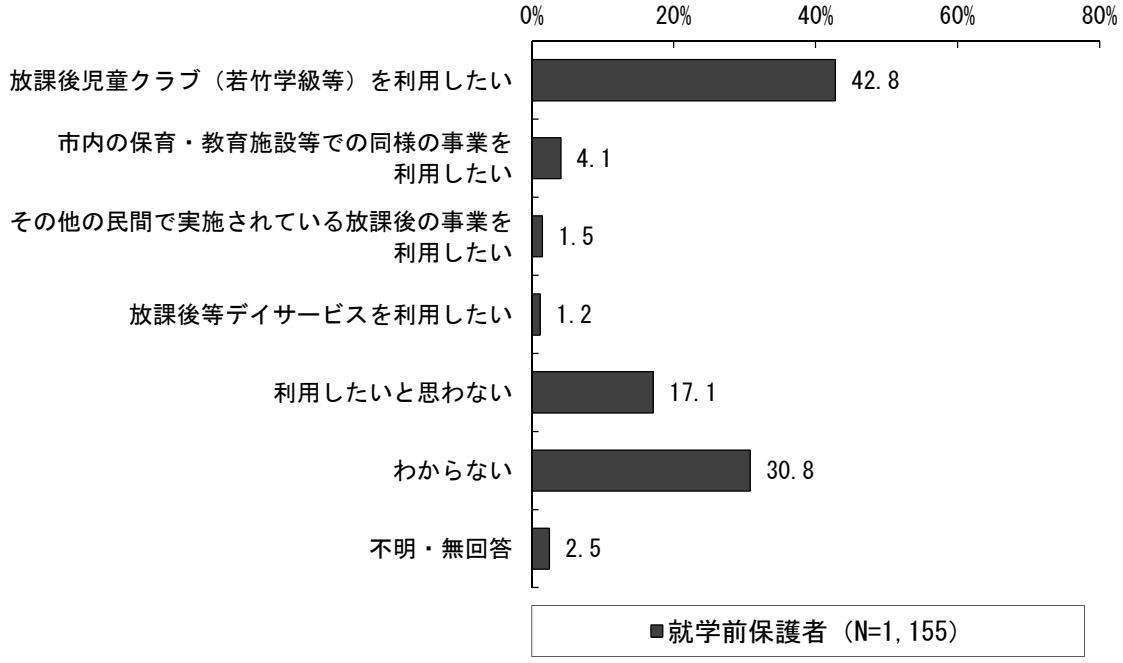
この１年間に、保護者の用事などにより、子供を泊りがけで家族以外にみてもらわなければならなかった経験の有無についてみると、１日以上あったという回答は、就学前保護者で 11.2%、小学生保護者で 14.0%となっています。



９　小学校の放課後の過ごし方について

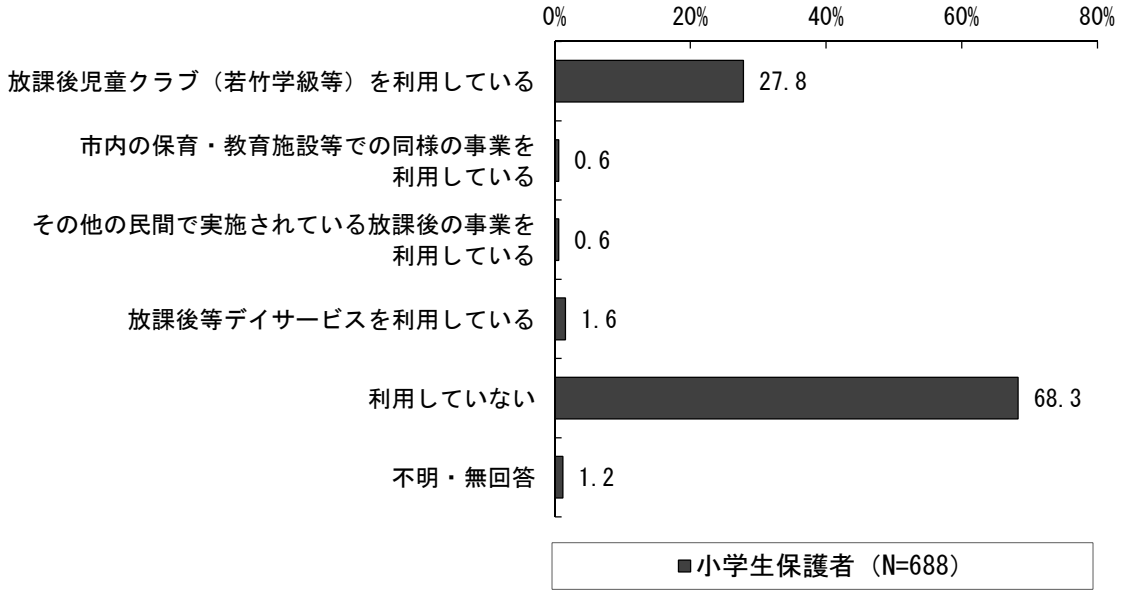
（１）小学校入学後の放課後児童クラブ（若竹学級等）または市内の保育・教育施設等での同様の事業の利用希望（就学前保護者のみ）〔就学前保護者調査…問 26〕

小学校入学後の放課後児童クラブ（若竹学級等）または市内の保育・教育施設等での同様の事業の利用希望についてみると、「放課後児童クラブ（若竹学級等）を利用したい」という回答は 42.8%となっています。「利用したいと思わない」は 17.1%、「わからない」が 30.8%あります。



（２）放課後児童クラブ（若竹学級等）または市内の保育・教育施設等での同様の事業の利用状況（小学生保護者のみ）〔小学生保護者調査…問 12〕

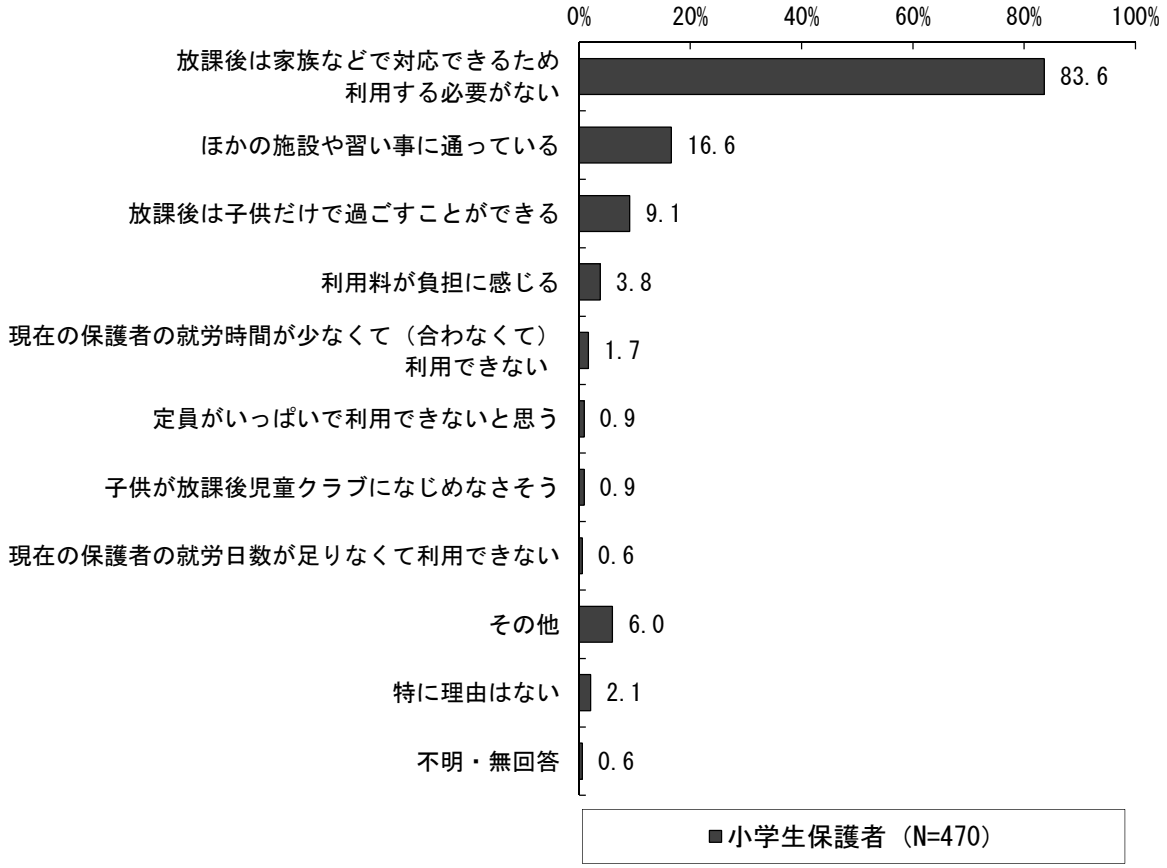
小学生保護者では、「放課後児童クラブ（若竹学級等）を利用している」が 27.8%、それ以外の事業を含めて、何らかの放課後の事業を利用しているのは、全体の 30.6%となっています。



（２）で「利用していない」を選んだ方

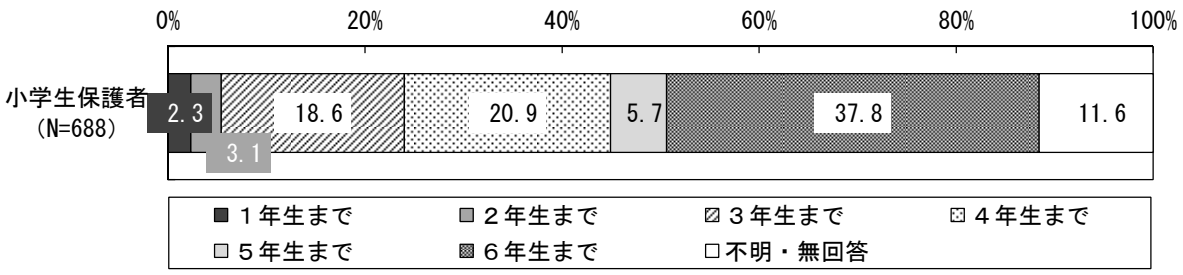
（２）－１　利用していない理由（小学生保護者のみ）〈複数回答〉〔小学生保護者調査…問 12-1〕

利用していない理由についてみると、「放課後は家族などで対応できるため利用する必要がない」が 83.6％と多くなっています。



（３）放課後児童クラブ（若竹学級等）または市内の保育・教育施設等での同様の事業を利用したいと思う学年（小学生保護者のみ）〔小学生保護者調査…問 13〕

１～３年生までという回答は 24.0％、「４年生まで」を含めると 44.9％となり、約半数は４年生までの利用を希望しています。一方で、「５年生まで」「６年生まで」の合計は 43.5％となっており、５年生以上までの利用を希望する回答も約半数を占めています。



（１）で「放課後児童クラブ（若竹学級等）を利用したい」または「市内の保育・教育施設等で同様の事業を利用したい」を選んだ方、（２）で何らかの放課後の事業を利用している方

（４）土曜日と日曜日・祝日の放課後事業の利用希望

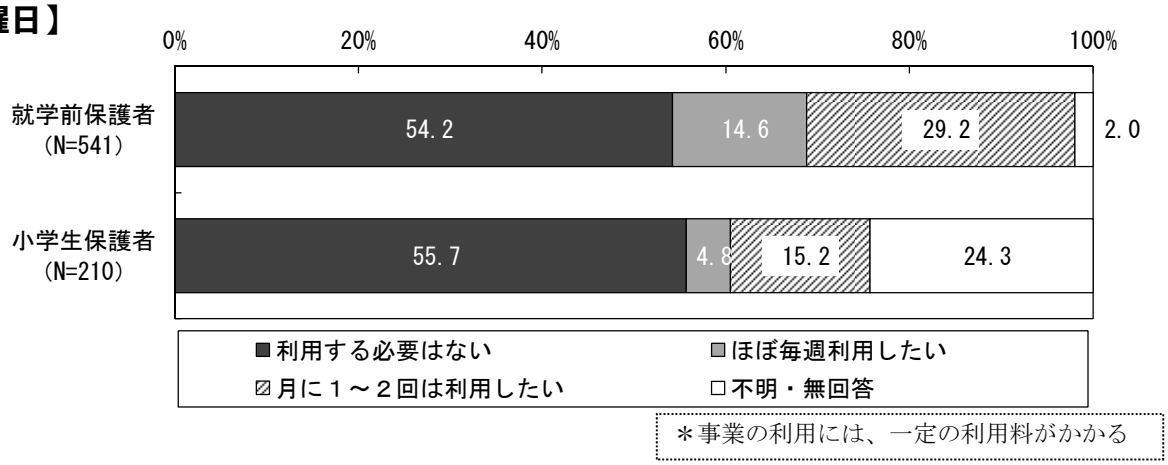
〔就学前保護者調査…問 26-1、小学生保護者調査…問 14〕

放課後事業の、土曜日と日曜・祝日の利用希望についてみると、土曜日は就学前保護者で 43.8%、小学生保護者で 20.0%が利用したいと回答しています。利用したい時間帯については、半数以上は 17 時までと回答していますが、17 時以降を希望する回答も、就学前保護者 22.8%、小学生保護者 31.0%あります。

日曜日は就学前保護者の 20.3%、小学生保護者の 8.6%が利用したいと回答しています。

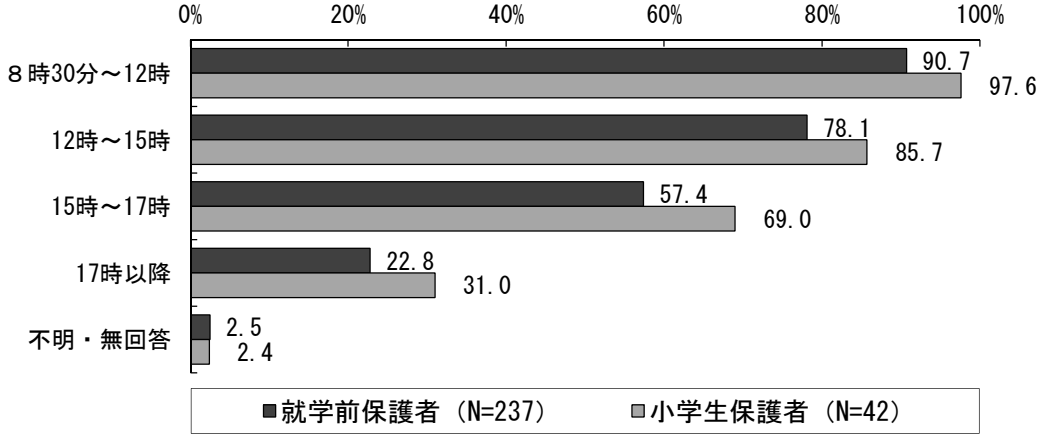
利用したい時間帯については、半数以上が希望しているのは 17 時までの時間帯ですが、休日の 17 時以降の利用希望については、小学生保護者では３割を超える回答があります。

【土曜日】

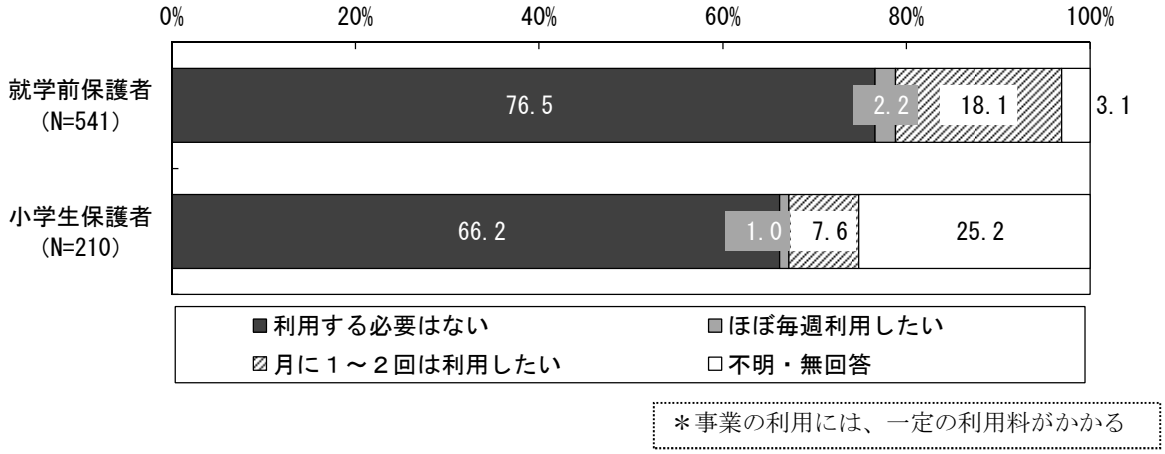


◎利用したい時間帯〈複数回答〉

《「ほぼ毎週利用したい」「月に１～２回は利用したい」を選んだ方》



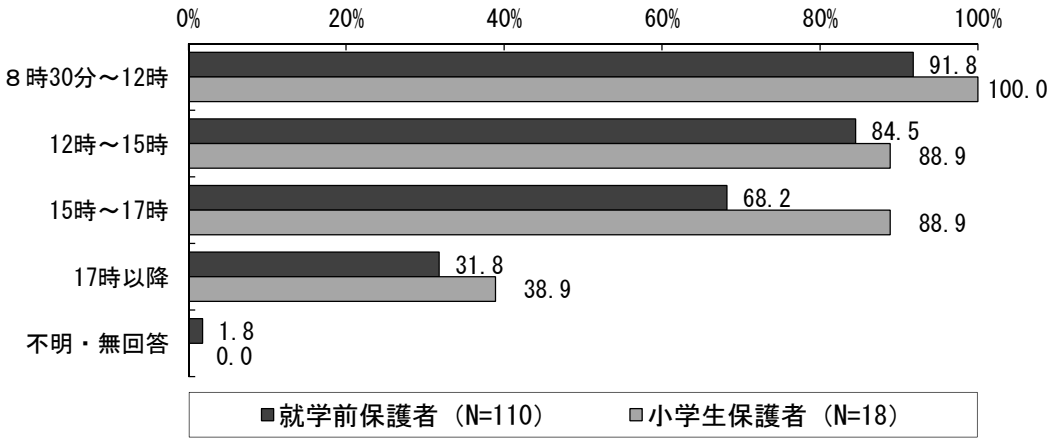
【日曜日・祝日】



＊事業の利用には、一定の利用料がかかる

◎利用したい時間帯〈複数回答〉

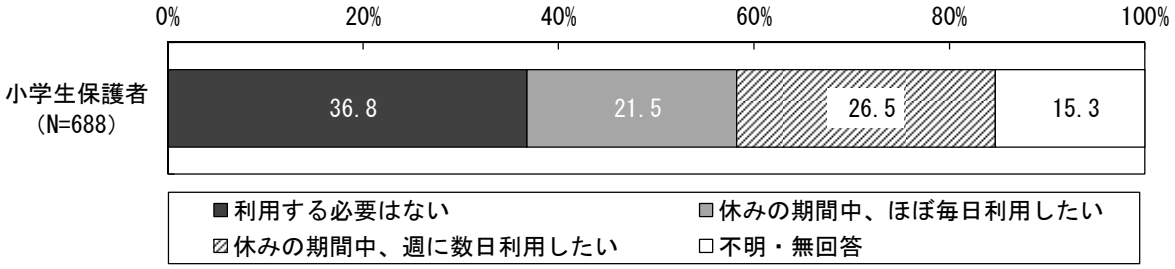
《「ほぼ毎週利用したい」「月に１～２回は利用したい」を選んだ方》



（５）夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後事業の利用希望（小学生保護者のみ）〔小学生保護者調査…問 15〕

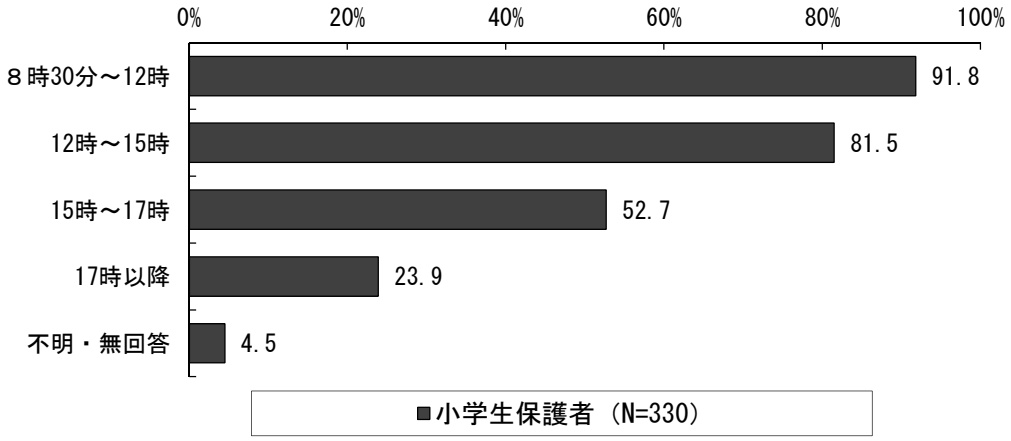
長期の休暇期間中の放課後事業の利用希望についてみると、小学生保護者の約半数が「ほぼ毎日」または「週に数日」利用したいと回答しています。

希望する利用時間帯については、15 時までが８割以上、17 時までが５割以上の回答があります。17 時以降についても２割以上の希望があります。



◎利用したい時間帯〈複数回答〉

《「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」「休みの期間中、週に数日利用したい」を選んだ方》

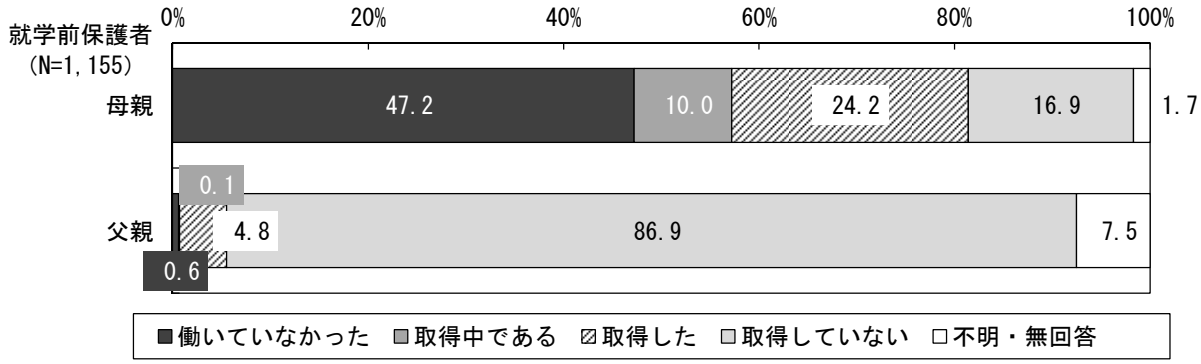


10　育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について（就学前保護者）

（１）子供が生まれた時の保護者の育児休業取得状況〔就学前保護者調査…問 27〕

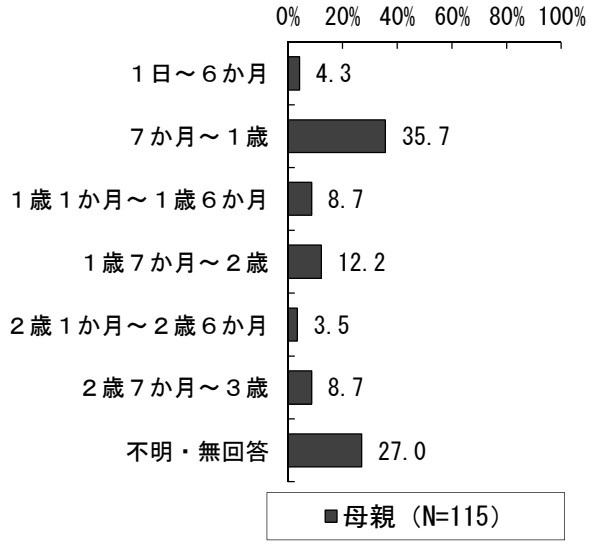
子供が生まれた時の保護者の育児休業取得状況についてみると、母親では「働いていなかった」が 47.2%、父親では「取得していない」が 86.9%と、それぞれ最も多くなっています。「取得した」または「取得中である」は、母親で 34.2%、父親で 4.9%となっています。

また、育児休業の取得日数についてみると、父親は６か月以下、母親は１年以下の回答が多くなっています。



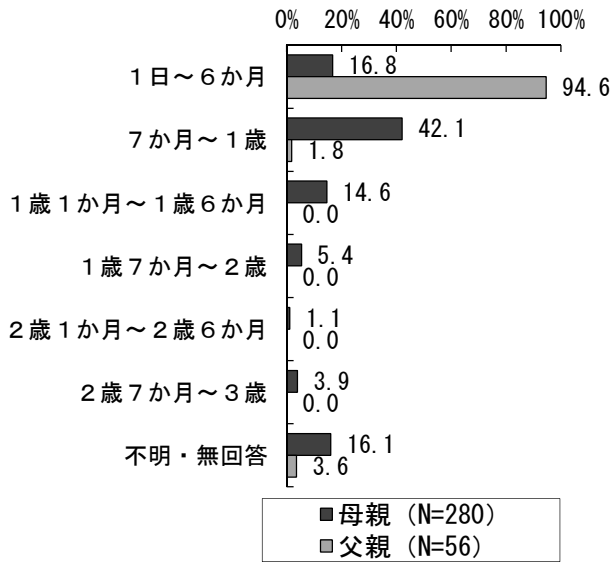
◎育児休業の取得日数〈数量回答〉

《「取得中である」を選んだ方》



※父親（N=1）は「１歳７か月～２歳」が１件

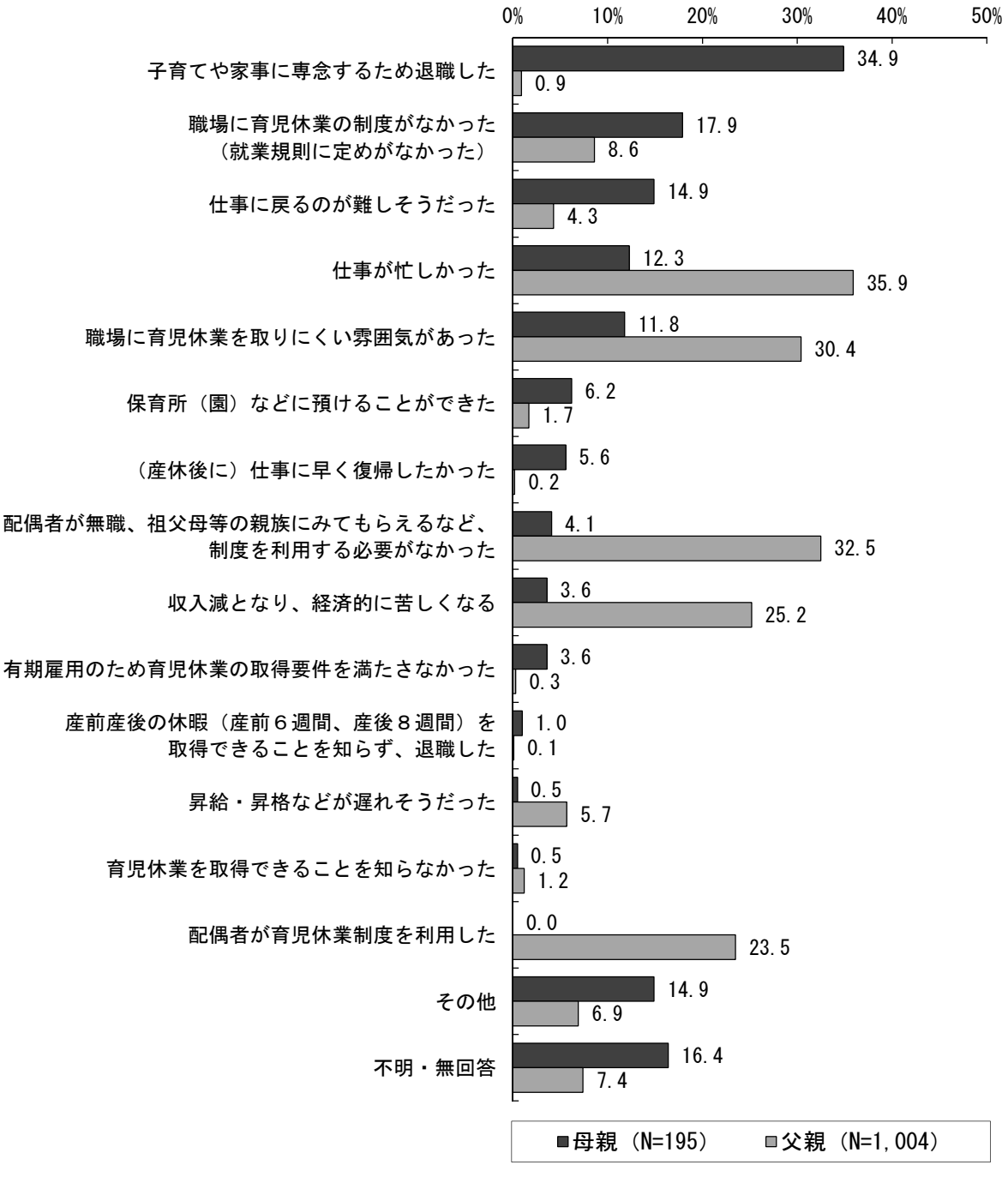
《「取得した」を選んだ方》



育児休業を取得していない理由については、母親では「子育てや家事に専念するため退職した」が34.9%で最も多く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった」「仕事に戻るのが難しそうだった」が多くなっています。父親では「仕事が忙しかった」「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」がいずれも３割台となっています。

◎取得していない理由〈複数回答〉

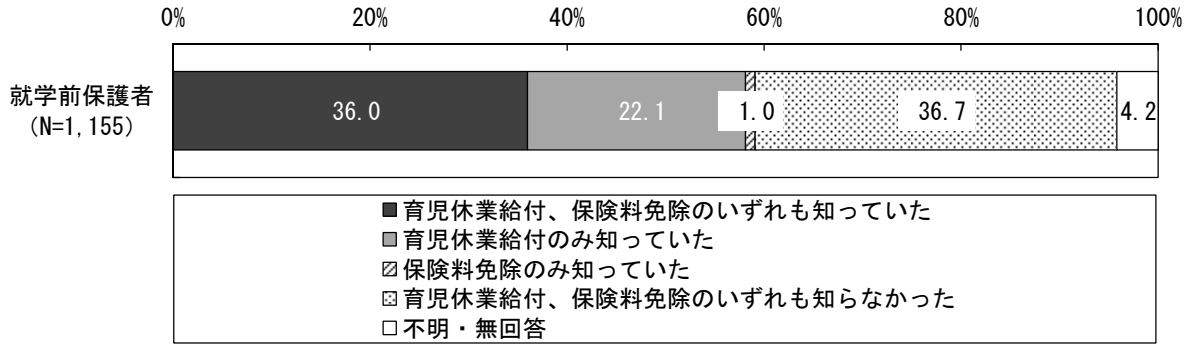
《「取得していない」を選んだ方》



（２）育児休業給付や育児休業保険料免除制度の認知度

〔就学前保護者調査…問 27-1〕

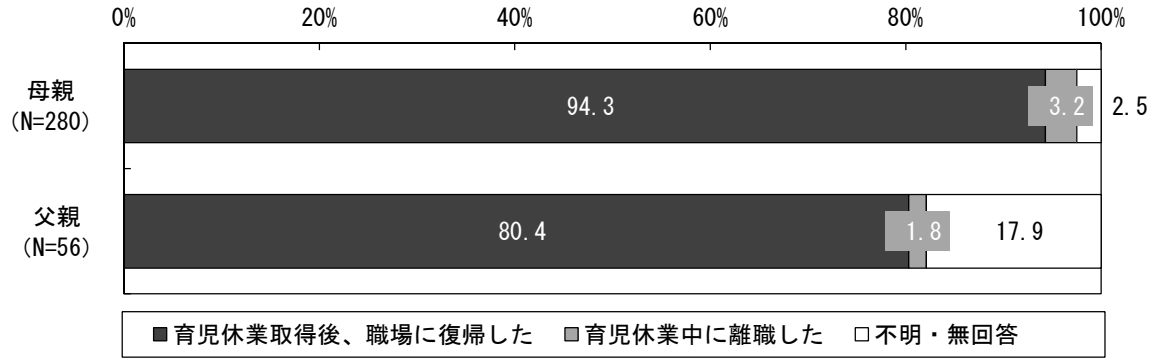
育児休業給付等の認知度についてみると、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が 36.7%となっています。一方で、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」も 36.0%の回答があります。



（１）で「取得した」を選んだ方

（３）育児休業取得後の職場復帰の有無〔就学前保護者調査…問 27-2〕

育児休業取得後、職場に復帰したかについてみると、母親、父親ともに「育児休業取得後、職場に復帰した」が大部分を占めています。

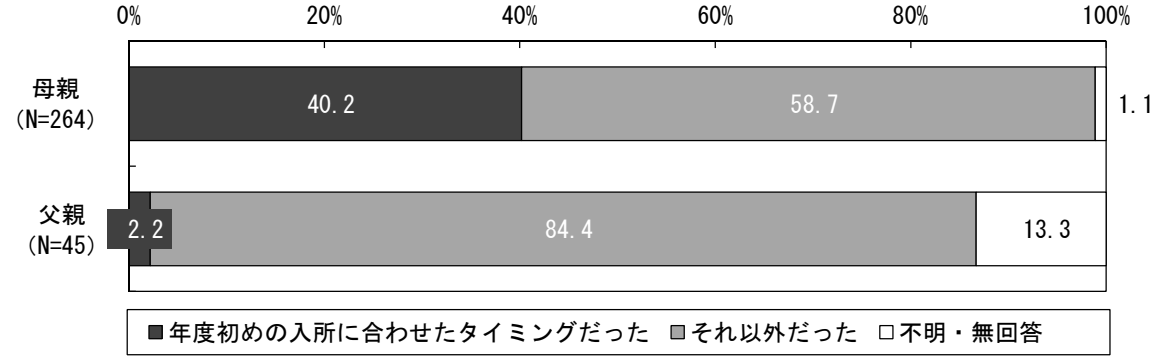


（３）で「育児休業取得後、職場に復帰した」を選んだ方

（４）職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングか

〔就学前保護者調査…問 27-3〕

職場復帰の時期が、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングかについてみると、母親では「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が 40.2%、「それ以外だった」が 58.7%となっています。父親についてはほとんどが「それ以外だった」と回答しています。



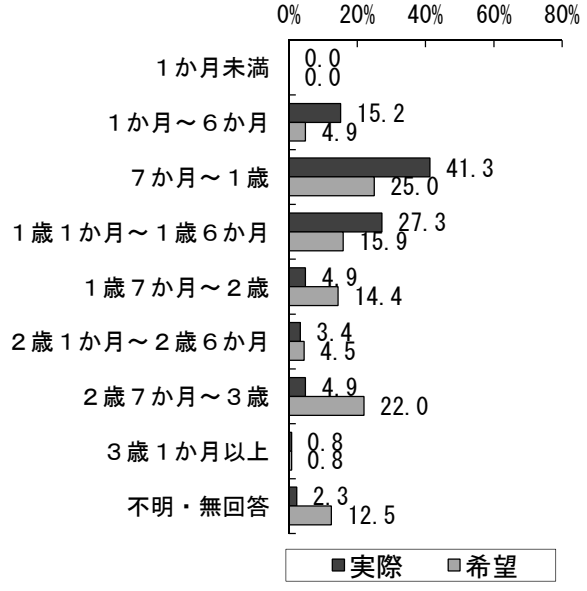
（３）で「育児休業取得後、職場に復帰した」を選んだ方

（５）育児休業からは、「実際」に子供が何歳何ヶ月のときに職場復帰したか。また、勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取得したかったか〈数量回答〉〔就学前保護者調査…問 27-4〕

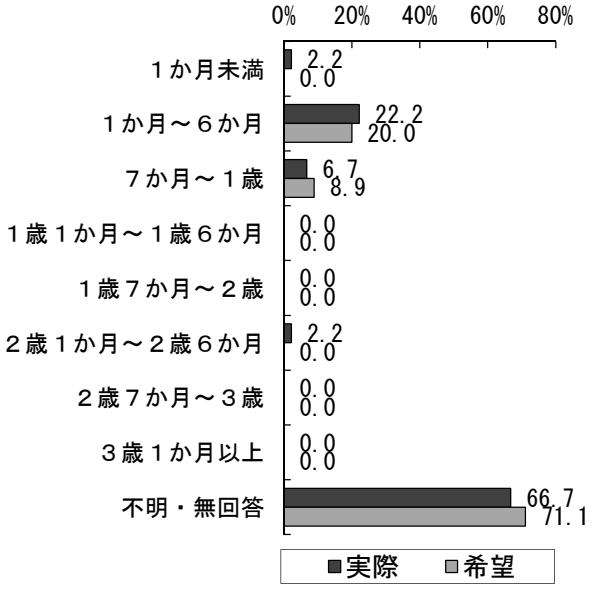
育児休業から、実際に子供が何歳何ヶ月のときに職場復帰したかについてみると、母親では実際、希望ともに「７か月～１歳」が最も多くなっています。実際には、１歳６か月までの回答が 83.8%となっていますが、希望については、１歳７か月から３歳までの回答が４割を超えています。

父親については、「１か月～６か月」が実際、希望ともに多くなっています。

【母親】（Ｎ＝264）



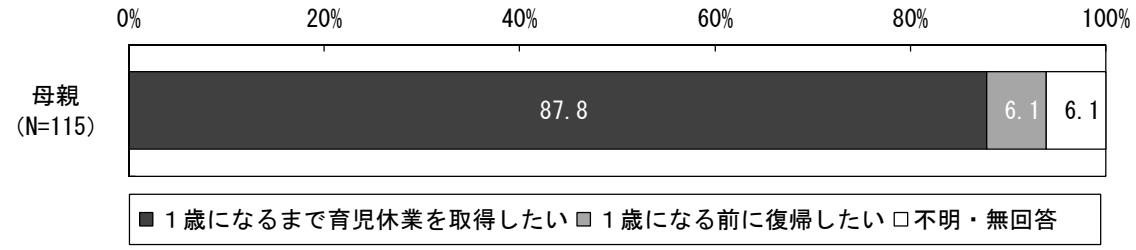
【父親】（Ｎ＝45）



（１）で「取得中である」を選んだ方

（６）子供が１歳になったときに必ず利用できる事業があれば、１歳になるまで育児休業を取得するか〔就学前保護者調査…問 27-5〕

現在も育児休業中の方で、子供が１歳になったときに必ず利用できる事業があれば、１歳になるまで育児休業を取得するかについてみると、母親では「１歳になるまで育児休業を取得したい」が 87.8％と多くなっています。

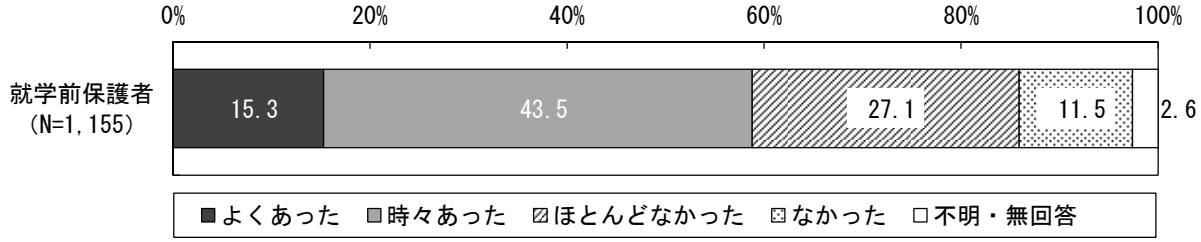


※父親（N=1）は「１歳になるまで育児休業を取得したい」が１件

11　妊娠中や出産、子育ての不安と悩みについて

（１）妊娠中、あるいは出産後、母親が精神的に不安定になったことの有無（就学前保護者のみ）〔就学前保護者調査…問 28〕

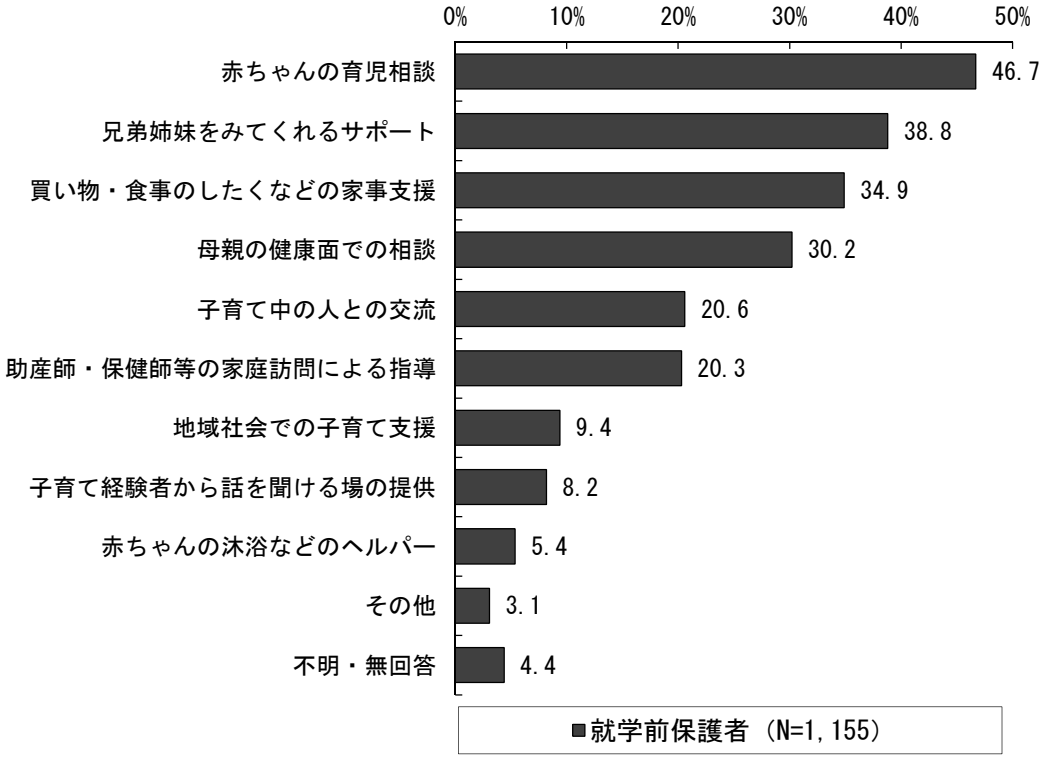
妊娠中、あるいは出産後、母親が精神的に不安定になったことの有無についてみると、「あった」という回答（「よくあった」「時々あった」の合計）が 58.8%、「なかった」という回答（「ほとんどなかった」「なかった」の合計）が 38.6%となっています。

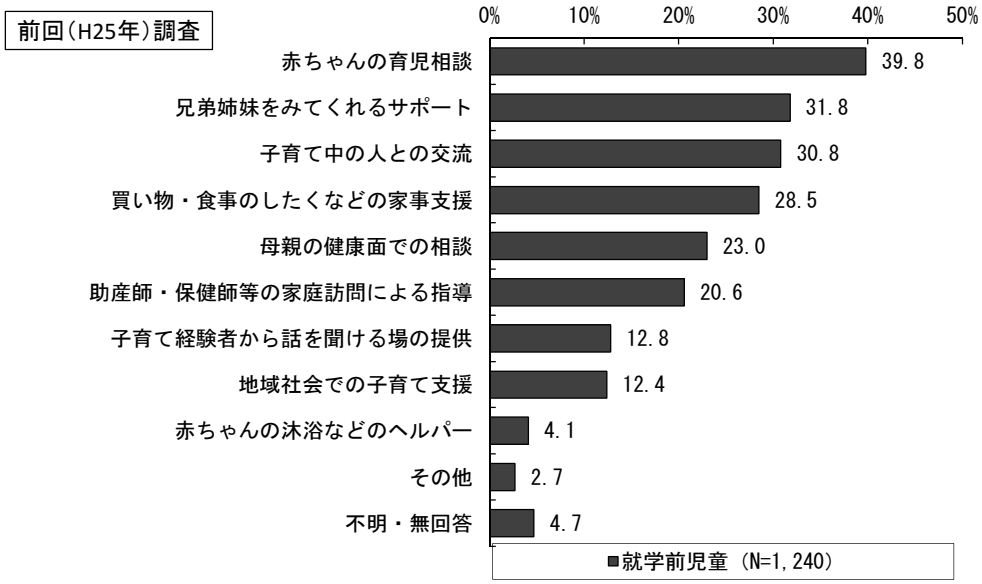


（２）妊娠中や出産後のサポートとして、特に必要なサービス（就学前保護者のみ）〈２つまで回答〉〔就学前保護者調査…問 29〕

妊娠中や出産後のサポートとして、特に必要なサービスについてみると、「赤ちゃんの育児相談」が 46.7%、次いで「兄弟姉妹をみてくれるサポート」が 38.8%、「買い物・食事のしたくなどの家事支援」が 34.9%となっています。

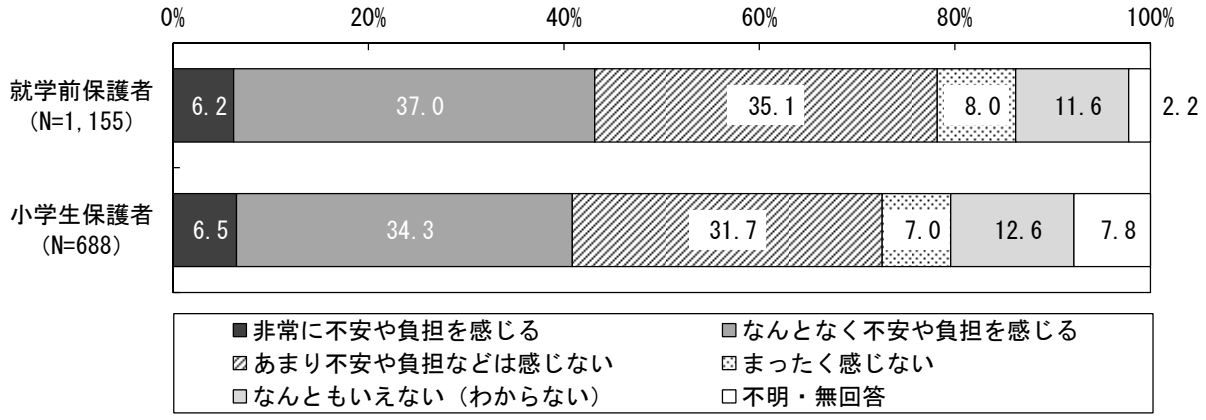
前回調査と比較すると、「母親の健康面での相談」「赤ちゃんの育児相談」「買い物・食事のしたくなどの家事支援」「兄弟姉妹をみてくれるサポート」が増加し、「子育て中の人との交流」が減少しています。





（３）子育てに関する不安感や負担感の有無〔就学前保護者調査…問 30、小学生保護者調査…問 21〕

子育てに関する不安感や負担感について、「非常に不安や負担を感じる」と「なんとなく不安や負担を感じる」を合わせた『不安や負担を感じる』が、就学前保護者、小学生保護者ともに約４割となっています。

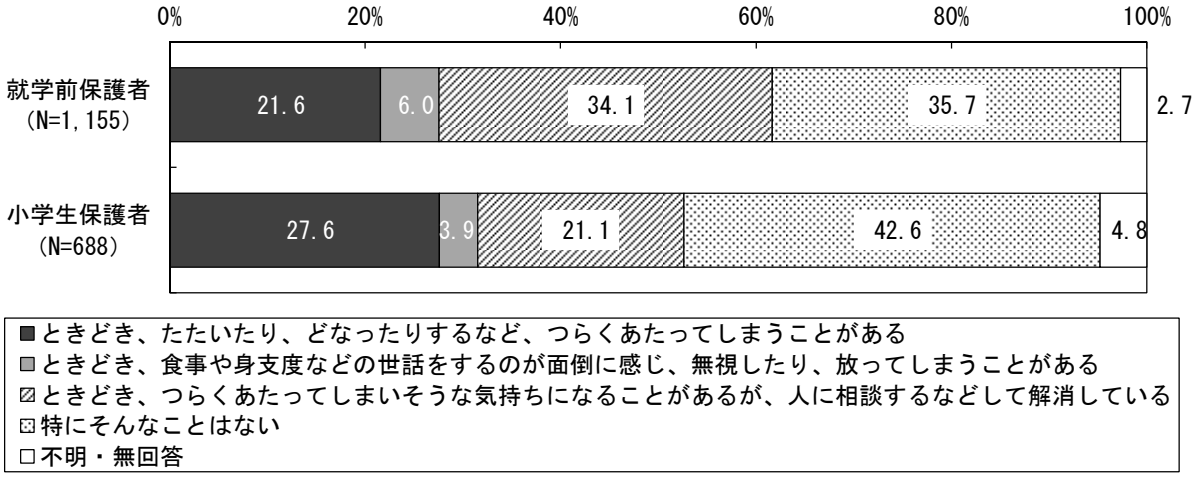


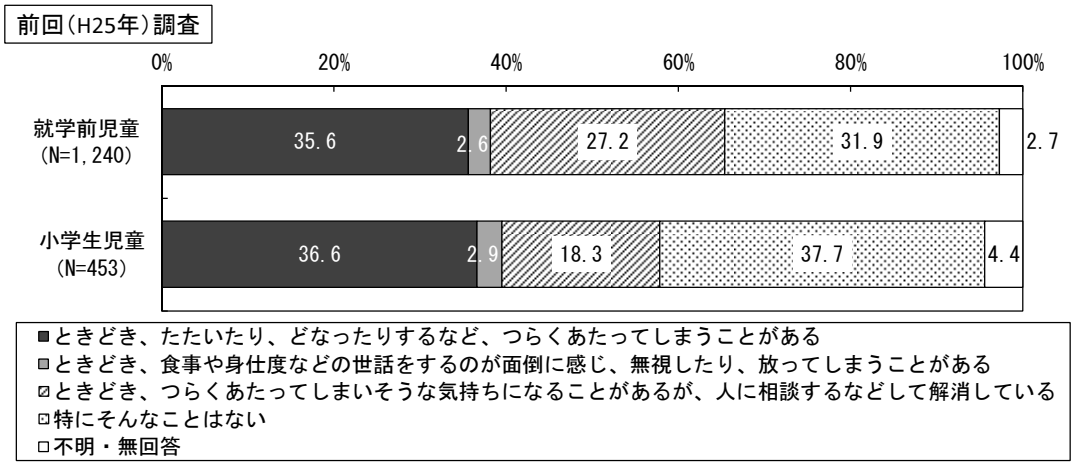
（４）子育てで子供につらくあたってしまうことの有無

〔就学前保護者調査…問 31、小学生保護者調査…問 23〕

子育ての悩みや不安から、子供につらくあたってしまうことの有無について、「ときどき、たたいたり、どなったりするなど、つらくあたってしまうことがある」と「ときどき、食事や身支度などの世話をするのが面倒に感じ、無視したり、放ってしまうことがある」の合計が、３割前後となっています。

前回調査と比較すると、「ときどき、たたいたり、どなったりするなど、つらくあたってしまうことがある」が就学前保護者、小学生保護者ともに減少しています。



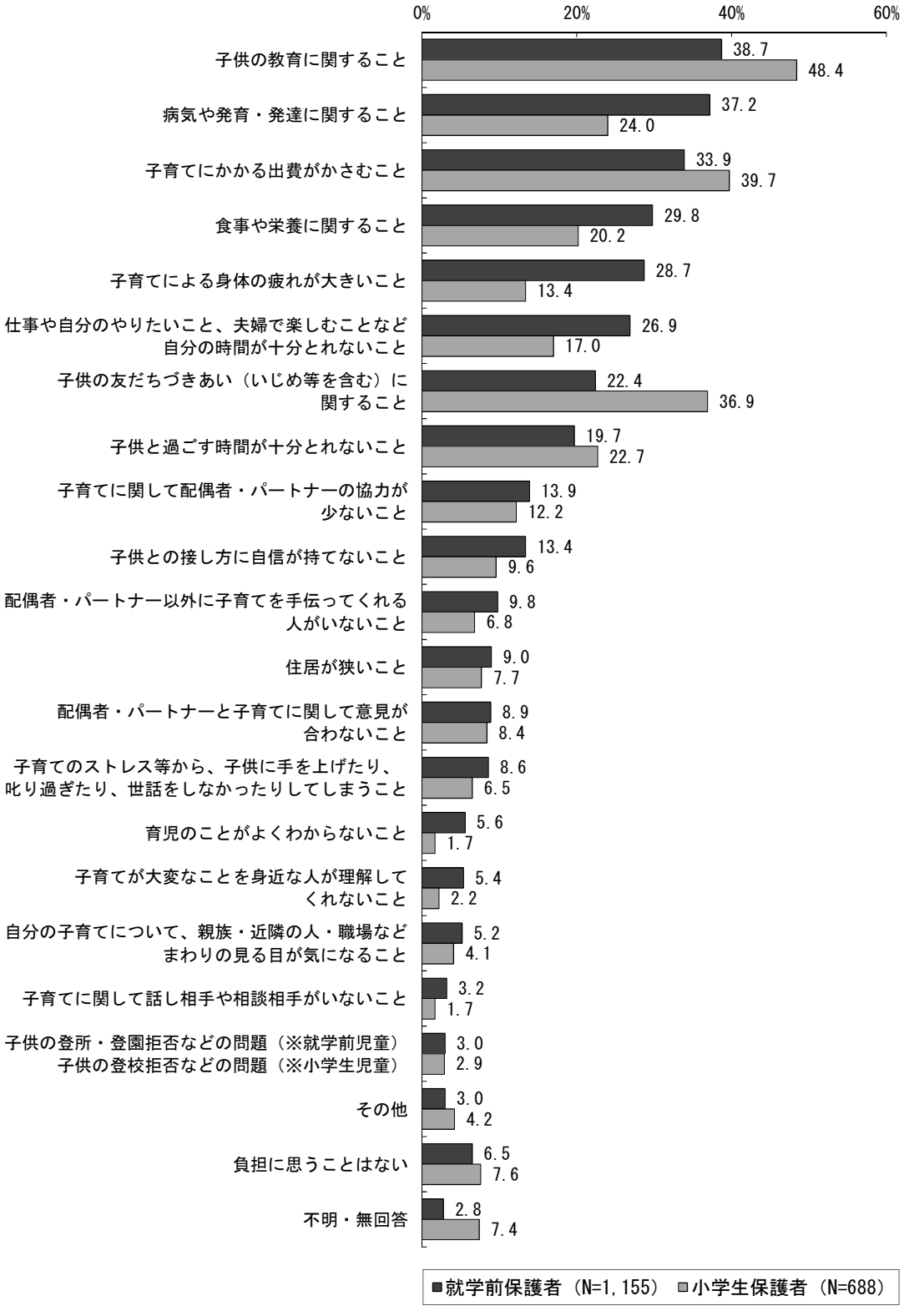


（５）子育てに関して、日頃悩んでいること、気になること〈複数回答〉

〔就学前保護者調査…問 32、小学生保護者調査…問 22〕

子育てで悩んでいることや、気になることとしては、就学前保護者では「子供の教育に関すること」と「病気や発育・発達に関すること」「子育てにかかる出費がかさむこと」がいずれも３割台で多くなっています。

小学生保護者では「子供の教育に関すること」が 48.4％で最も多く、次いで、「子育てにかかる出費がかさむこと」39.7％、「子供の友だちづきあい（いじめ等を含む）」36.9％となっています。



前回調査と比較すると、就学前で「子育てによる身体の疲れが大きいこと」がやや増加し、「子育てのストレス等から、子供に手を上げたり、叱り過ぎたり、世話をしなかったりしてしまうこと」がやや減少しています。

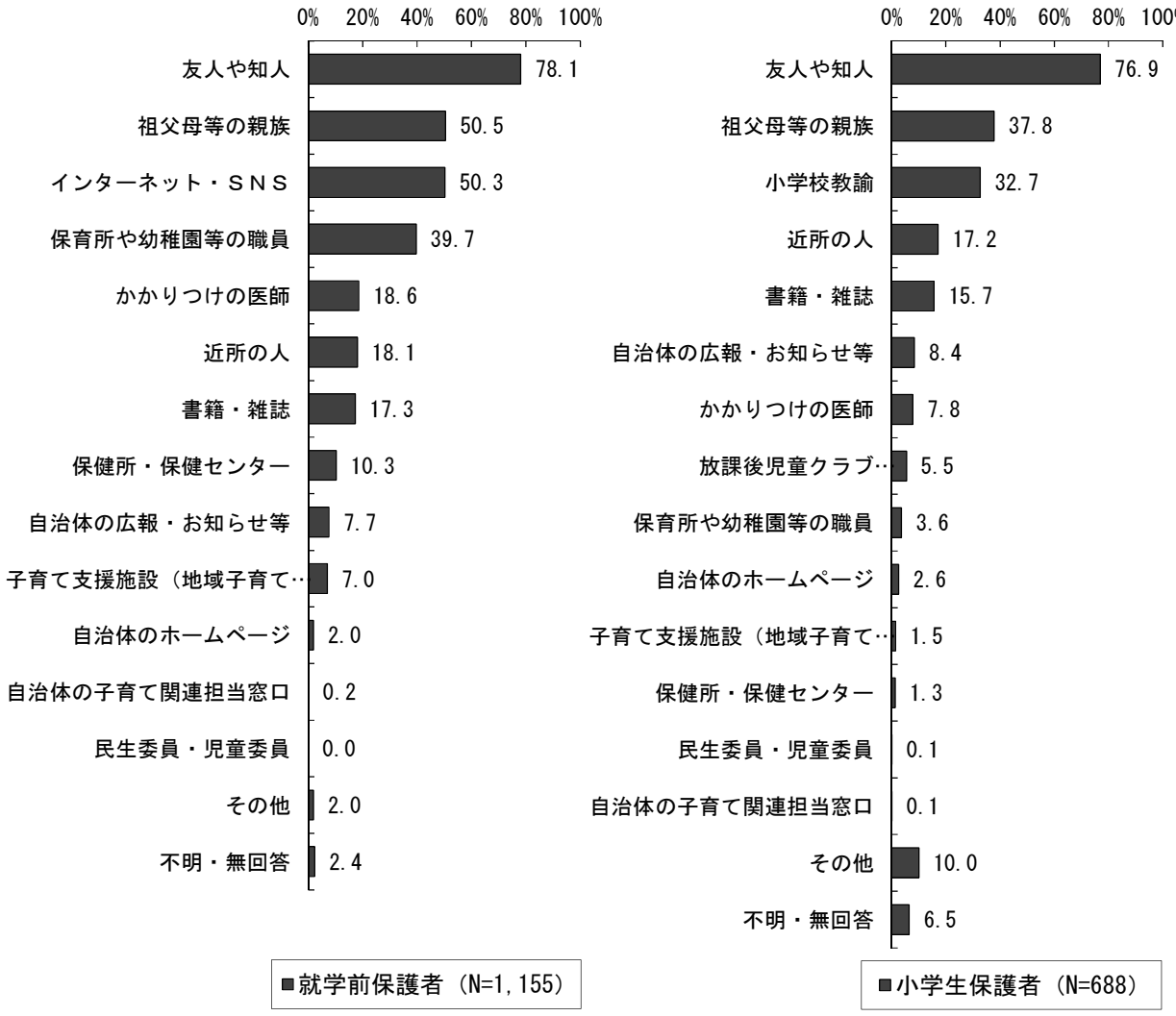
小学生保護者では、「子供との接し方に自信が持てないこと」「子供の教育に関すること」「子供の友だちづきあいに関すること」「子育てのストレス等から、子供に手を上げたり、叱り過ぎたり、世話をしなかったりしてしまうこと」がやや減少しています。

■前回調査との比較

	就学前保護者		小学生保護者	
	H25 年	H30 年	H25 年	H30 年
病気や発育・発達に関すること	39.1	37.2	23.4	24.0
食事や栄養に関すること	32.7	29.8	21.2	20.2
育児のことがよくわからないこと	7.0	5.6	3.1	1.7
子供との接し方に自信が持てないこと	14.0	13.4	14.6	9.6
子供と過ごす時間が十分とれないこと	15.6	19.7	21.0	22.7
子供の教育に関すること	35.6	38.7	54.5	48.4
子供の友だちづきあい(いじめ等を含む)に関すること	23.4	22.4	41.1	36.9
子供の登所・登園拒否などの問題(※就学前保護者) 子供の登校拒否などの問題(※小学生保護者)	2.3	3.0	2.4	2.9
子育てに関して配偶者・パートナーの協力が少ないこと	12.9	13.9	9.3	12.2
配偶者・パートナーと子育てに関して意見が合わないこと	6.5	8.9	9.1	8.4
自分の子育てについて、親族・近隣の人・職場などまわりの見る目が気になること	6.9	5.2	5.3	4.1
子育てに関して話し相手や相談相手がいないこと	2.8	3.2	3.3	1.7
仕事や自分のやりたいこと、夫婦で楽しむことなど自分の時間が十分とれないこと	29.0	26.9	18.3	17.0
配偶者・パートナー以外に子育てを手伝ってくれる人がいないこと	6.9	9.8	4.2	6.8
子育てのストレス等から、子供に手を上げたり、叱り過ぎたり、世話をしなかったりしてしまうこと	15.1	8.6	13.7	6.5
子育てによる身体の疲れが大きいこと	20.7	28.7	13.2	13.4
子育てにかかる出費がかさむこと	31.2	33.9	38.0	39.7
子育てが大変なことを身近な人が理解してくれないこと	4.7	5.4	1.8	2.2
住居が狭いこと	10.9	9.0	7.7	7.7
その他	3.2	3.0	2.9	4.2
負担に思うことはない	8.1	6.5	6.6	7.6
不明・無回答	1.7	2.8	5.1	7.4

（６）子育て情報の主な収集先〈複数回答〉〔就学前保護者調査…問 33、小学生保護者調査…問 24〕

子育て情報の主な収集先について、就学前保護者、小学生保護者ともに「友人や知人」が７割を超えて最も多くなっています。次いで「祖父母等の親族」が多く、就学前保護者では「インターネット・ＳＮＳ」も多くなっています。

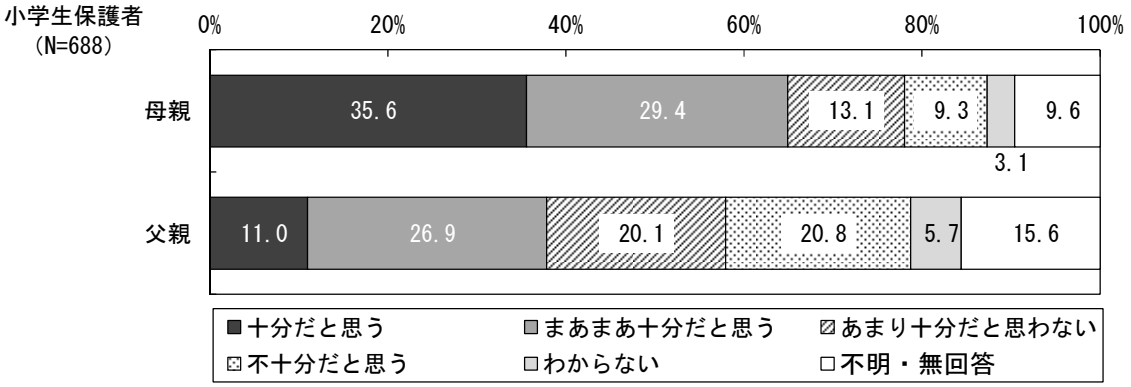


12　仕事と生活の調和について（小学生保護者）

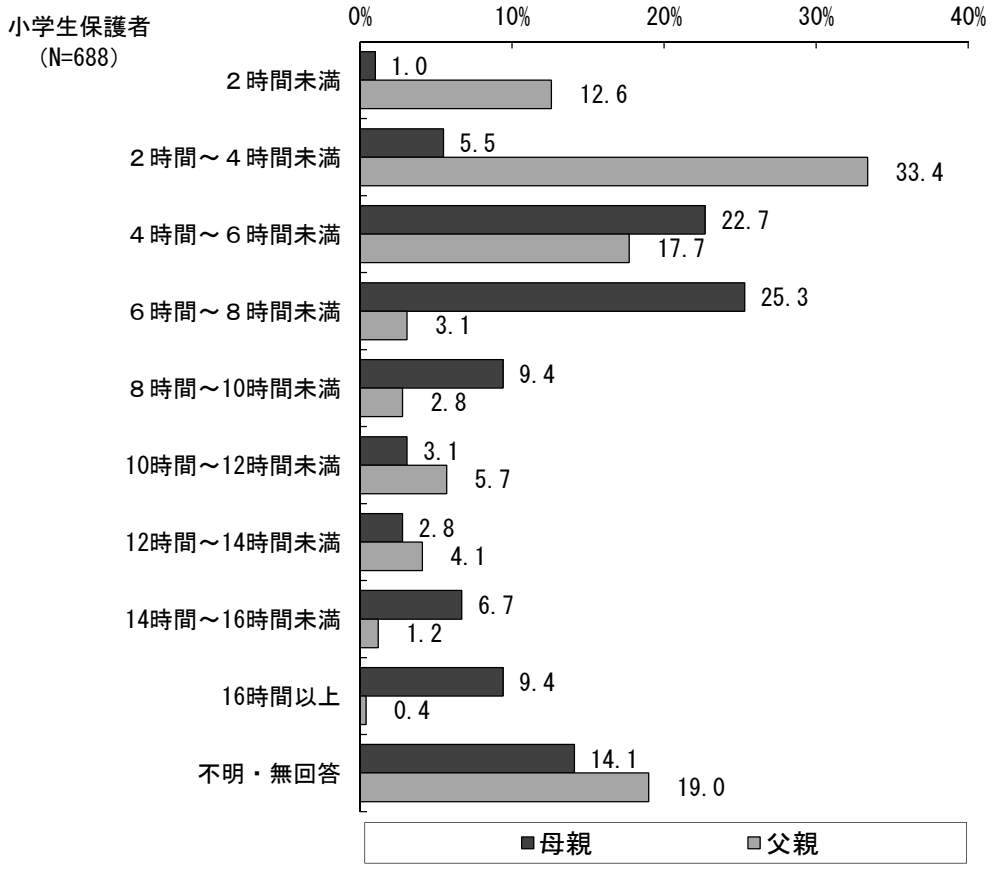
（１）子供と一緒に過ごす時間は十分だと思うか〔小学生保護者調査…問 20〕

子供と過ごす時間について、母親は「十分だと思う」または「まあまあ十分だと思う」が 65.0%となっていますが、父親では 37.9%にとどまっています。

１日当たりの子供と一緒に過ごす時間については、母親は４時間から８時間という回答が約半数を占めています。父親については、４時間未満が約半数となっています。

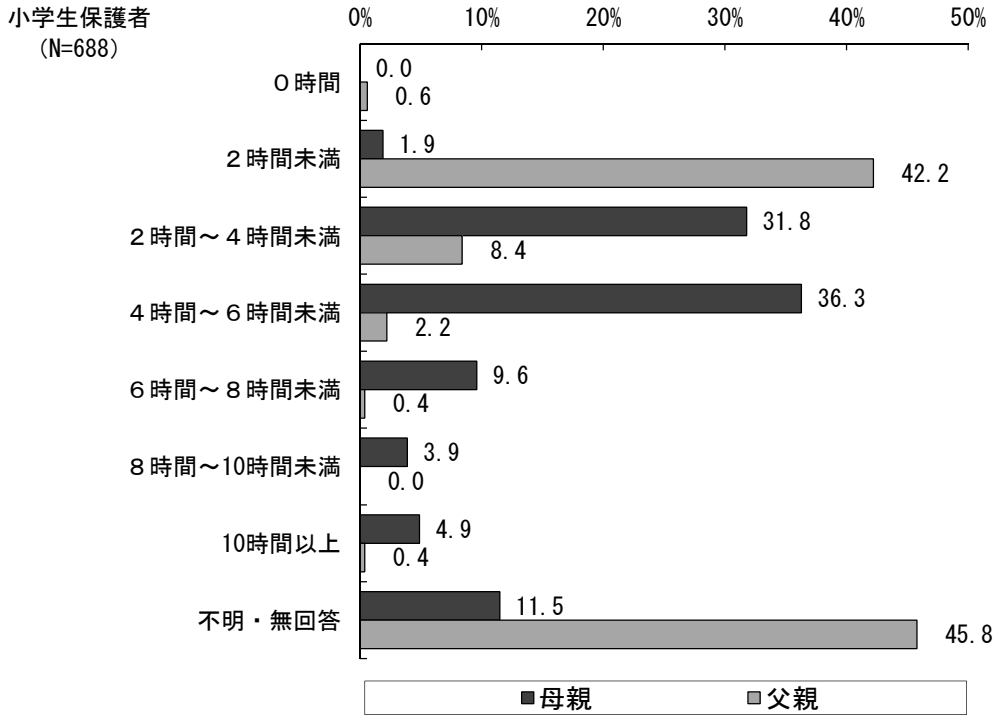


◎１日当たりの子供と一緒に過ごす時間〈数量回答〉



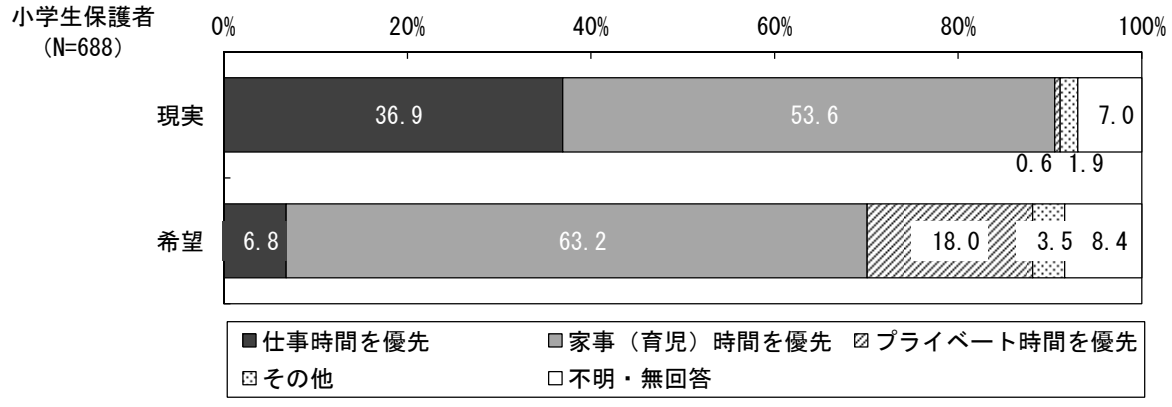
（２）１日当たりの家事の時間〈数量回答〉〔小学生保護者調査…問 20-1〕

１日当たりの家事の時間について、母親は２時間から６時間未満が約７割となっています。父親は無回答を除くと、大半が２時間未満となっています。



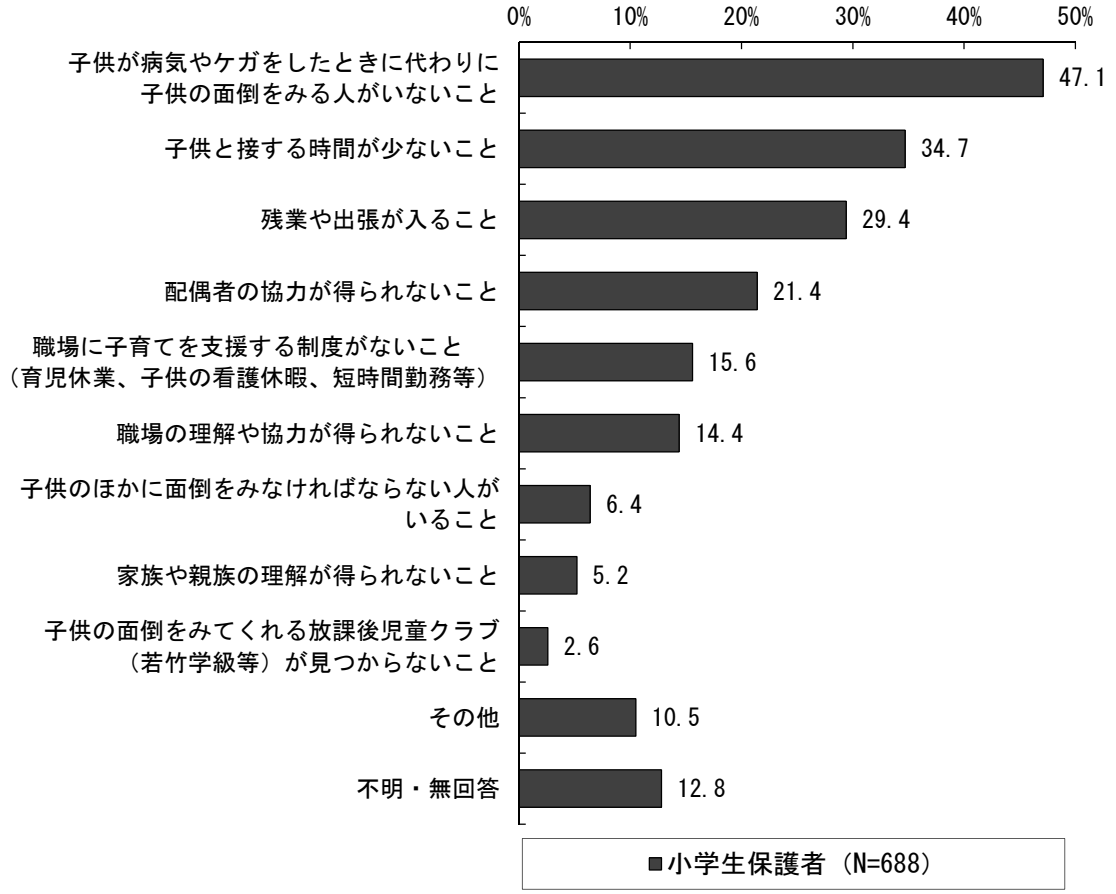
（３）家庭生活の中での現実と希望の優先度〔小学生保護者調査…問 20-2〕

家庭生活の中での優先度についてみると、現実、希望ともに「家事（育児）時間を優先」が最も多くなっています。次いで、現実では「仕事時間を優先」、希望では「プライベート時間を優先」が多くなっています。



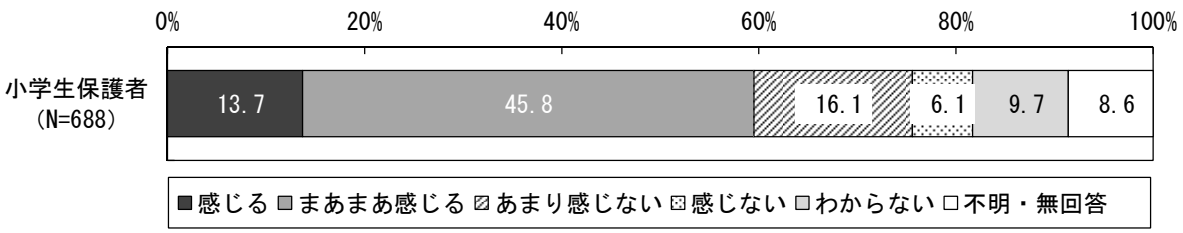
（４）仕事と子育ての両立で大変だと思うこと〈複数回答〉〔小学生保護者調査…問 20-3〕

仕事と子育ての両立で大変だと思うことについてみると、「子供が病気やケガをしたときに代わりに子供の面倒をみる人がいないこと」が 47.1％と最も多く、次いで「子供と接する時間が少ないこと」が 34.7％となっています。



（５）仕事と生活の調和が図られていると感じるか〔小学生保護者調査…問 20-4〕

家庭で、仕事と生活の調和が図られていると感じるかについてみると、「感じる」（「感じる」「まあまあ感じる」の合計）が 59.5％と半数以上を占めています。一方「感じない」（「あまり感じない」「感じない」の合計）は 22.2％となっています。

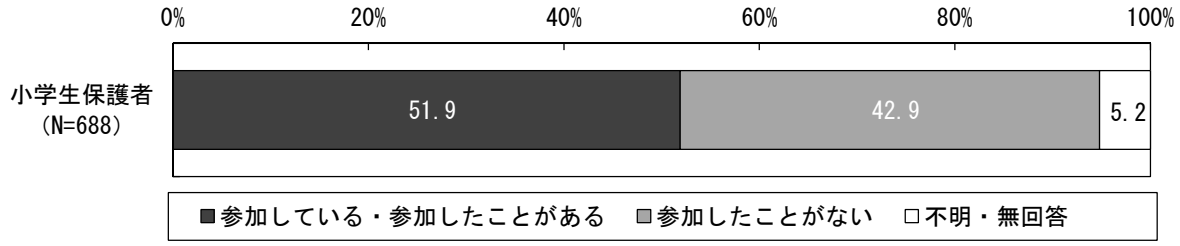


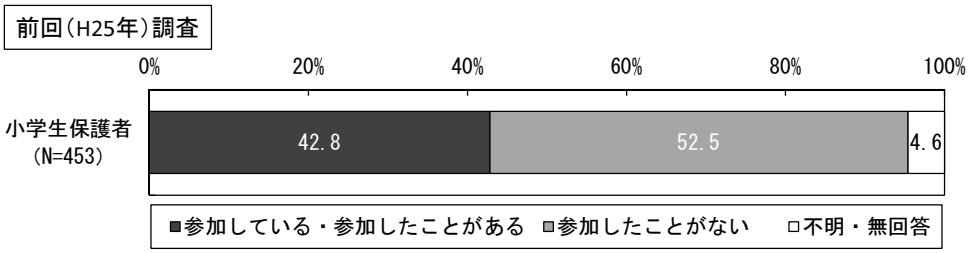
13　子供の健全な育成、安全について（小学生保護者）

（１）子供の地域活動やグループ活動への参加の有無〔小学生保護者調査…問 25〕

子供の地域活動やグループ活動への参加の有無についてみると、「参加している・参加したことがある」が 51.9%、「参加したことがない」が 42.9%となっています。

前回調査と比較すると「参加している・参加したことがある」が増加しています。

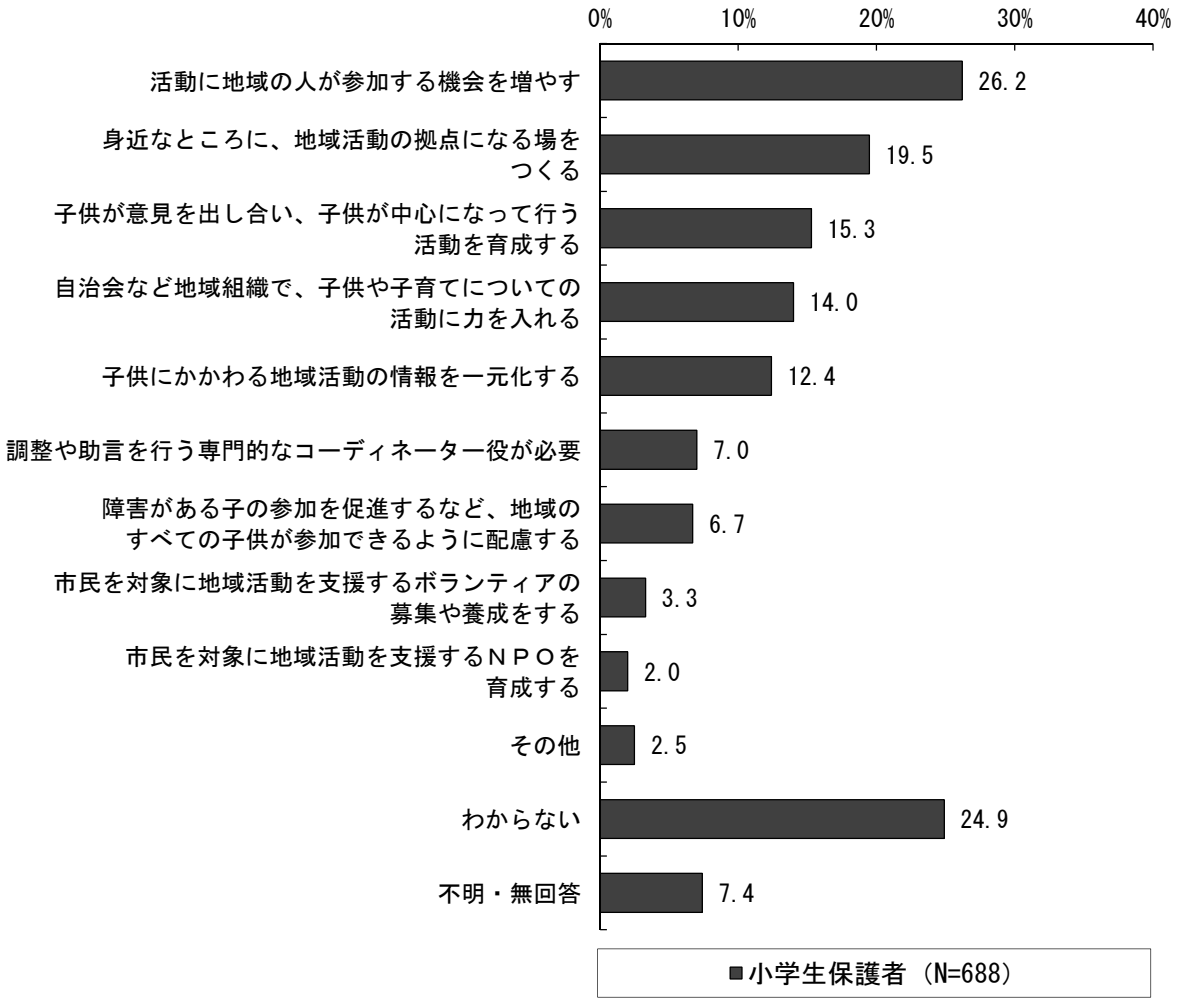


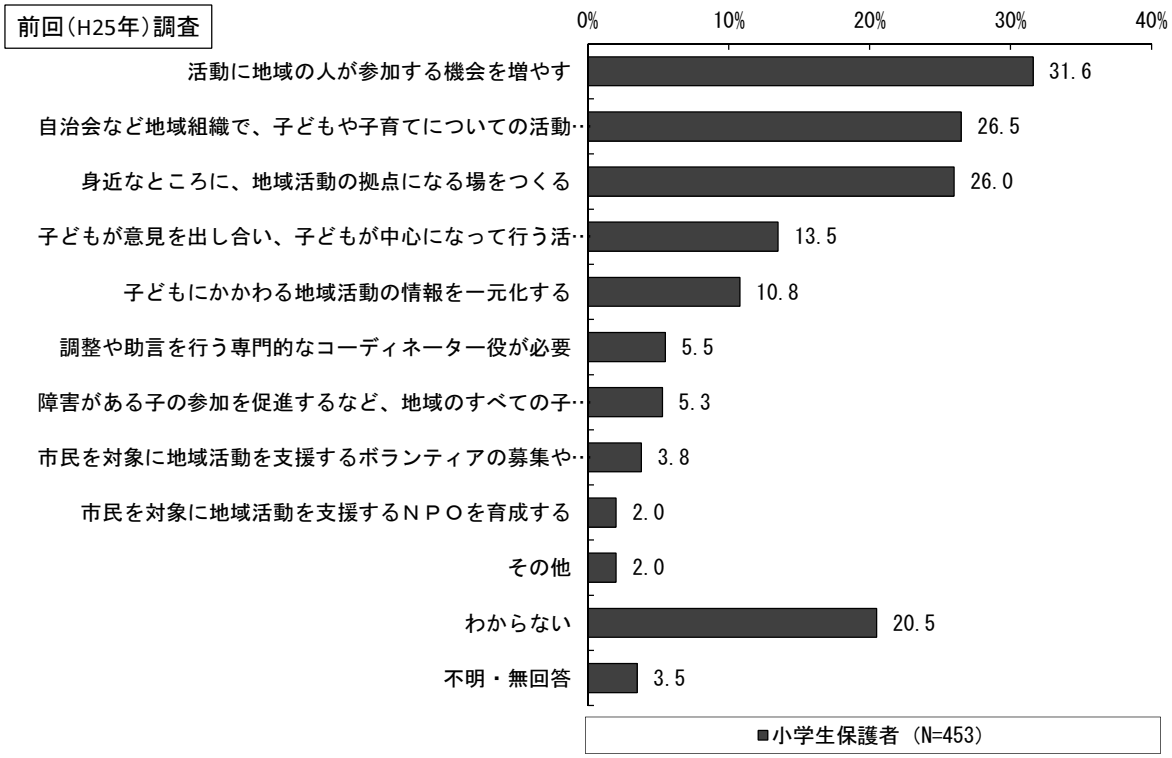


（２）地域の子供たちとの交流や活動を活発にするために必要だと思うこと
〈２つまで回答〉〔小学生保護者調査…問 26〕

地域の子供たちとの交流や活動を活発にするために必要だと思うことについてみると、「活動に地域の人が参加する機会を増やす」が 26.2%で最も多く、次いで「身近なところに、地域活動の拠点になる場をつくる」「子供が意見を出し合い、子供が中心になって行う活動を育成する」が多くなっています。

前回調査と比較すると、「自治会など地域組織で、子供や子育てについての活動に力を入れる」が減少し、「活動に地域の人が参加する機会を増やす」「身近なところに、地域活動の拠点になる場をつくる」もやや減少しています。

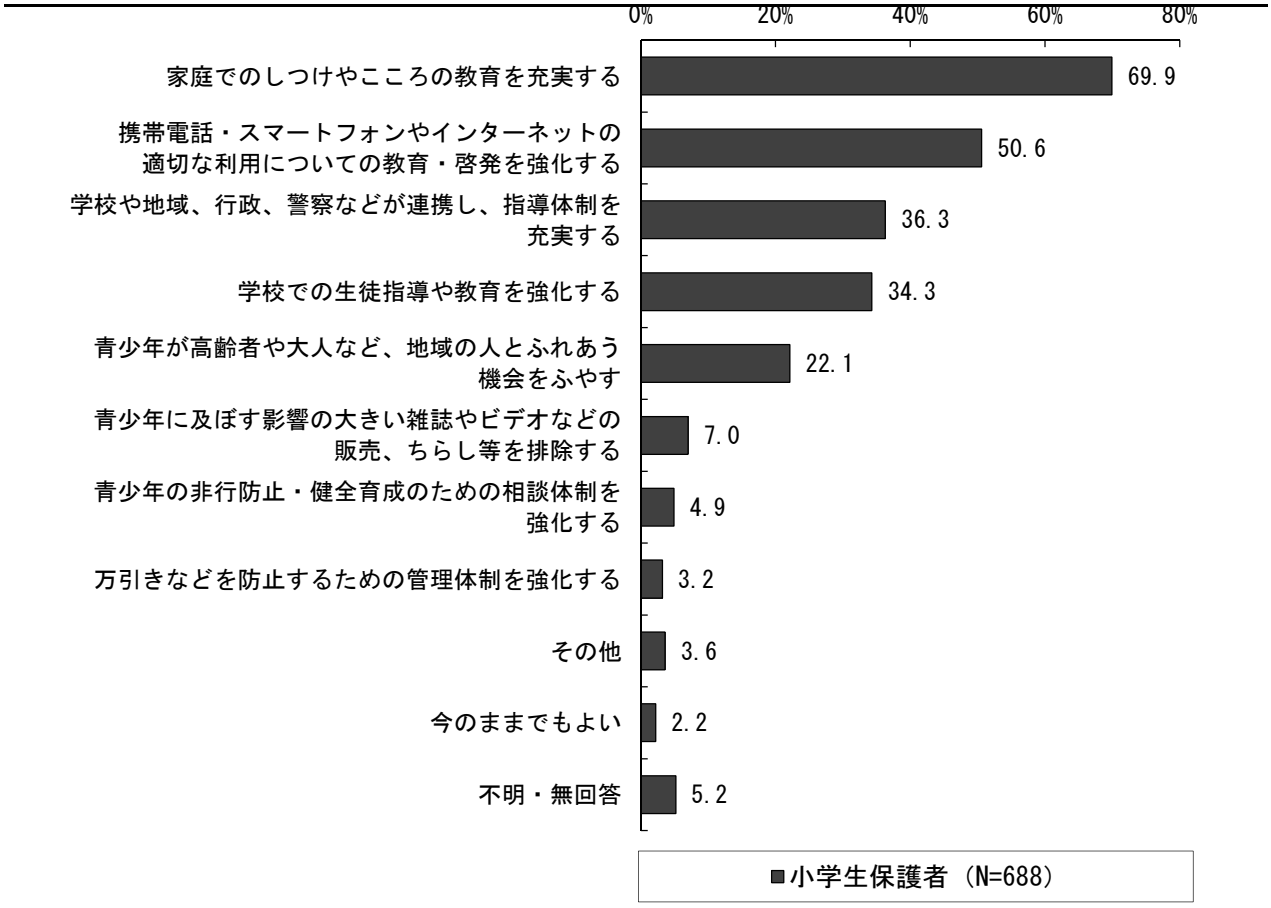




（３）子供の健全育成や非行防止のために、力をいれるべきと思うこと〈３つまで回答〉

〔小学生保護者調査…問 27〕

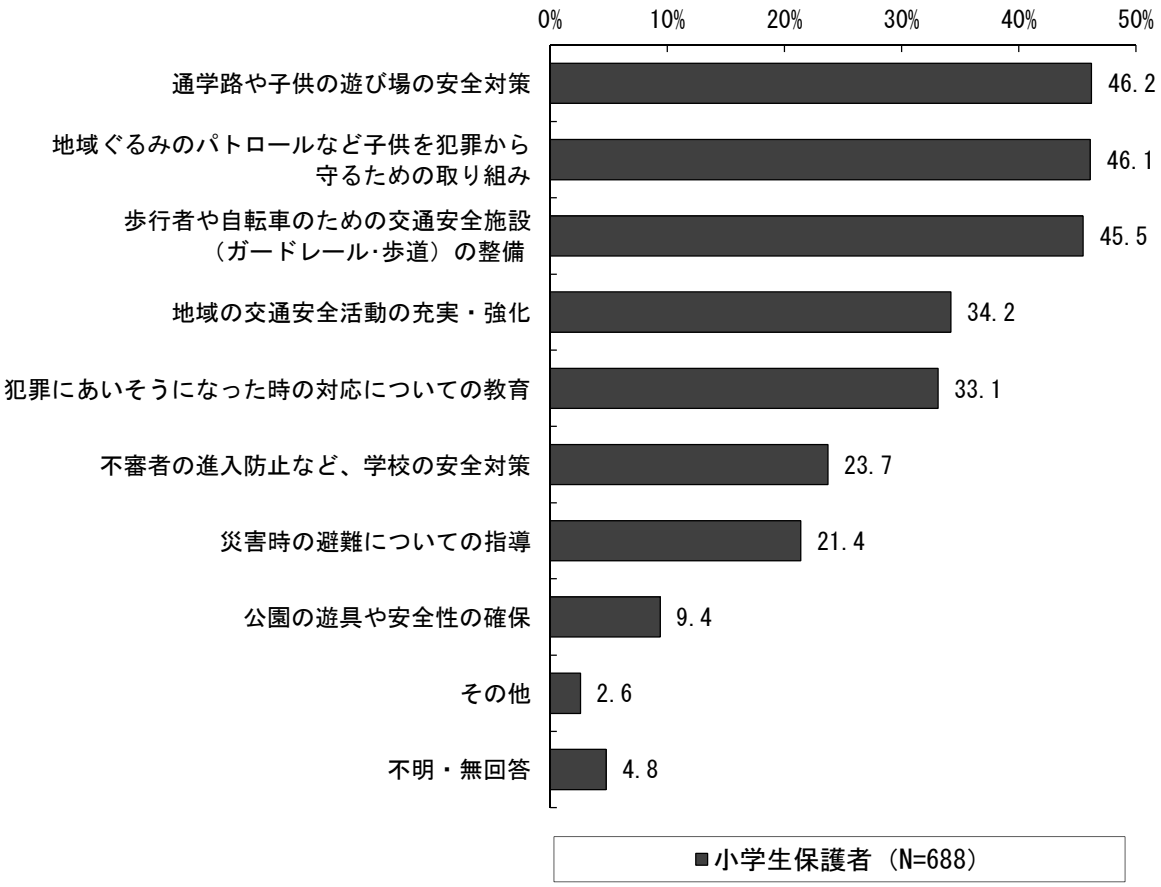
子供の健全育成や非行防止のために、力をいれるべきと思うことについてみると、「家庭でのしつけやこころの教育を充実する」が 69.9%で最も多く、次いで「携帯電話・スマートフォンやインターネットの適切な利用についての教育・啓発を強化する」が 50.6%となっています。



（４）子供の安全を守るために、特に重要と思われること〈３つまで回答〉

〔小学生保護者調査…問 28〕

子供の安全を守るために、特に重要と思われることについてみると、「通学路や子供の遊び場の安全対策」「地域ぐるみのパトロールなど子供を犯罪から守るための取り組み」「歩行者や自転車のための交通安全施設（ガードレール･歩道）の整備」がそれぞれ４割台で多くなっています。

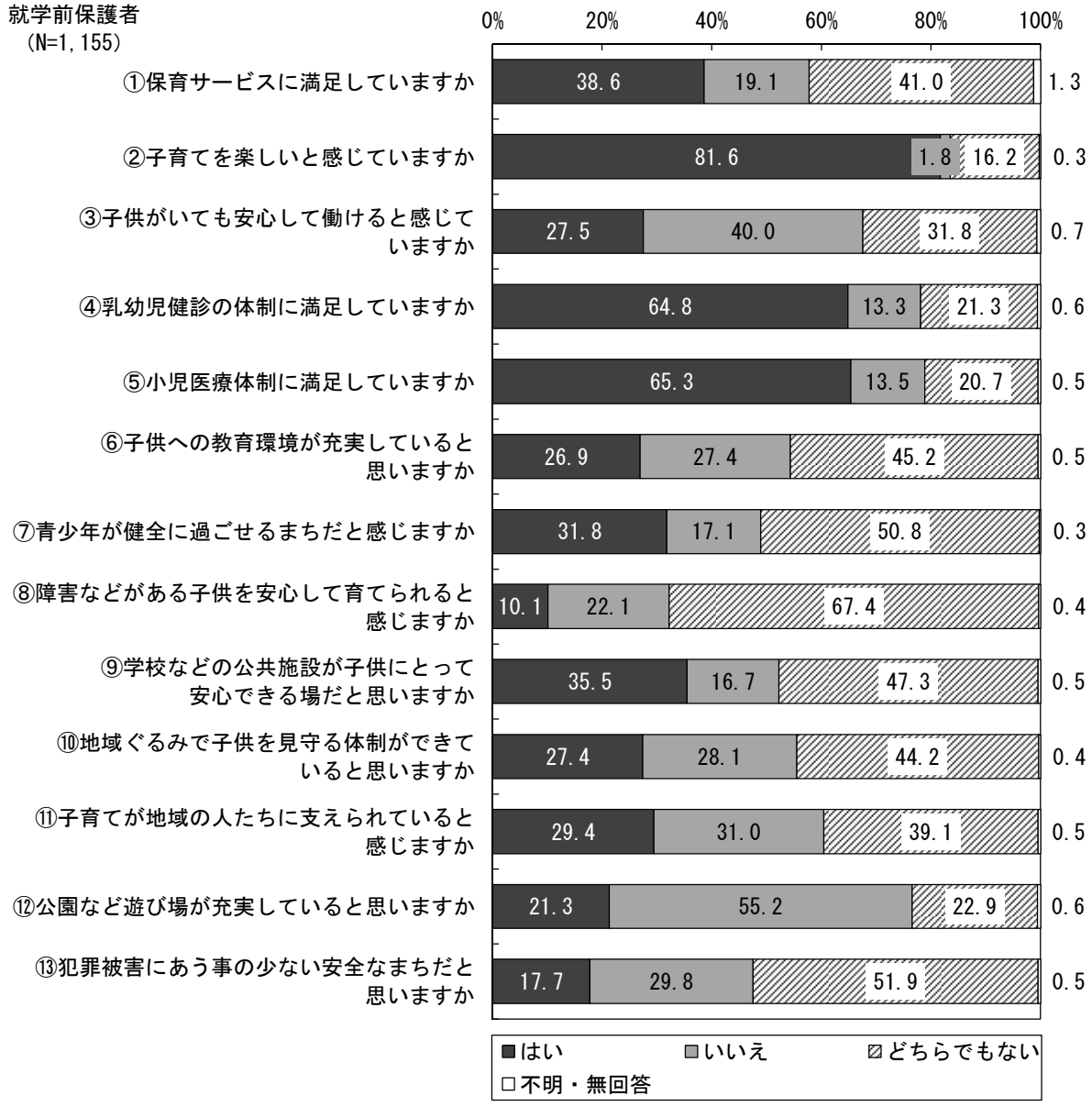


14　施策全般について

（１）和歌山市の子育て施策等に関して感じること

〔就学前保護者調査…問 34、小学生保護者調査…問 29〕

和歌山市の子育て施策等に関して感じることについて、就学前保護者では乳幼児健診の体制や小児医療体制への満足度が高くなっています。一方で、「子供がいても安心して働けると感じていますか」「障害などがある子供を安心して育てられると感じますか」「公園など遊び場が充実していると思いますか」「犯罪被害にあうことの少ない安全なまちだと思いますか」については、「はい」より「いいえ」が多く、市民の評価が低くなっています。



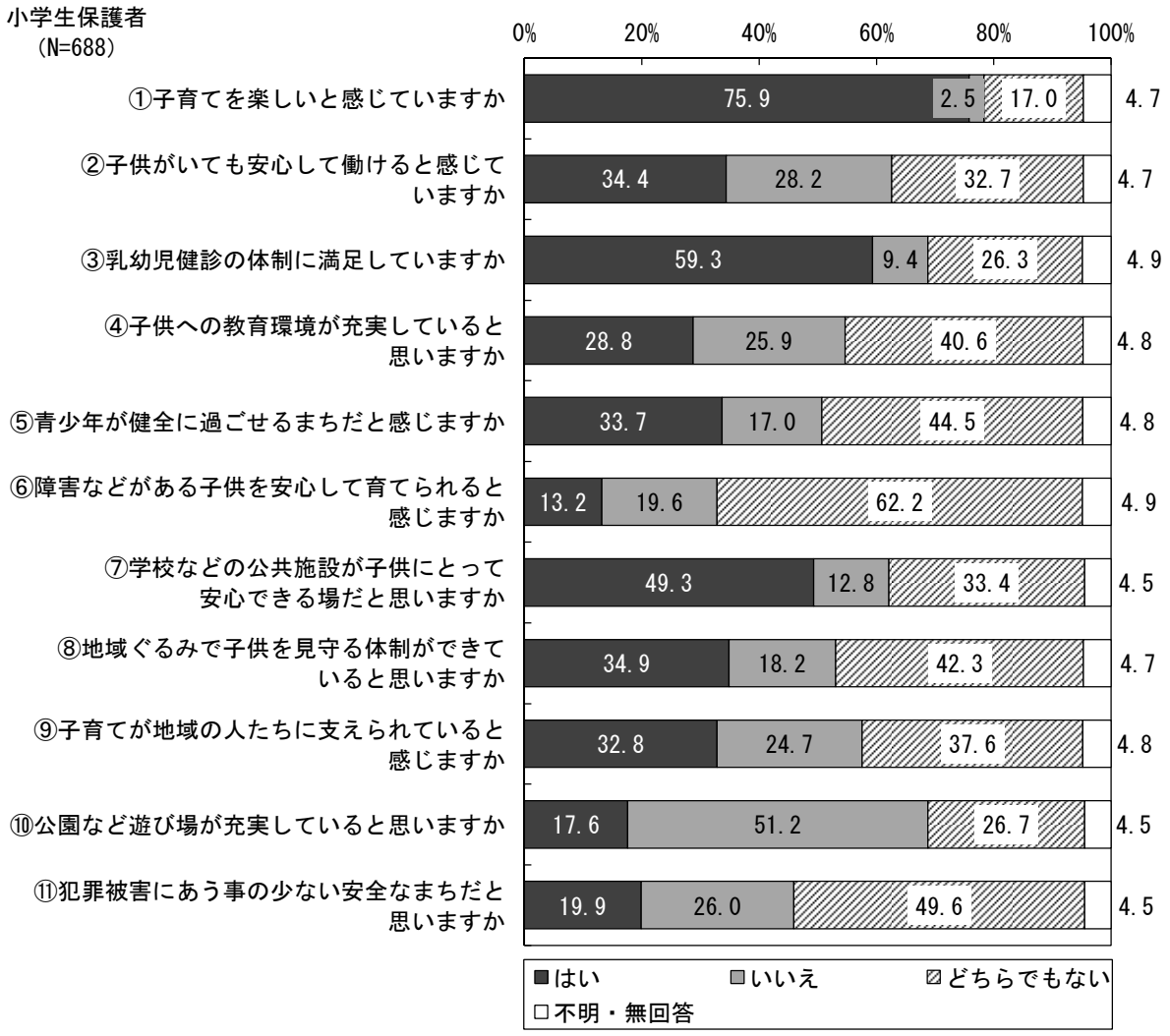
前回調査と比較すると、「保育サービスに満足していますか」「子供がいても安心して働けると感じていますか」「小児医療体制に満足していますか」「子供の教育環境が充実していると思いますか」「青少年が健全に過ごせるまちだと感じますか」「学校などの公共施設が子供にとって安心できる場だと思いますか」で「はい」が増加しています。「公園など遊び場が充実していると思いますか」では「いいえ」がやや増加しています。

■前回調査との比較（就学前保護者）

	平成25年調査				平成30年調査			
	はい	いいえ	どちらでもない	不明・無回答	はい	いいえ	どちらでもない	不明・無回答
①保育サービスに満足していますか	29.4	19.9	48.9	1.8	38.6	19.1	41.0	1.3
②子育てを楽しいと感じていますか	79.8	2.5	16.7	1.0	81.6	1.8	16.2	0.3
③子供がいても安心して働けると感じていますか	17.4	49.8	31.6	1.2	27.5	40.0	31.8	0.7
④乳幼児健診の体制に満足していますか	57.5	17.2	24.5	0.8	64.8	13.3	21.3	0.6
⑤小児医療体制に満足していますか	48.1	21.0	29.9	1.0	65.3	13.5	20.7	0.5
⑥子供への教育環境が充実していると思いますか	16.2	31.4	51.6	0.8	26.9	27.4	45.2	0.5
⑦青少年が健全に過ごせるまちだと感じますか	20.4	20.6	56.8	2.2	31.8	17.1	50.8	0.3
⑧障害などがある子供を安心して育てられると感じますか	7.1	26.2	64.0	2.7	10.1	22.1	67.4	0.4
⑨学校などの公共施設が子供にとって安心できる場だと思いますか	25.9	22.5	49.4	2.2	35.5	16.7	47.3	0.5
⑩地域ぐるみで子供を見守る体制ができていると思いますか	22.6	30.3	44.9	2.2	27.4	28.1	44.2	0.4
⑪子育てが地域の人たちに支えられていると感じますか	24.0	31.9	41.9	2.2	29.4	31.0	39.1	0.5
⑫公園など遊び場が充実していると思いますか	21.2	51.0	25.7	2.0	21.3	55.2	22.9	0.6
⑬犯罪被害にあう事の少ない安全なまちだと思いますか	15.4	31.7	50.7	2.2	17.7	29.8	51.9	0.5

和歌山市の子育て施策等に関して感じることについて、小学生保護者では就学前保護者とほぼ同様の結果となっています。「公園など遊び場が充実していると思いますか」については、就学前保護者と同様に「はい」を「いいえ」が大きく上回っています。

前回調査と比較すると、「子供がいても安心して働けると感じていますか」「子供への教育環境が充実していると思いますか」「青少年が健全に過ごせるまちだと感じますか」「地域ぐるみで子供を見守る体制ができていると思いますか」で「はい」がやや増加しています。

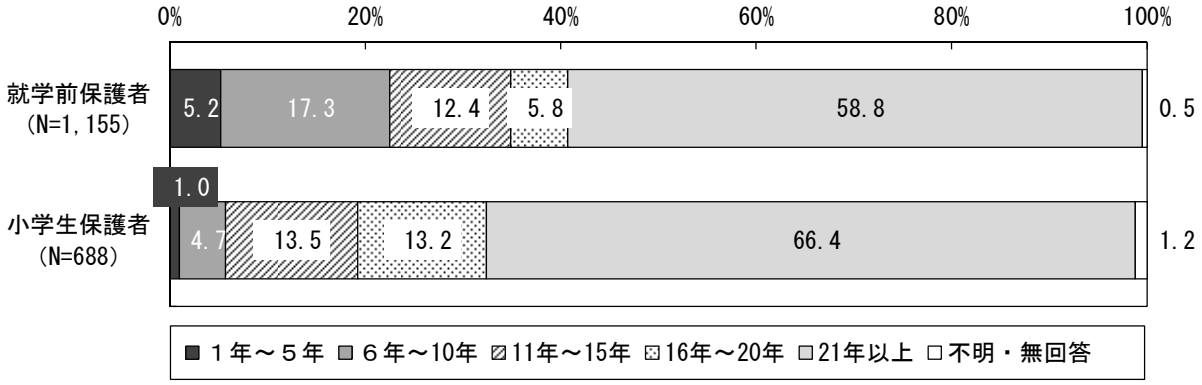


■前回調査との比較（小学生保護者）

	平成 25 年調査				平成 30 年調査			
	はい	いいえ	どちらでもない	不明・無回答	はい	いいえ	どちらでもない	不明・無回答
①子育てを楽しいと感じていますか	75.5	2.0	20.8	1.8	75.9	2.5	17.0	4.7
②子供がいても安心して働けると感じていますか	24.7	36.4	37.3	1.5	34.4	28.2	32.7	4.7
③乳幼児健診の体制に満足していますか	53.6	12.8	31.1	2.4	59.3	9.4	26.3	4.9
④子供への教育環境が充実していると思いますか	20.3	30.7	46.8	2.2	28.8	25.9	40.6	4.8
⑤青少年が健全に過ごせるまちだと感じますか	28.5	17.7	51.9	2.0	33.7	17.0	44.5	4.8
⑥障害などがある子供を安心して育てられると感じますか	8.4	21.6	67.5	2.4	13.2	19.6	62.2	4.9
⑦学校などの公共施設が子供にとって安心できる場だと思いますか	48.6	15.9	33.3	2.2	49.3	12.8	33.4	4.5
⑧地域ぐるみで子供を見守る体制ができていると思いますか	29.4	25.6	42.8	2.2	34.9	18.2	42.3	4.7
⑨子育てが地域の人たちに支えられていると感じますか	30.2	28.7	39.3	1.8	32.8	24.7	37.6	4.8
⑩公園など遊び場が充実していると思いますか	19.2	57.4	21.4	2.0	17.6	51.2	26.7	4.5
⑪犯罪被害にあう事の少ない安全なまちだと思いますか	20.3	26.5	51.2	2.0	19.9	26.0	49.6	4.5

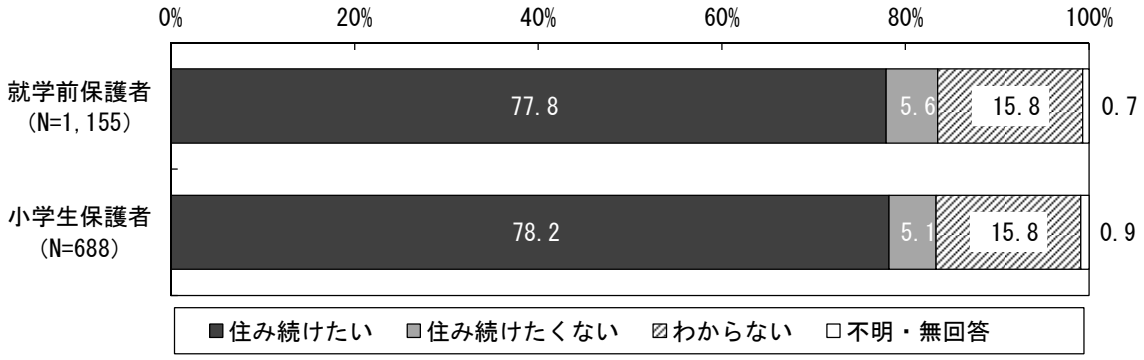
（２）居住年数〈数量回答〉〔就学前保護者調査…問 35、小学生保護者調査…問 30〕

居住年数についてみると、就学前保護者、小学生保護者ともに「21 年以上」が半数を超えています。10 年以下の回答は、就学前保護者では 22.5％ですが、小学生保護者では 5.7％となっています。



（３）居住希望〔就学前保護者調査…問 36、小学生保護者調査…問 31〕

居住希望についてみてみると、就学前保護者、小学生保護者ともに、今後も和歌山市に「住み続けたい」が７割を超えており、「住み続けたくない」はいずれも５％台となっています。

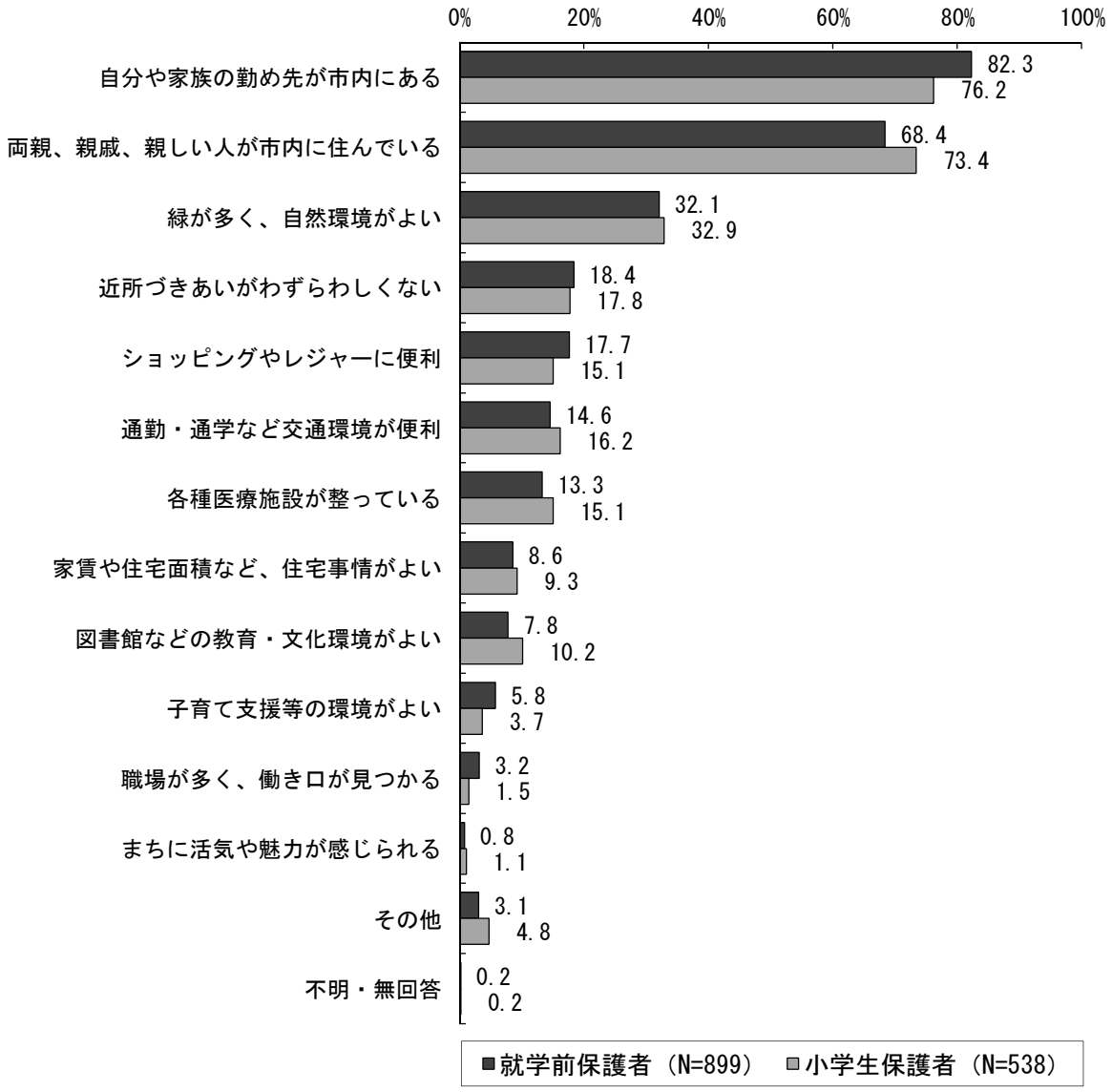


（３）で「住み続けたい」を選んだ方

（３）－１　住み続けたいと感じる理由〈複数回答〉

〔就学前保護者調査…問 36-1、小学生保護者調査…問 31-1〕

住み続けたい理由については、就学前保護者、小学生保護者ともに「自分や家族の勤め先が市内にある」が最も多く、次いで「両親、親戚、親しい人が市内に住んでいる」が多くなっています。

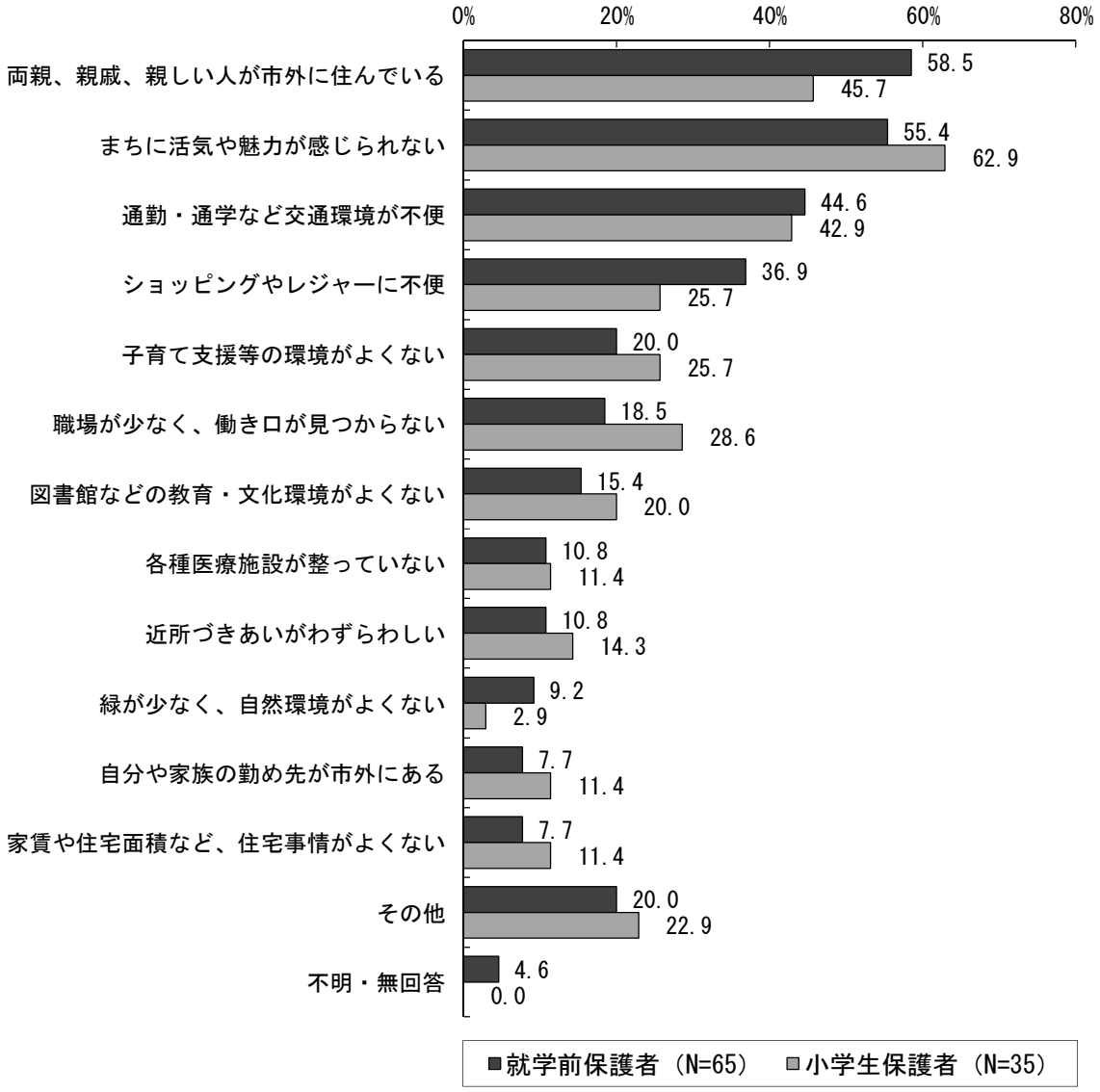


（３）で「住み続けたくない」を選んだ方

（３）－２　住み続けたくないと感じる理由〈複数回答〉

〔就学前保護者調査…問 36-2、小学生保護者調査…問 31-2〕

住み続けたくない理由については、就学前保護者、小学生保護者ともに「両親、親戚、親しい人が市外に住んでいる」「まちに活気や魅力が感じられない」が多く、「通勤・通学など交通環境が不便」も４割を超えています。



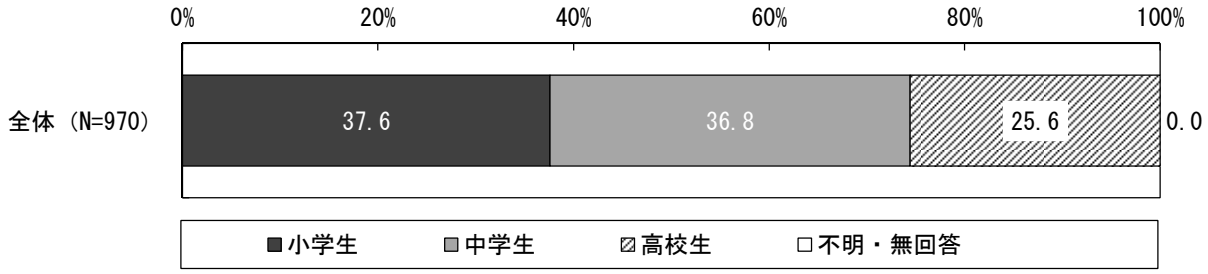
Ⅲ. 調査結果

（小学生・中学生・高校生調査）

１　性別や学年などについて

（１）学年〔小学生・中学生・高校生調査…問2〕

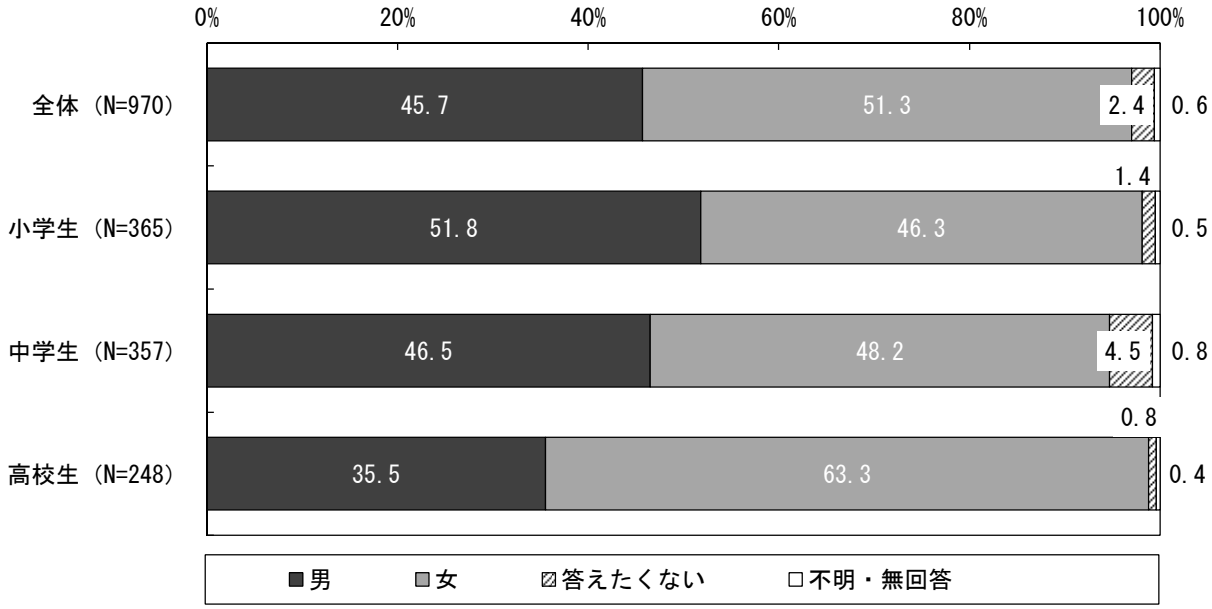
小学生と中学生がほぼ同数、高校生がやや少なくなっています。



※学年：小学生はすべて「５年生（365 件）」、中学生すべて「２年生（357 件）」、高校生「１年生」が１件、「２年生」が 246 件、「３年生」が１件となっています。

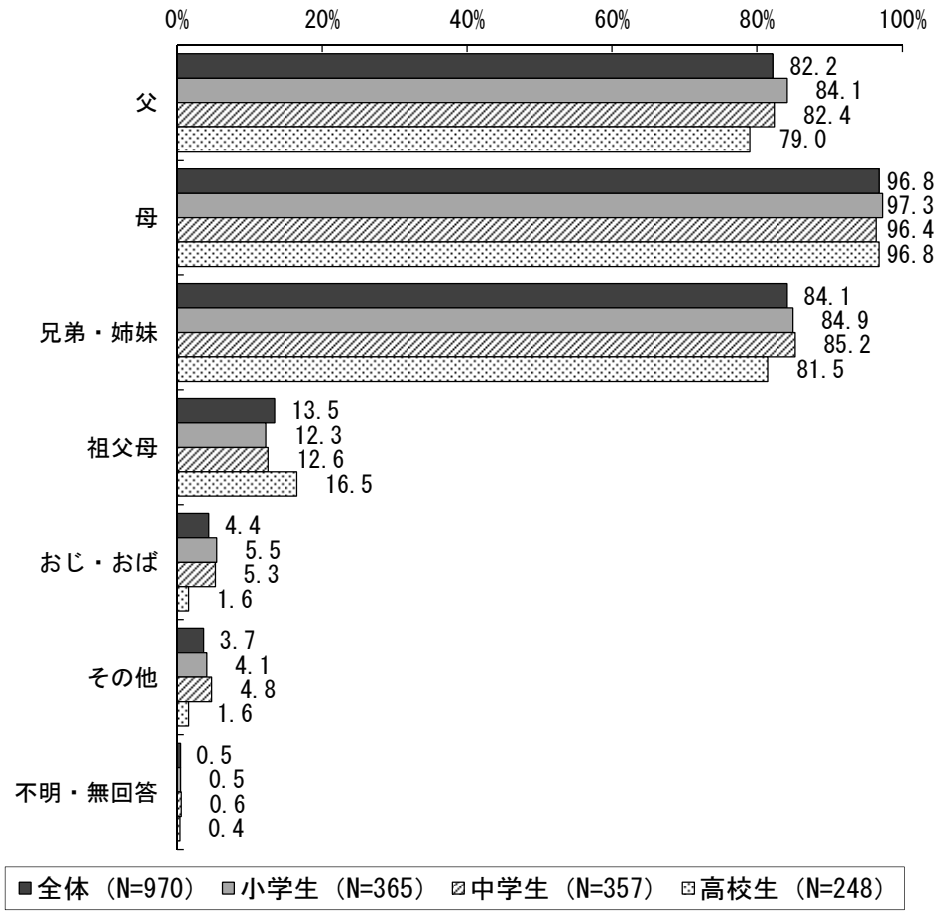
（２）性別〔小学生・中学生・高校生調査…問1〕

「小学生」は「男」がやや多く、「高校生」は「女」が多くなっています。



（３）同居している家族〈複数回答〉〔小学生・中学生・高校生調査…問3〕

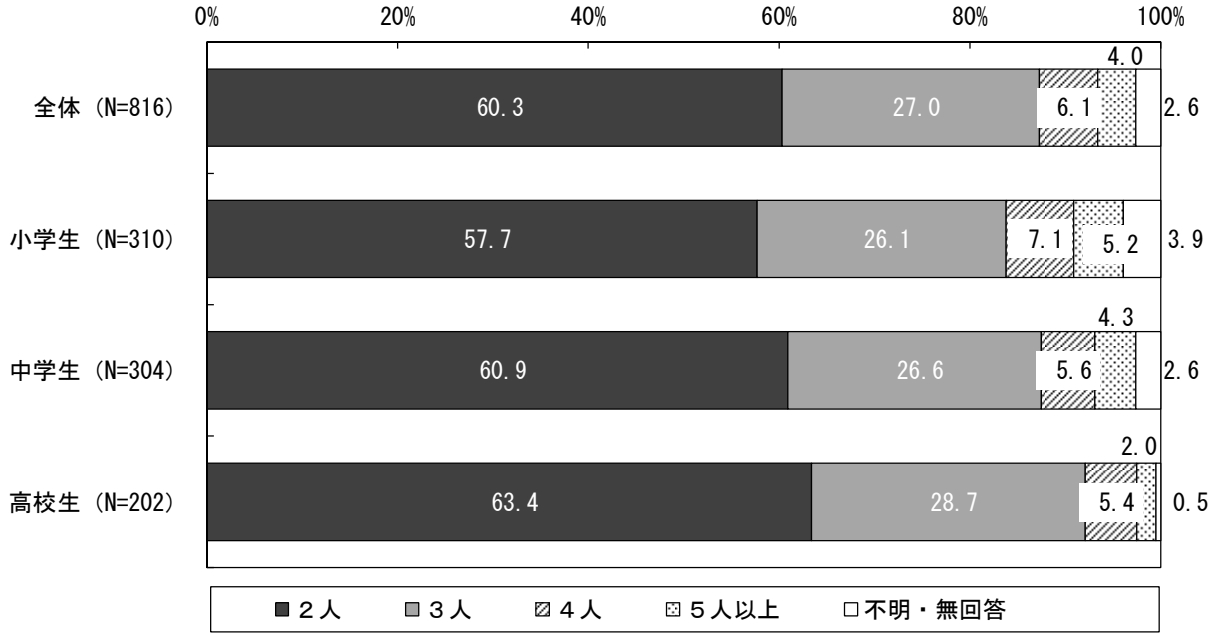
同居している家族についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「父」「母」「兄弟・姉妹」が上位３件を占めています。



（３）で「兄弟・姉妹」を選んだ方

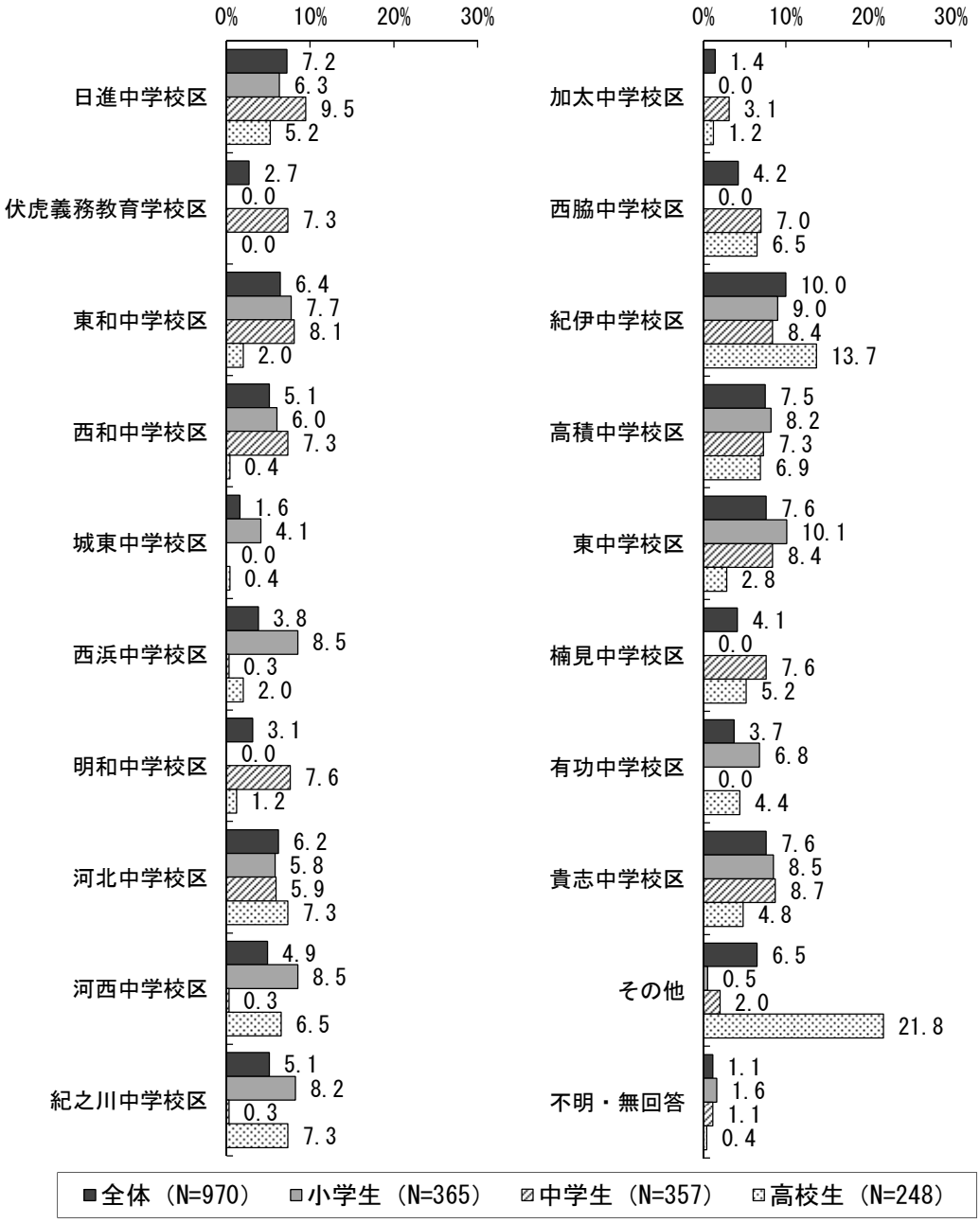
（３）－１　兄弟・姉妹の人数〈数量回答〉〔小学生・中学生・高校生調査…問3〕

兄弟・姉妹がいる人のその人数（本人を含む）についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「２人」が６割前後を占めています。



（４）お住まいの中学校区〔小学生・中学生・高校生調査…問4〕

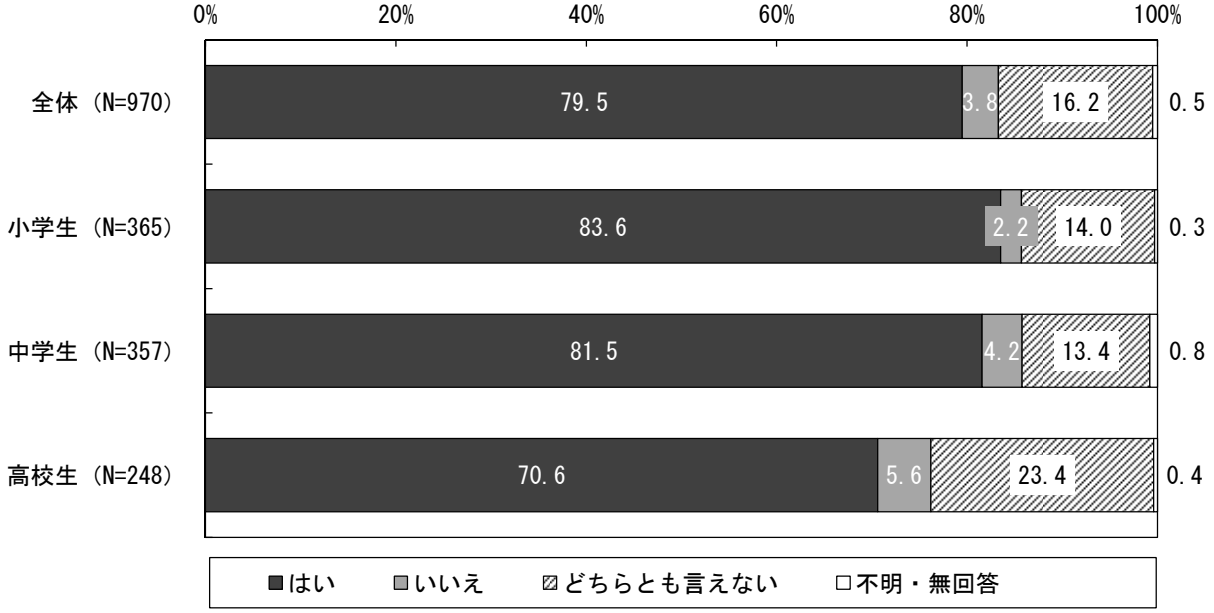
お住まいの中学校区は、以下のとおりとなっています。



２　学校生活について

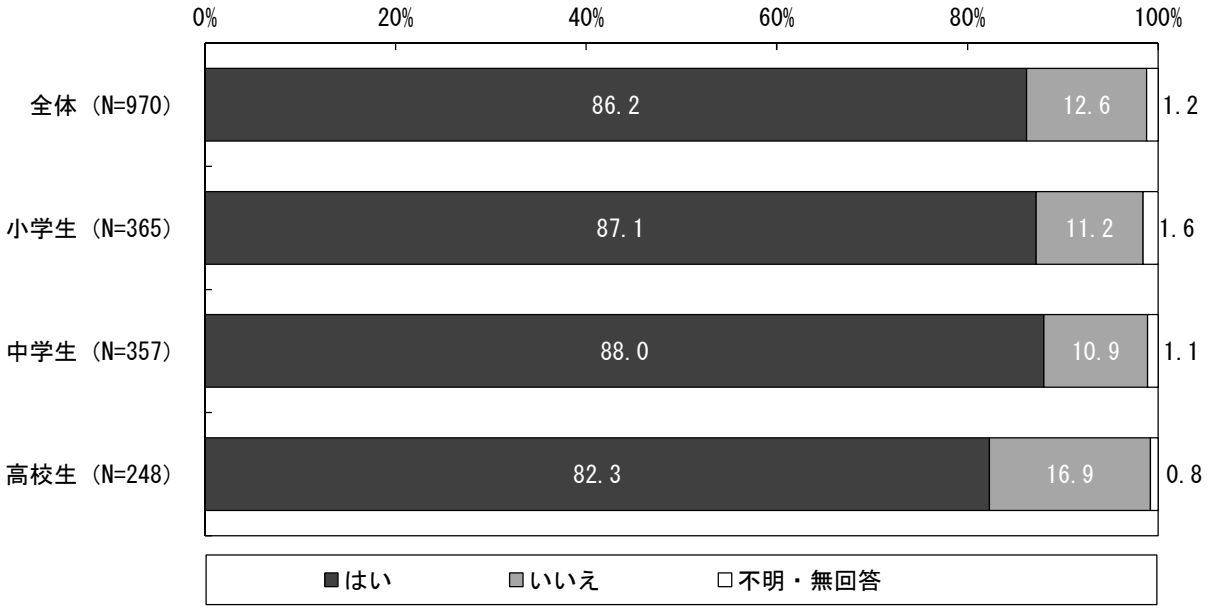
（１）学校の楽しさ〔小学生・中学生・高校生調査…問5〕

学校が楽しいかどうかについてみると、小学生、中学生、高校生ともに「はい（楽しい)」が多くなっていますが、小学生、中学生では「はい」が８割を超えているのに対し、高校生では７割とやや少なくなっています。



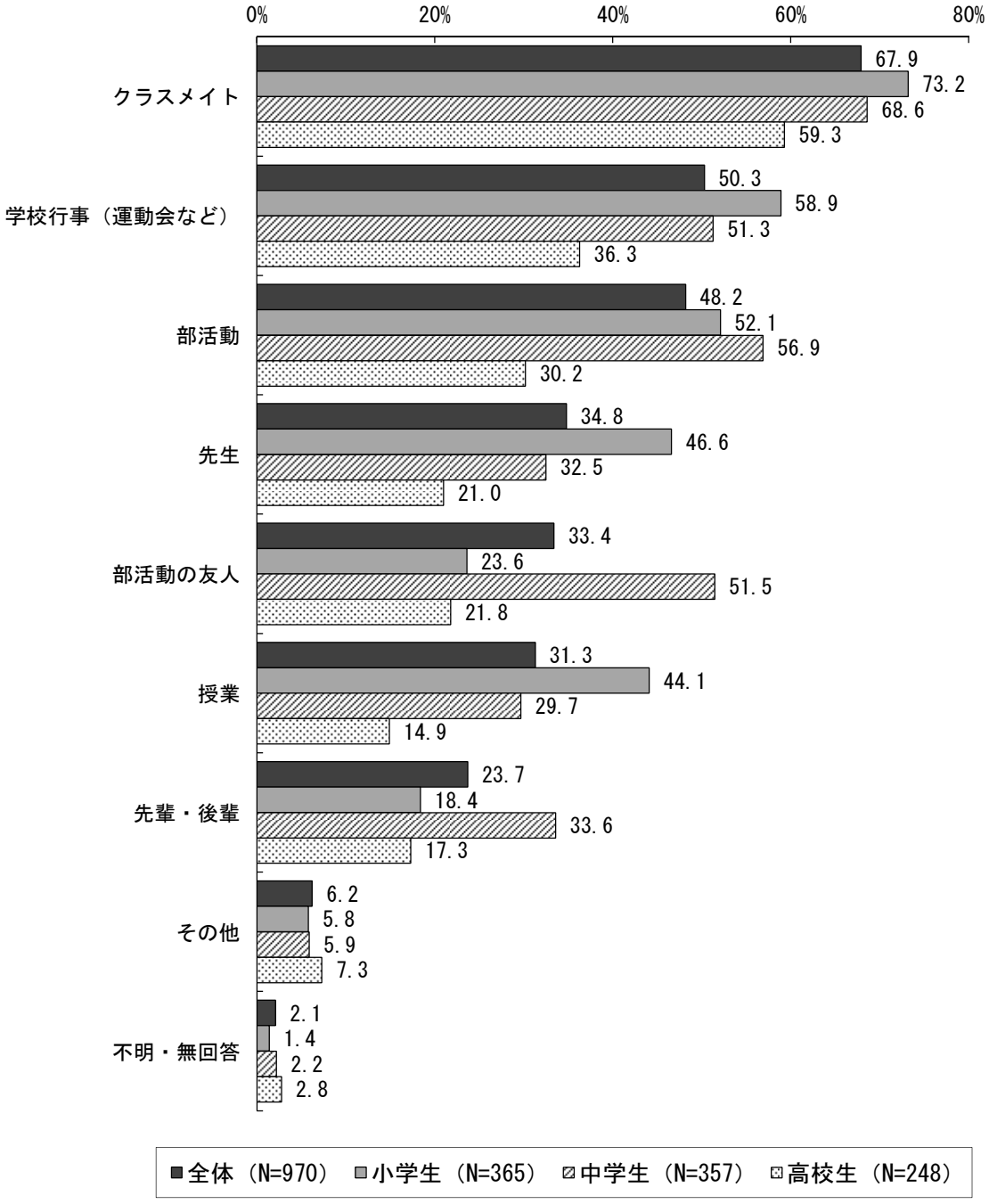
（２）親友の有無〔小学生・中学生・高校生調査…問6〕

親友の有無についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「はい（いる)」が８割を超えています。



（３）学校生活において良いと思うもの〈複数回答〉〔小学生･中学生･高校生調査…問7〕

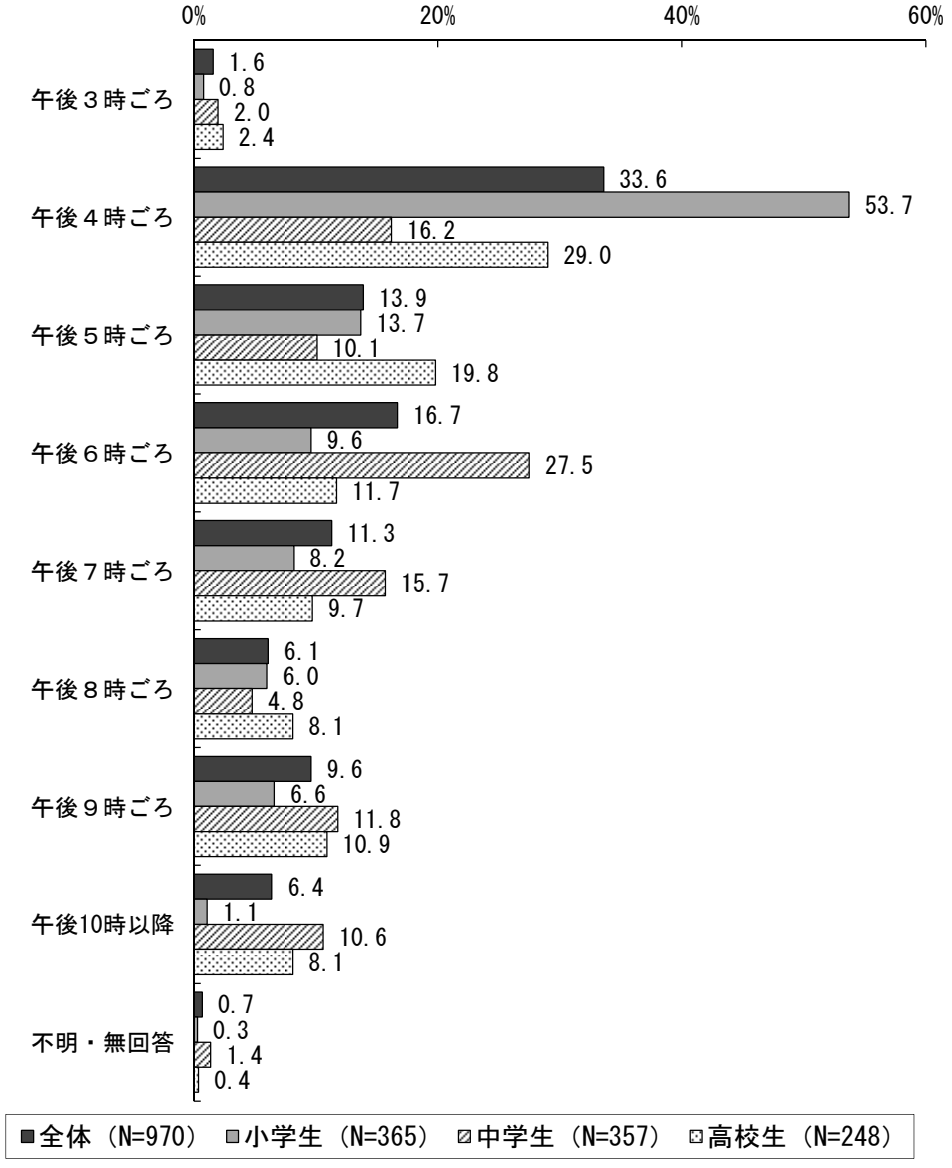
学校生活において良いと思うものについてみると、小学生、中学生、高校生ともに「クラスメイト」が最も多くなっています。「授業」「学校行事」「先生」については、学年が上がるほど回答が少なくなっています。



３　放課後や休日の過ごし方について

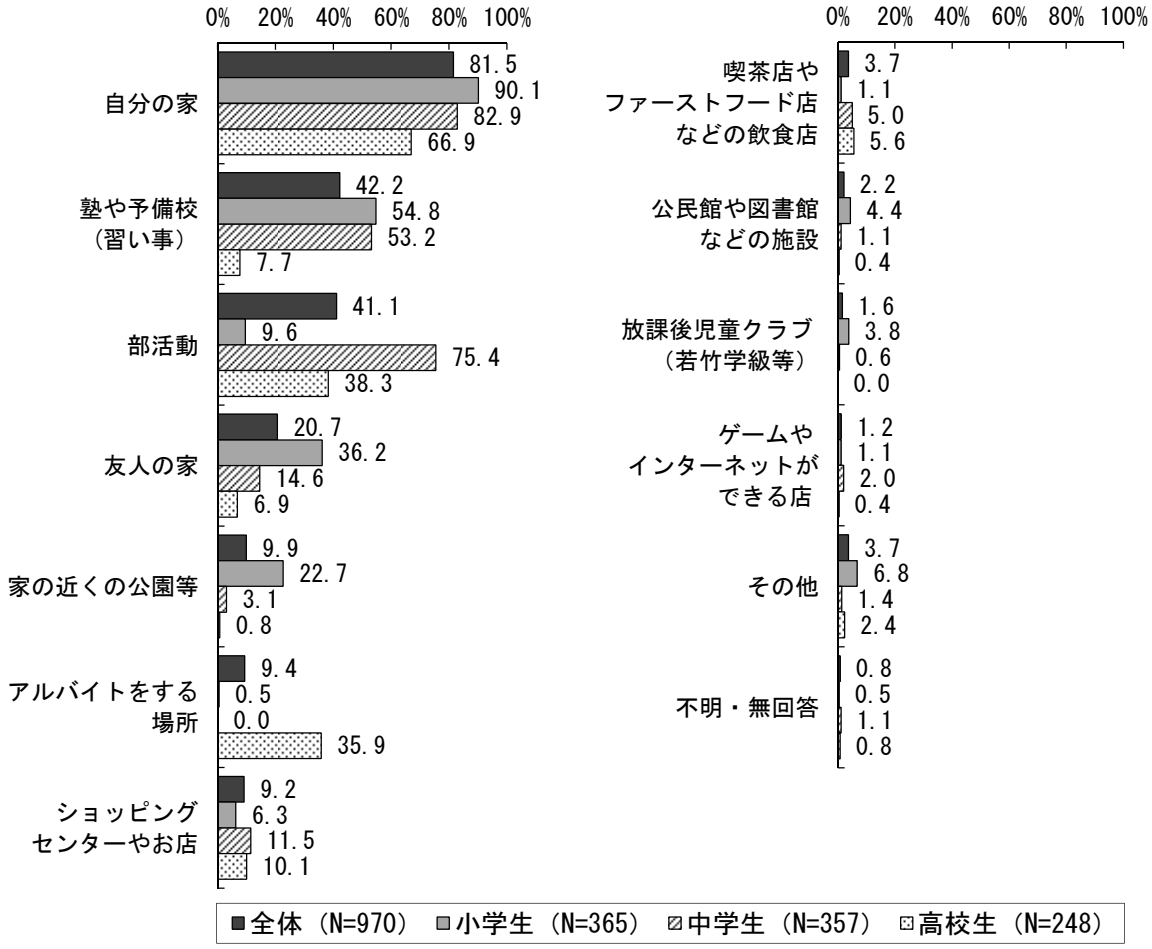
（１）学校のある日の帰宅時間〔小学生・中学生・高校生調査…問8〕

学校のある日の帰宅時間についてみると、小学生、高校生は「午後４時ごろ」が最も多く、中学生は「午後６時ごろ」が最も多くなっています。全体的に中学生の帰宅時刻が最も遅い傾向です。



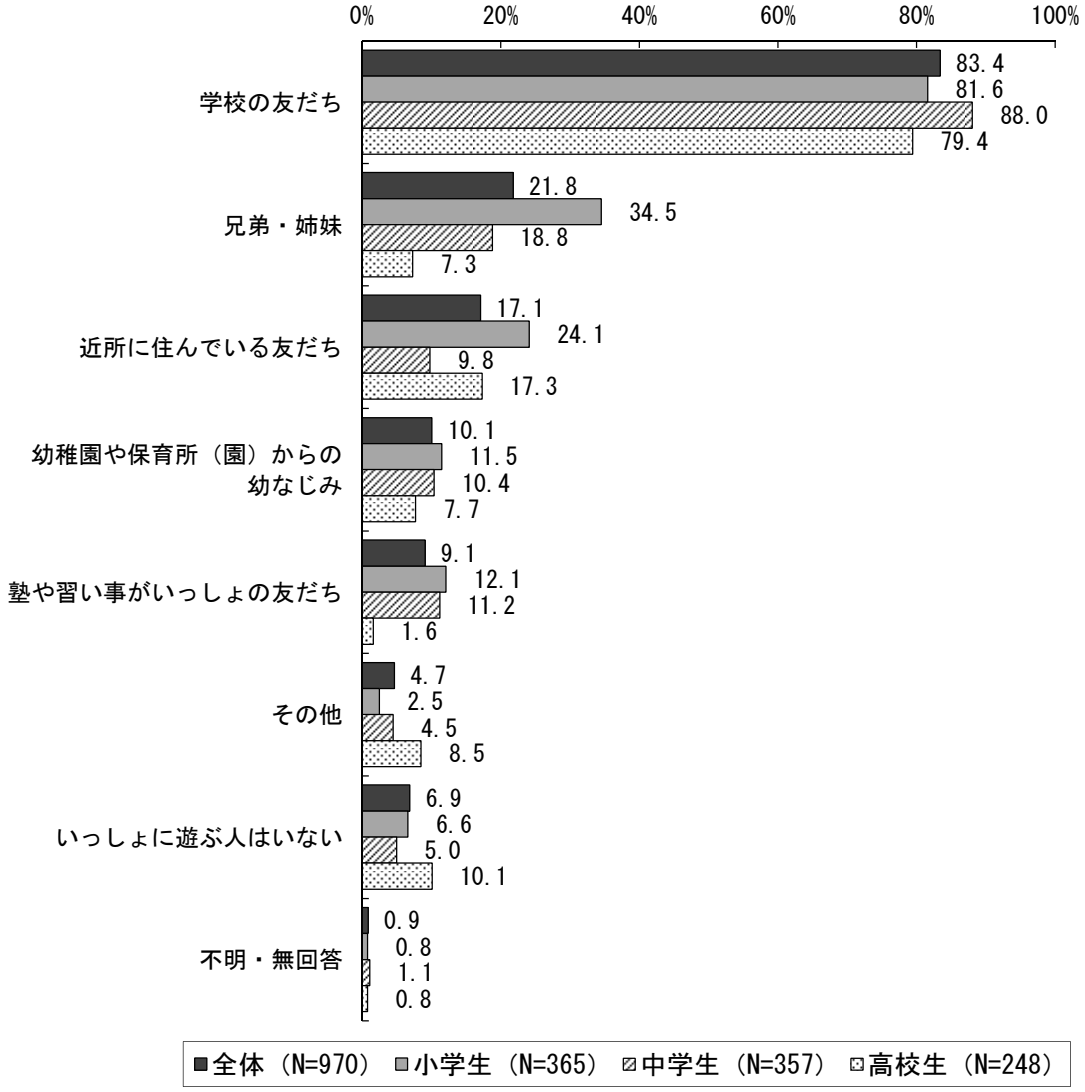
（２）放課後の過ごし方〈複数回答〉〔小学生・中学生・高校生調査…問9〕

放課後の過ごし方についてみると、いずれの学年も「自分の家」が最も多く、次いで小学生は「塾や予備校」「友人の家」、中学生は「部活動」「塾や予備校」、高校生は「部活動」「アルバイトをする場所」が多くなっています。



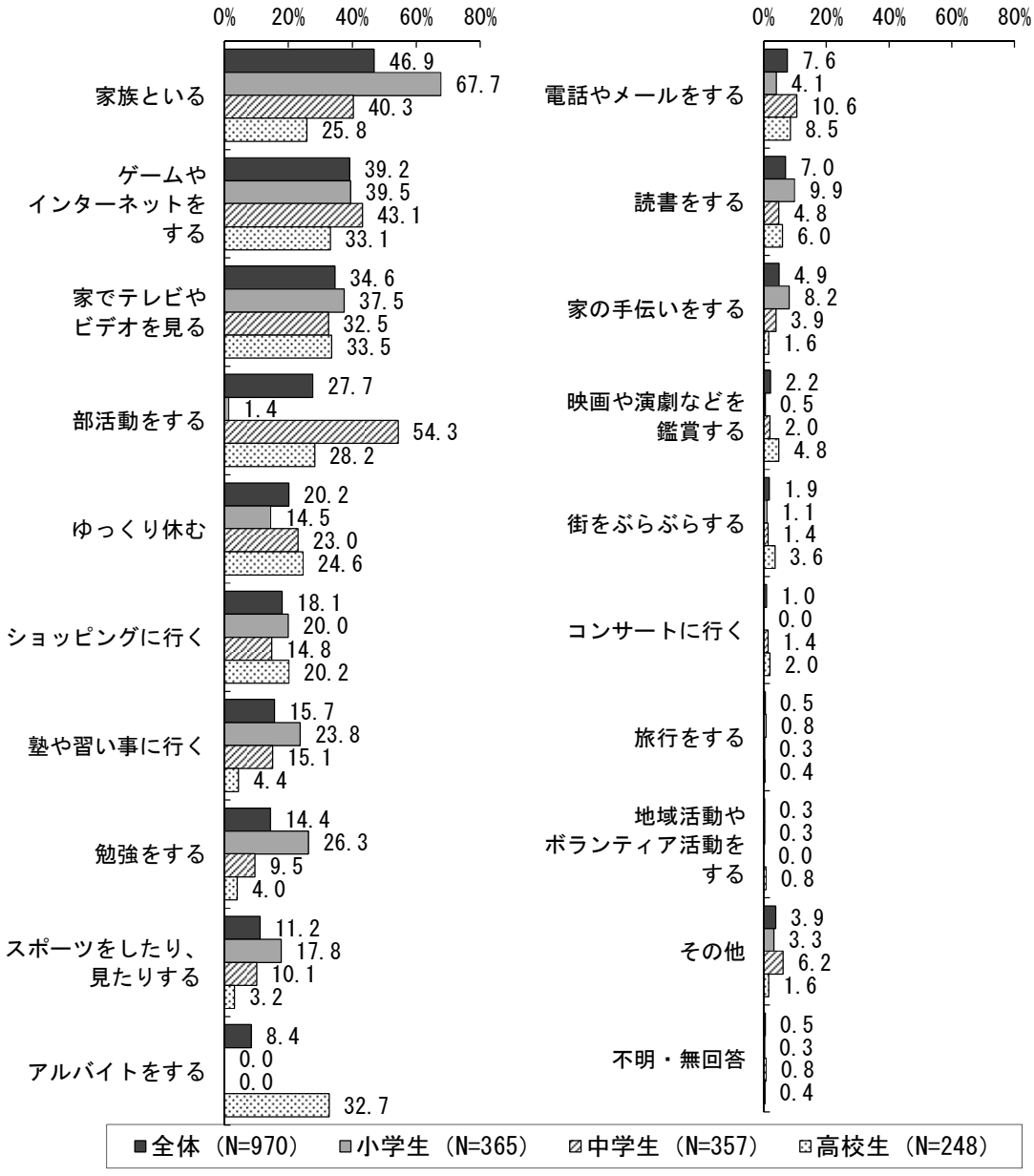
（３）ふだん、放課後に一緒に遊ぶ人〈複数回答〉〔小学生・中学生・高校生調査…問 10〕

ふだん、放課後に一緒に遊ぶ人についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「学校の友だち」が最も多くなっています。



（４）休日の過ごし方〈複数回答〉〔小学生・中学生・高校生調査…問 11〕

休日の過ごし方についてみると、小学生は「家族といる」が、中学生は「部活動をする」が半数を超えて最も多く、高校生では「家でテレビやビデオを見る」「ゲームやインターネットをする」「アルバイトをする」がいずれも３割台となっています。



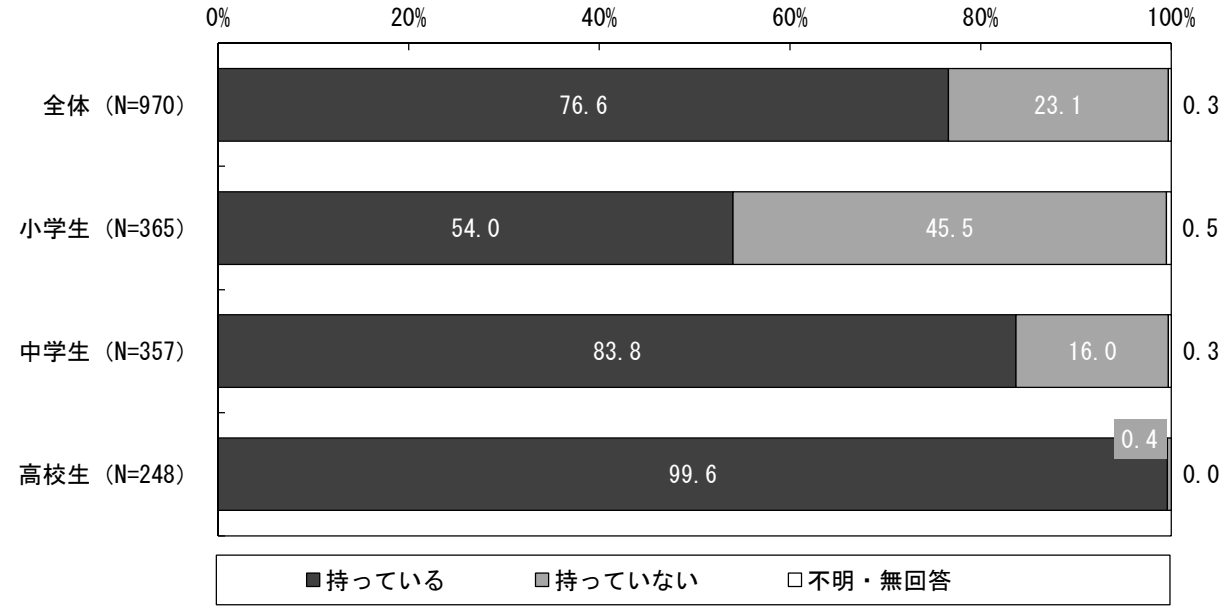
４　携帯電話（スマートフォン）やパソコンの利用について

（１）自分の携帯電話（スマートフォン）の所持の有無

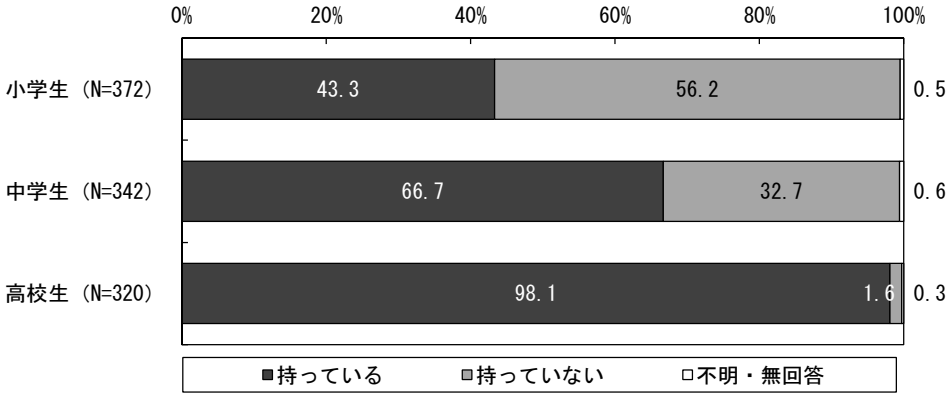
〔小学生・中学生・高校生調査…問 12〕

自分の携帯電話(スマートフォン)の所持の有無についてみると、小学生の 54.0%、中学生の 83.8%、高校生の 99.6%が「持っている」と回答しています。

前回調査と比較すると、小学生、中学生の所持率が増加しています。



前回(H25年)調査

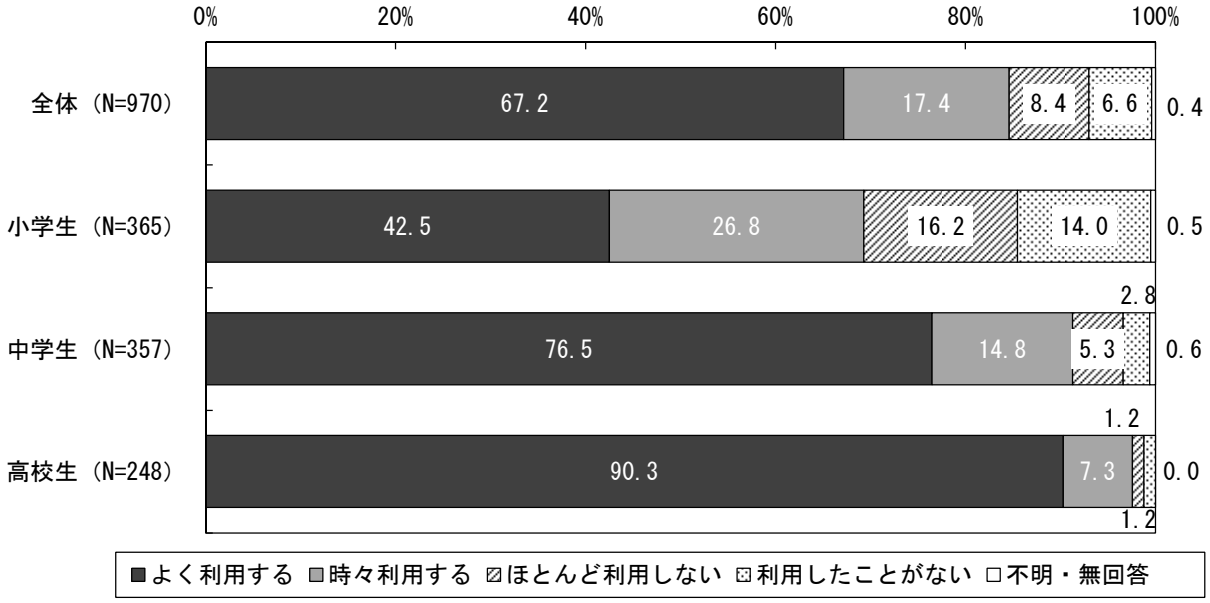


（２）携帯電話（スマートフォン）やパソコンでのインターネットの利用の有無

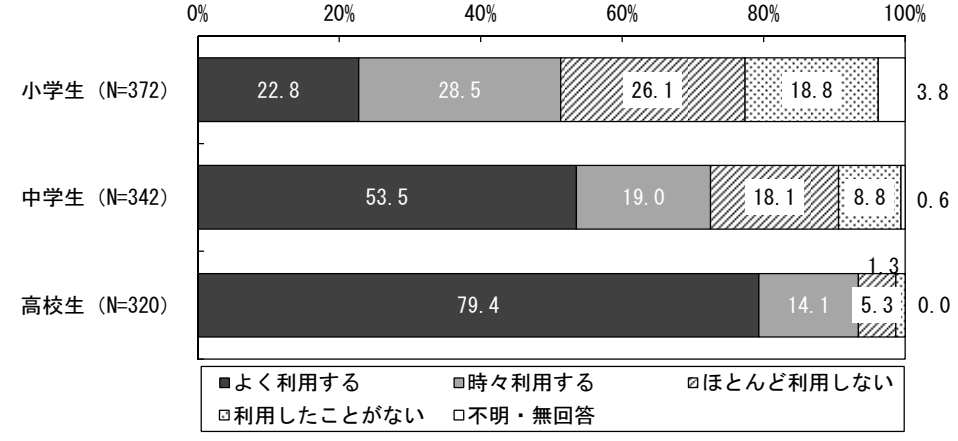
〔小学生・中学生・高校生調査…問 13〕

携帯電話(スマートフォン)やパソコンでのインターネットの利用の有無についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「よく利用する」が最も多く、高校生では９割を超えています。

前回調査と比較すると、特に小学生、中学生で「よく利用する」が大幅に増加しています。



前回(H25年)調査

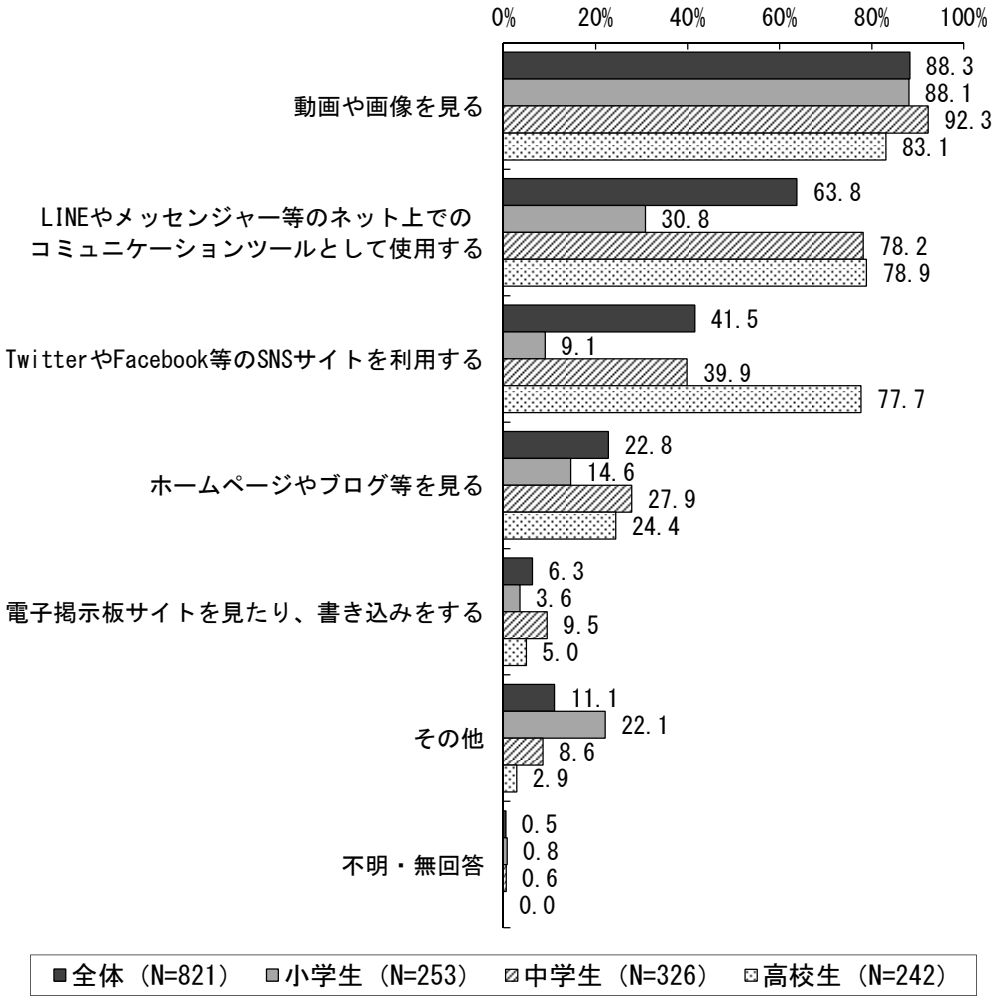


（２）で「よく利用する」「時々利用する」を選んだ方

（２）－１　携帯電話（スマートフォン）やパソコンでインターネットを使う目的

〈複数回答〉〔小学生・中学生・高校生調査…問 13-1〕

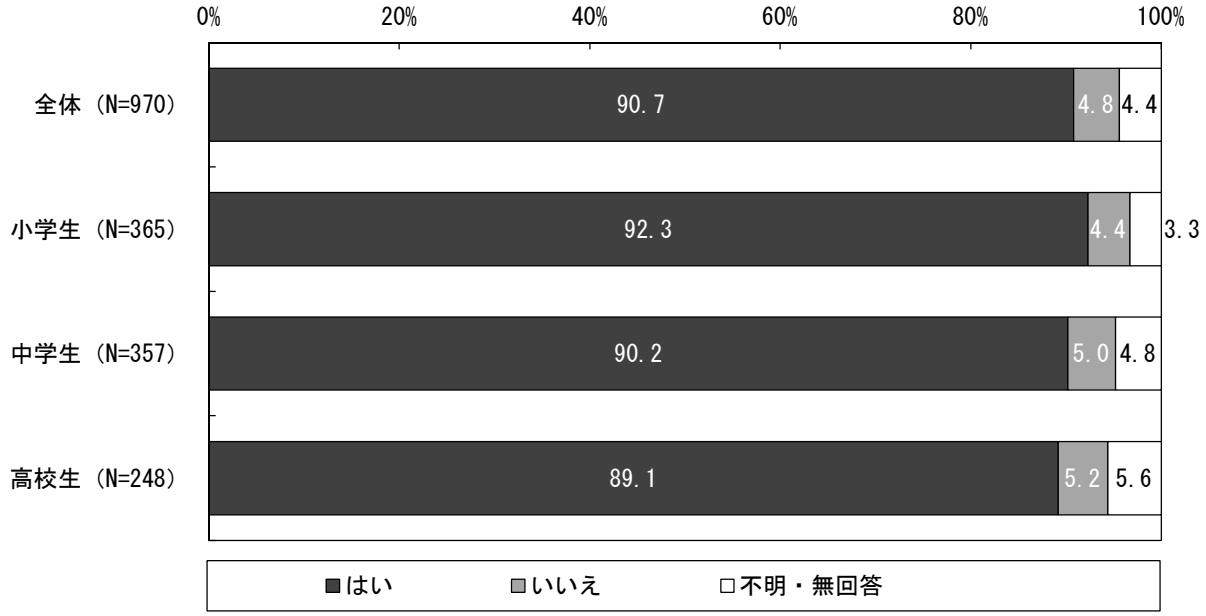
携帯電話（スマートフォン）やパソコンでインターネットを使う目的についてみると、いずれの学年も「動画や画像を見る」が最も多く、次いで、中学生、高校生では「Line やメッセンジャー等のネット上でのコミュニケーションツールとして使用する」が約８割、高校生では「Twitter や Facebook 等の SNS サイトを利用する」も８割近い回答があります。



５　日常生活の様子やふだん思っていることについて

（１）ふだんの家族との会話の有無〔小学生・中学生・高校生調査…問 14〕

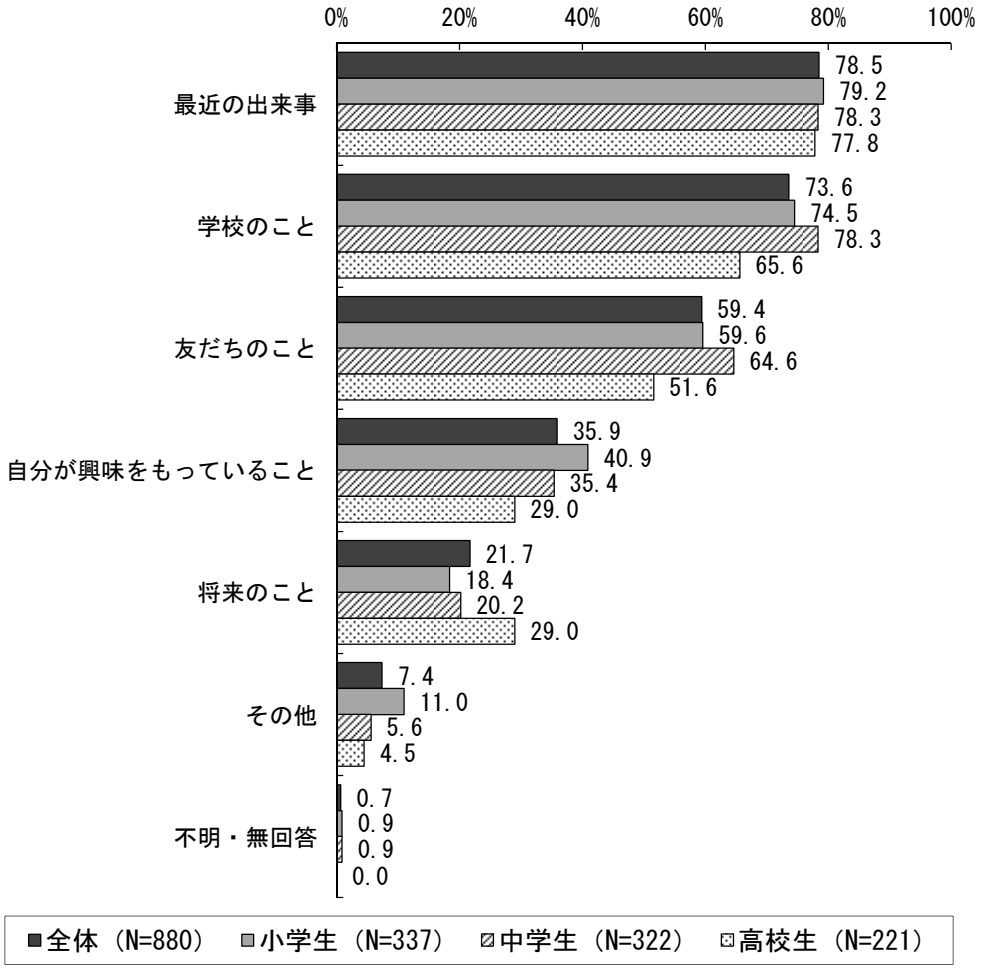
ふだんの家族との会話の有無についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「はい（している）」が９割前後となっており、「いいえ（していない）」は５％前後となっています。



（１）で「はい」を選んだ方

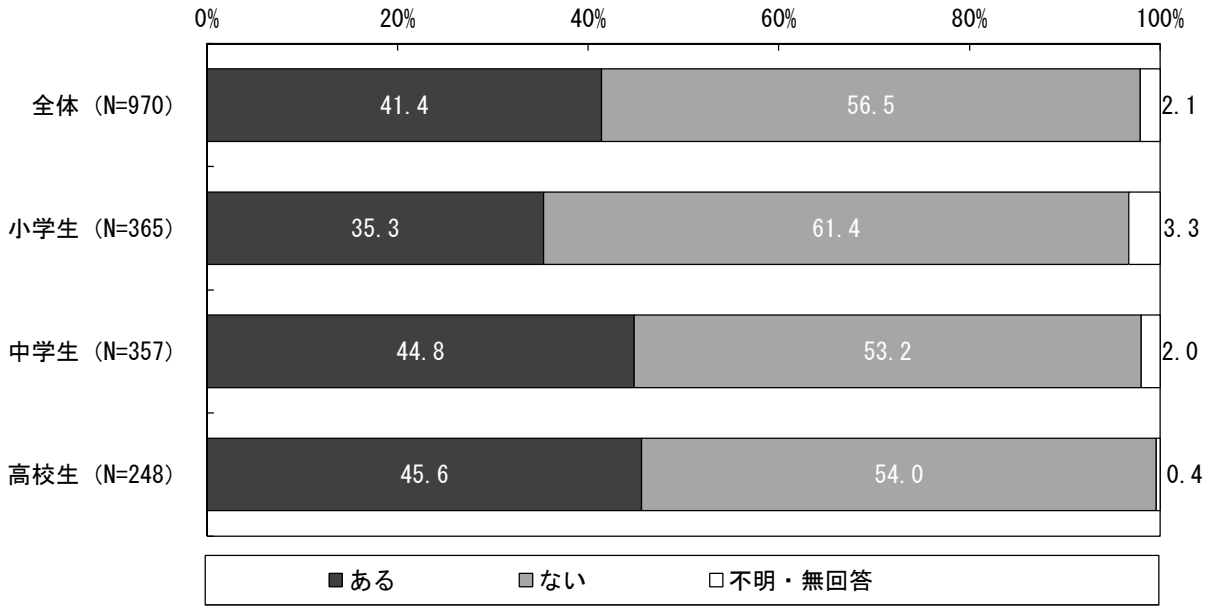
（１）－１　主に話す内容〈複数回答〉〔小学生・中学生・高校生調査…問 14-1〕

主に話す内容についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「最近の出来事」「学校のこと」が多く、次いで「友だちのこと」が多くなっています。



（２）悩んでいることの有無〔小学生・中学生・高校生調査…問 15〕

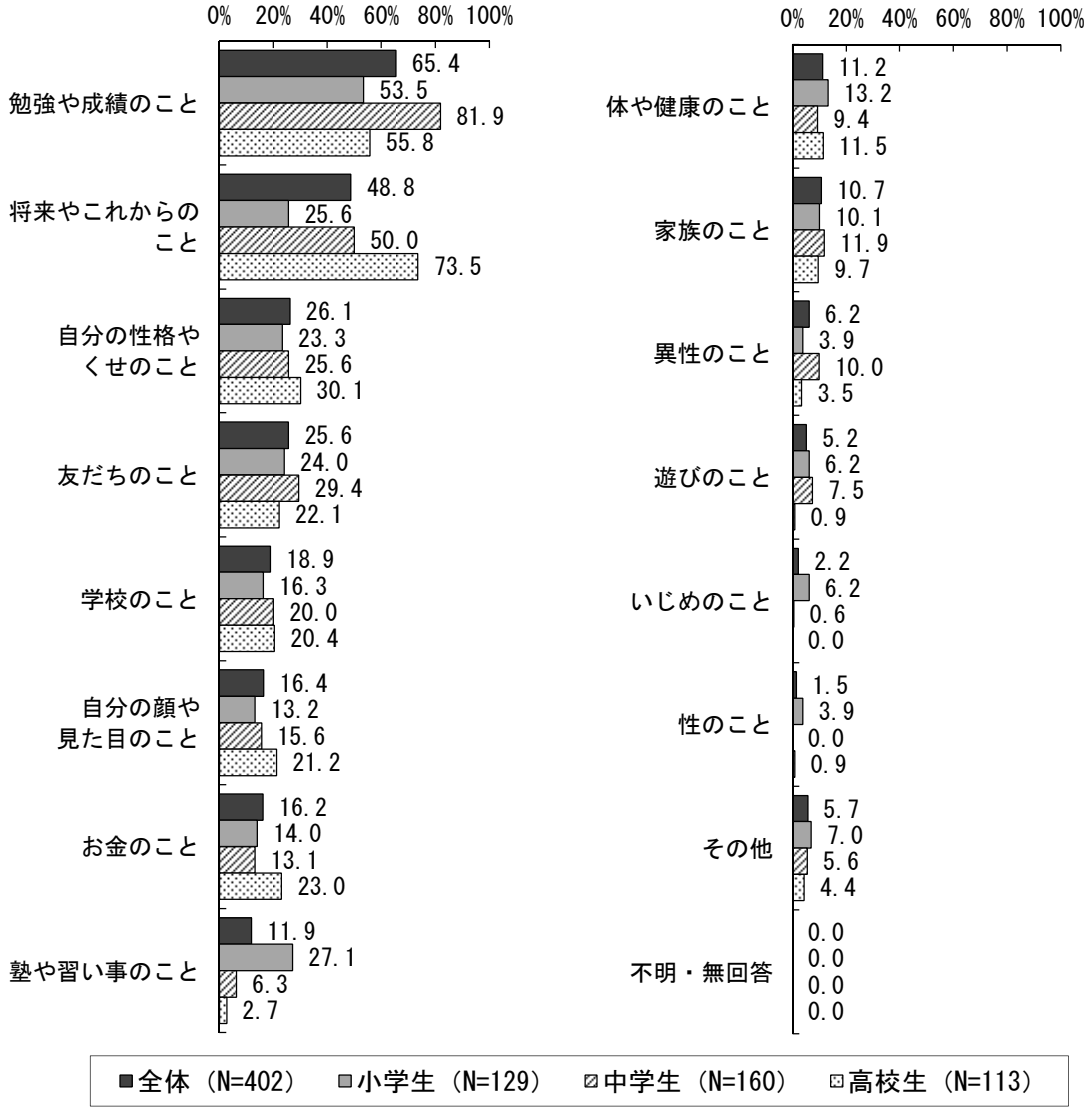
悩んでいることの有無についてみると、「ある」は小学生では 35.3%ですが、中学生では 44.8%、高校生では 45.6%となっており、中高生では半数近くが何らかの悩みごとを抱えていることがうかがえます。



（２）で「ある」を選んだ方

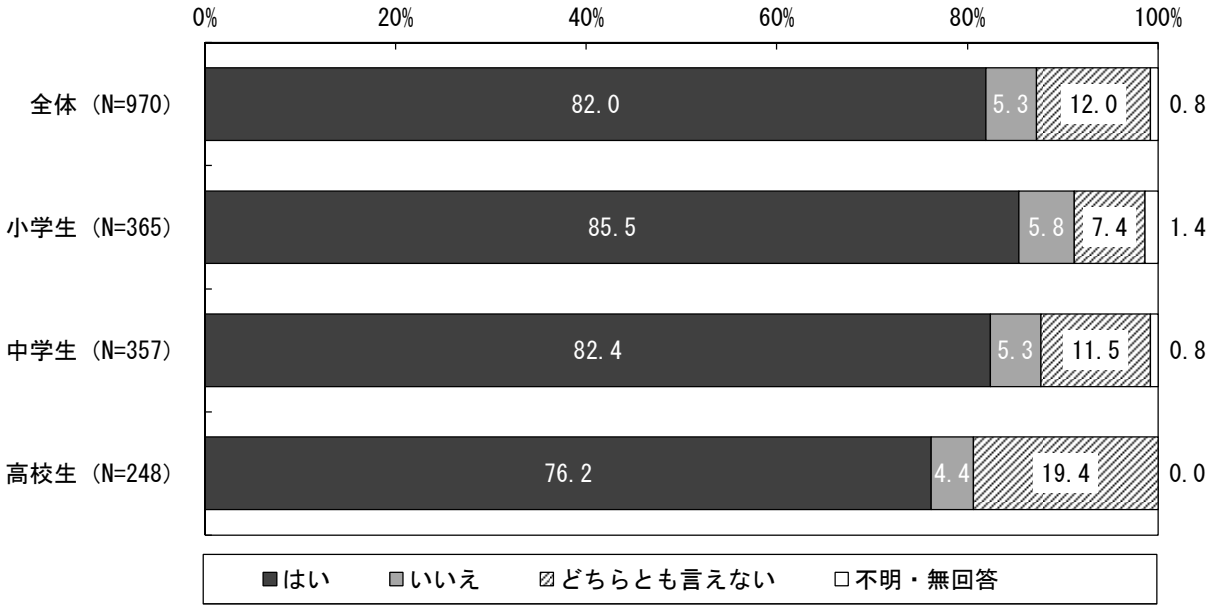
（２）－１　悩んでいる内容〈複数回答〉〔小学生･中学生･高校生調査…問 15-1〕

悩んでいる内容についてみると、小学生、中学生は「勉強や成績のこと」が最も多く、高校生は、「将来やこれからのこと」が最も多くなっています。



（３）悩みを相談できる人の有無〔小学生・中学生・高校生調査…問 16〕

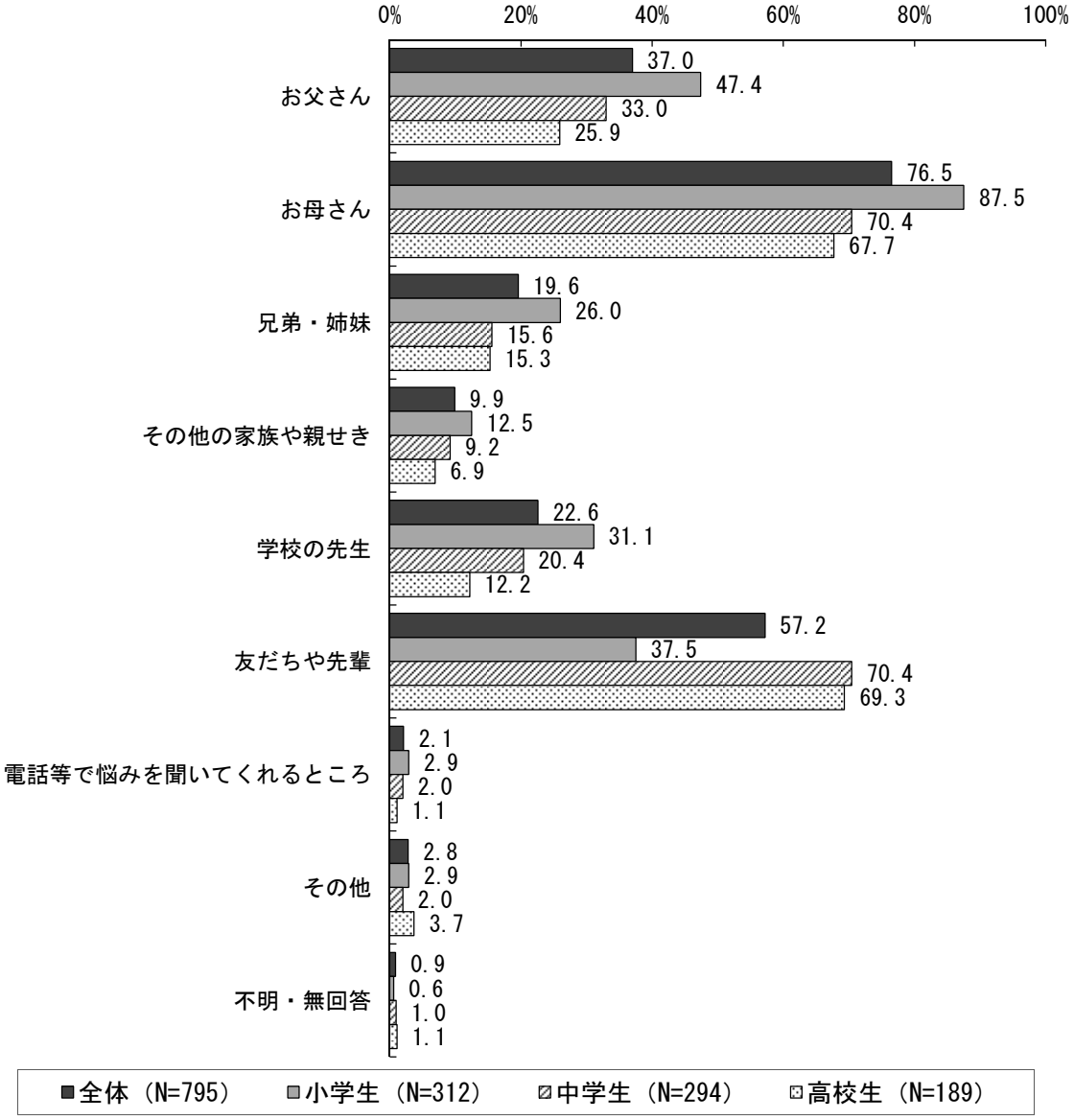
悩みを相談できる人の有無についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「はい（いる）」が８割前後となっています。「いいえ」はいずれの学年も５％前後となっています。



（３）で「はい」（いる）を選んだ方

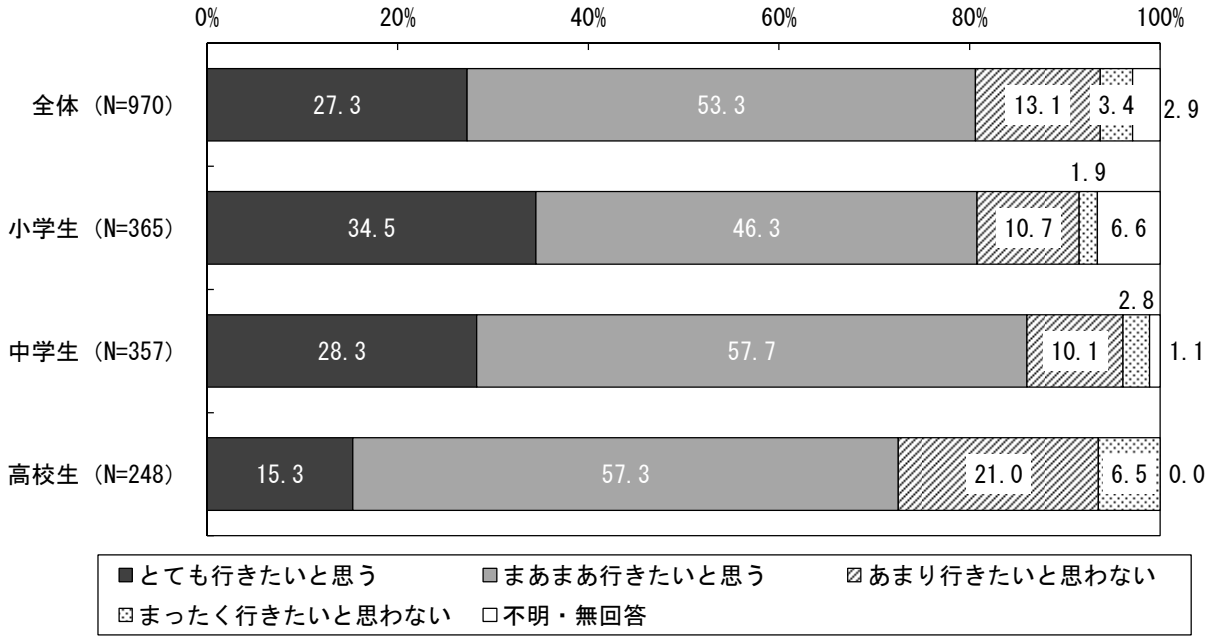
（３）－１　主な相談相手〈複数回答〉〔小学生・中学生・高校生調査…問 16-1〕

主な相談相手についてみると、小学生は「お母さん」、中学生、高校生は「お母さん」と「友だちや先輩」がほぼ同数で多くなっています。



（４）学校に行くことについて、感じること〔小学生・中学生・高校生調査…問 17〕

学校に行くことについて、感じることでは、小学生、中学生、高校生の順で「とても行きたいと思う」が少なくなっています。一方、「行きたいと思わない」（「あまり行きたいと思わない」「まったく行きたいと思わない」の合計）については、高校生が 27.5%で最も多く、中学生 12.9%、小学生 12.6%となっています。

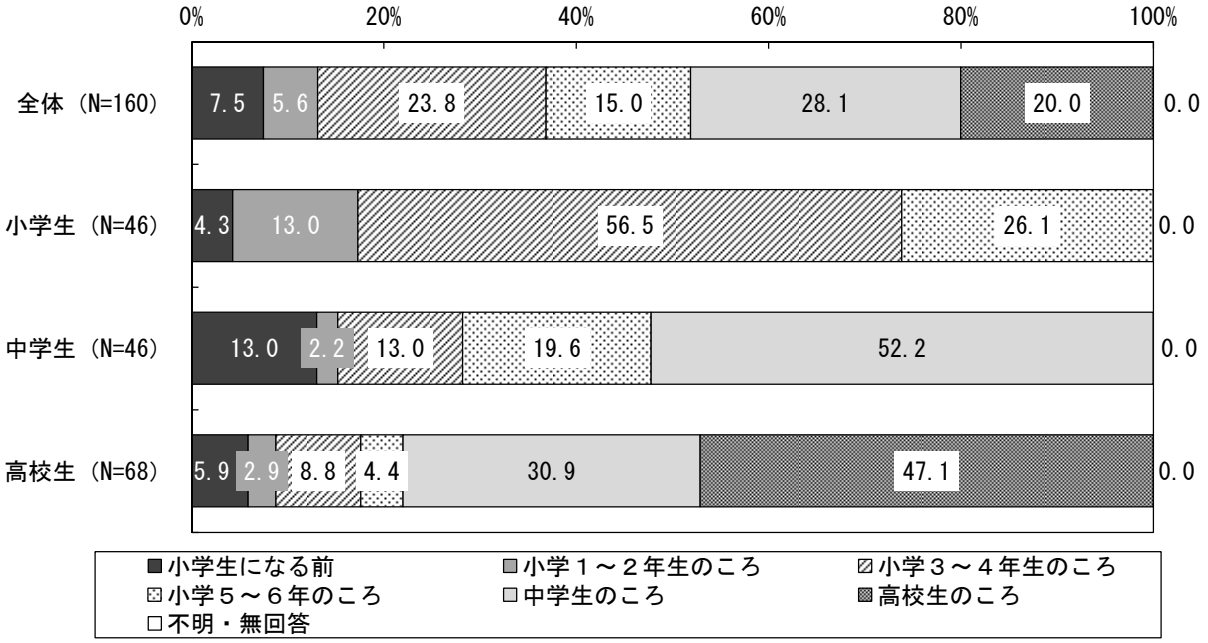


（４）で「あまり行きたいと思わない」「まったく行きたいと思わない」を選んだ方

（４）－１　学校に行きたくないと思うようになった年齢

〔小学生・中学生・高校生調査…問 17-1〕

前問で「行きたいと思わない」と回答した人について、学校に行きたくないと思うようになった年齢をみると、小学生は「小学３～４年生のころ」、中学生は「中学生のころ」、高校生は「高校生のころ」が最も多くなっています。

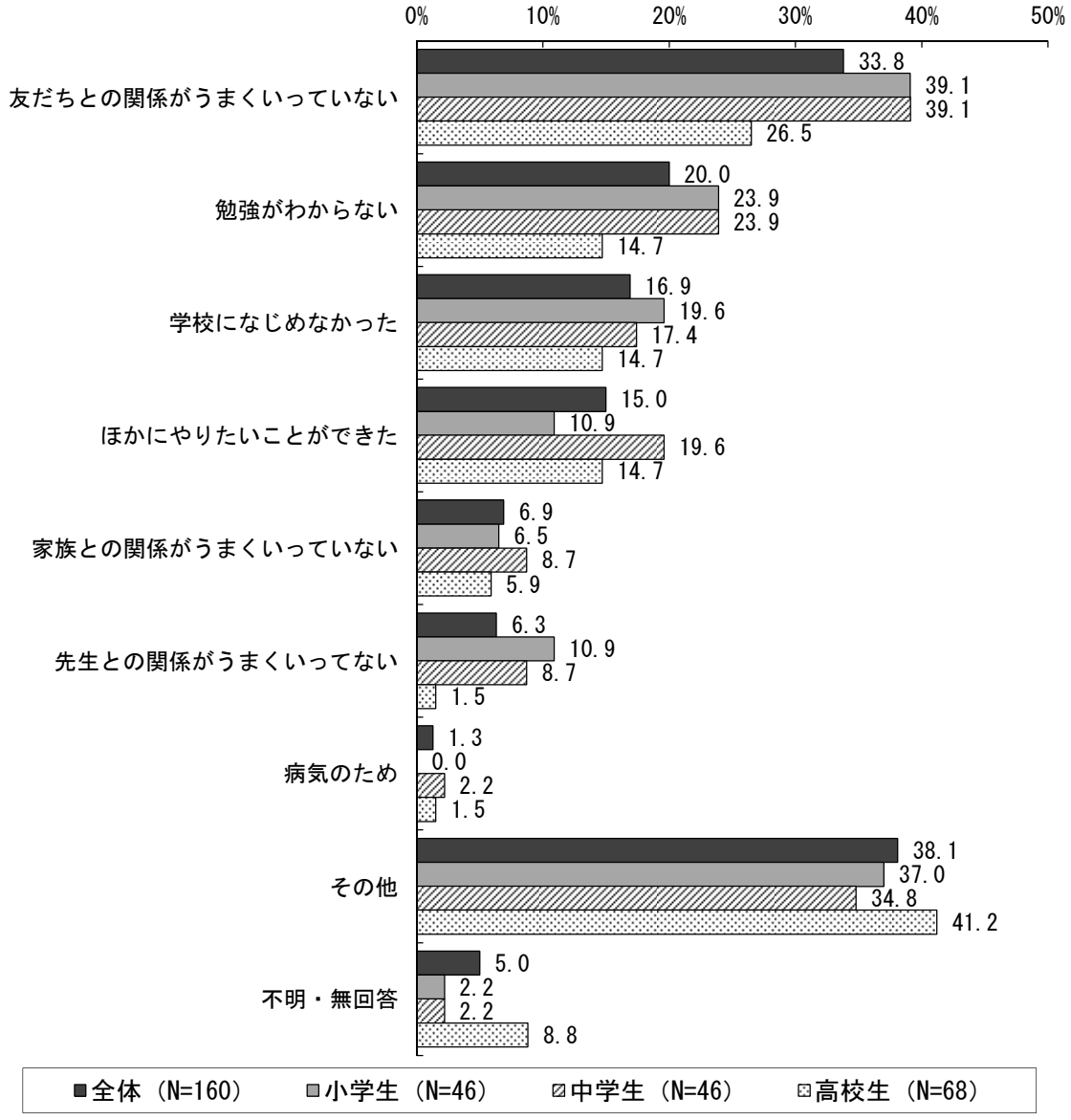


（４）で「あまり行きたいと思わない」「まったく行きたいと思わない」を選んだ方

（４）－２　学校に行きたくないと思うようになったきっかけ〈複数回答〉

〔小学生・中学生・高校生調査…問 17-2〕

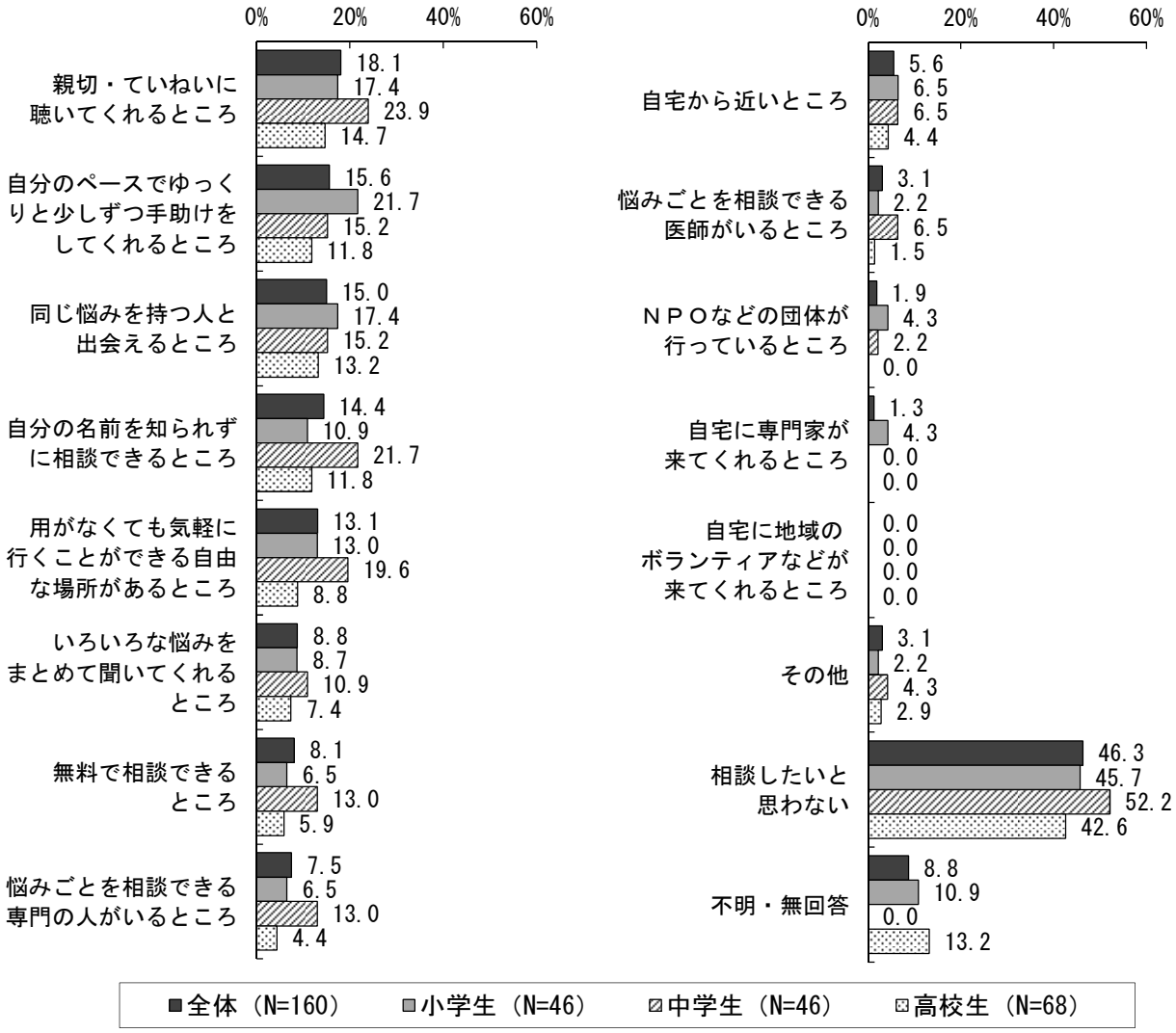
学校に行きたくないと思うようになったきっかけについては、「その他」を除くと、いずれの学年も「友達との関係がうまくいっていない」が最も多くなっています。



（４）で「あまり行きたいと思わない」「まったく行きたいと思わない」を選んだ方

（４）－３　学校に行きたくないと思うことなど、今後のことを相談したいと思う相談先〈複数回答〉〔小学生・中学生・高校生調査…問 17-3〕

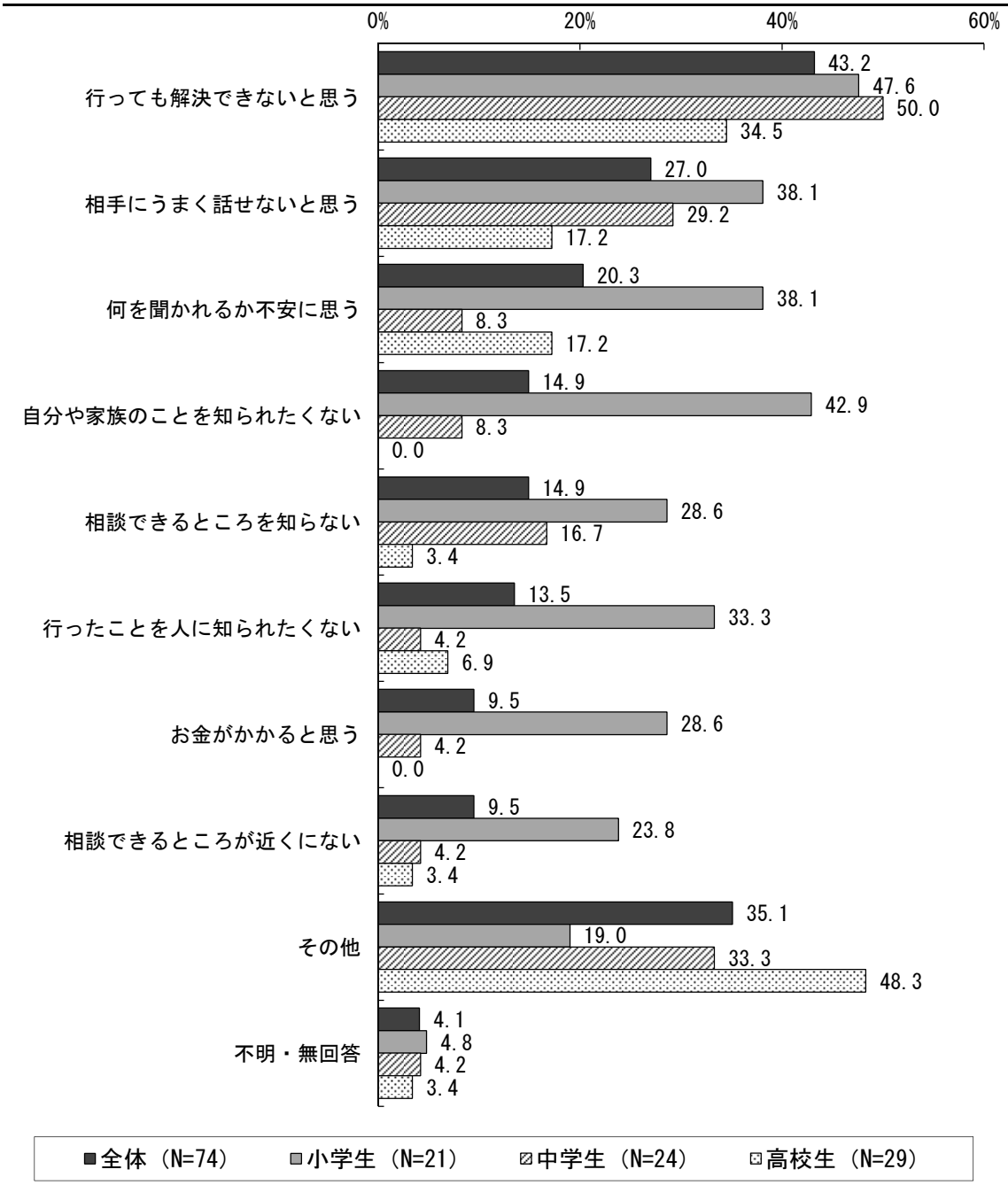
学校に行きたくないと思うことなど、今後のことを相談したいと思う相談先については、「相談したいと思わない」がいずれの学年でも４割を超えて最も多くなっています。希望する相談先については、小学生で「自分のペースでゆっくりと少しずつ手助けをしてくれるところ」、中学生で「親切・ていねいに聴いてくれるところ」、高校生で「自分の名前を知られずに相談できるところ」が最も多くなっています。



（４）－３で「相談したいと思わない」を選んだ方

（４）－４　相談したくないと思う理由〈複数回答〉〔小学生・中学生・高校生調査…問 17-4〕

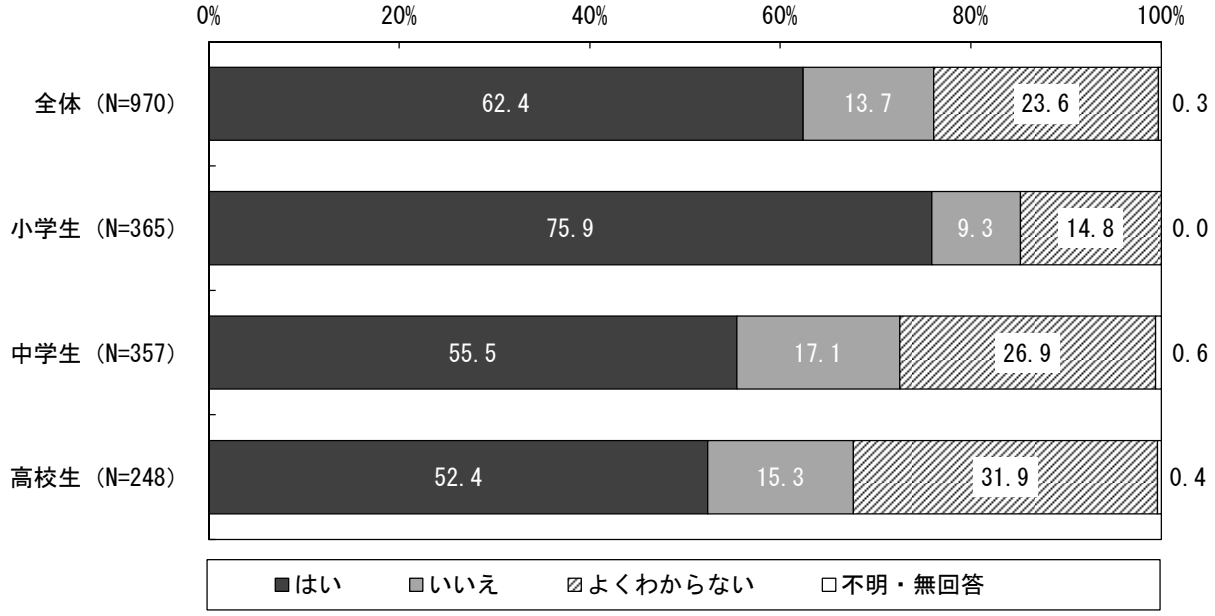
相談したくないと思う理由についてみると、「その他」を除くと、いずれの学年も「行っても解決できないと思う」が最も多くなっています。



６　将来のことについて

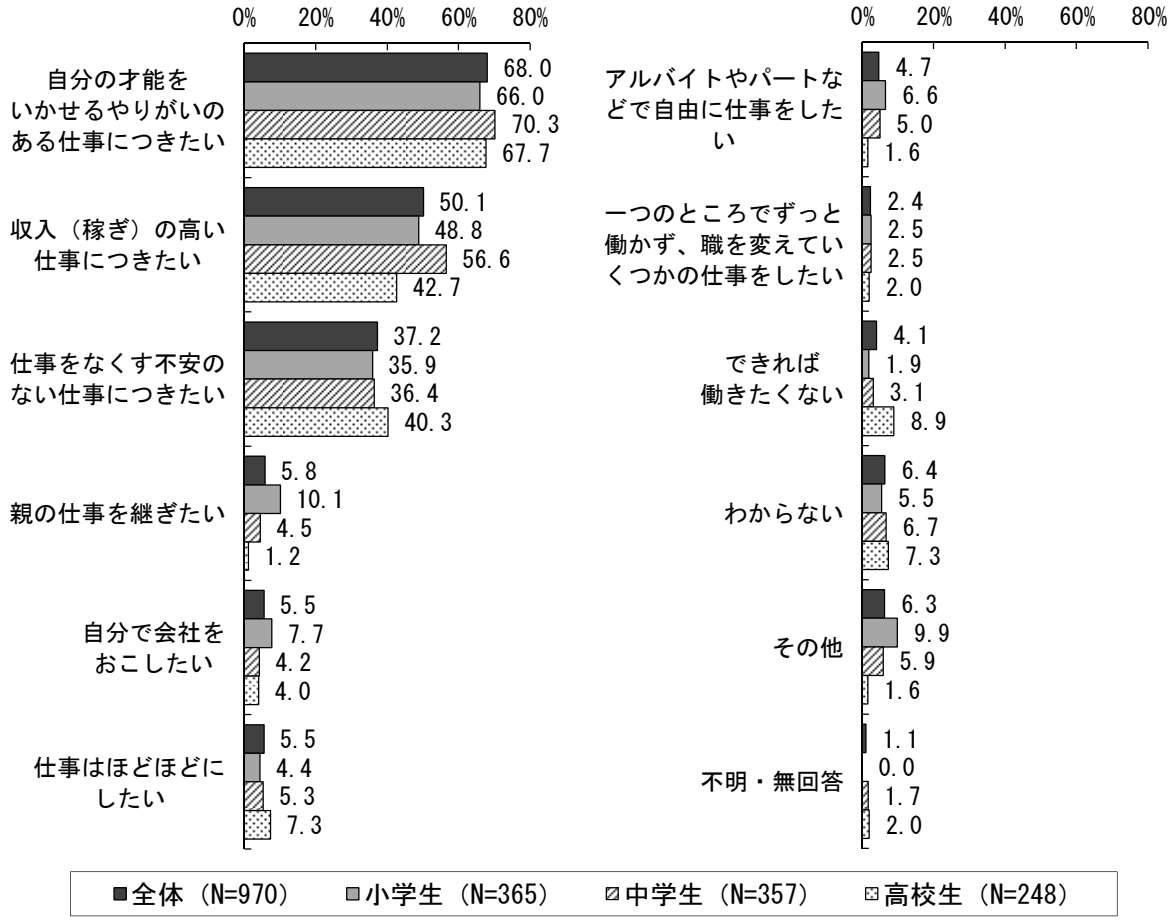
（１）将来の夢の有無〔小学生・中学生・高校生調査…問 18〕

将来の夢の有無についてみると、いずれの学年も「はい（持っている）」が最も多く、５割を超えています。「いいえ」は小学生では 9.3％ですが、中学生は 17.1％、高校生は 15.3％となっています。



（２）仕事における将来の希望〈３つまで回答〉〔小学生･中学生･高校生調査…問 19〕

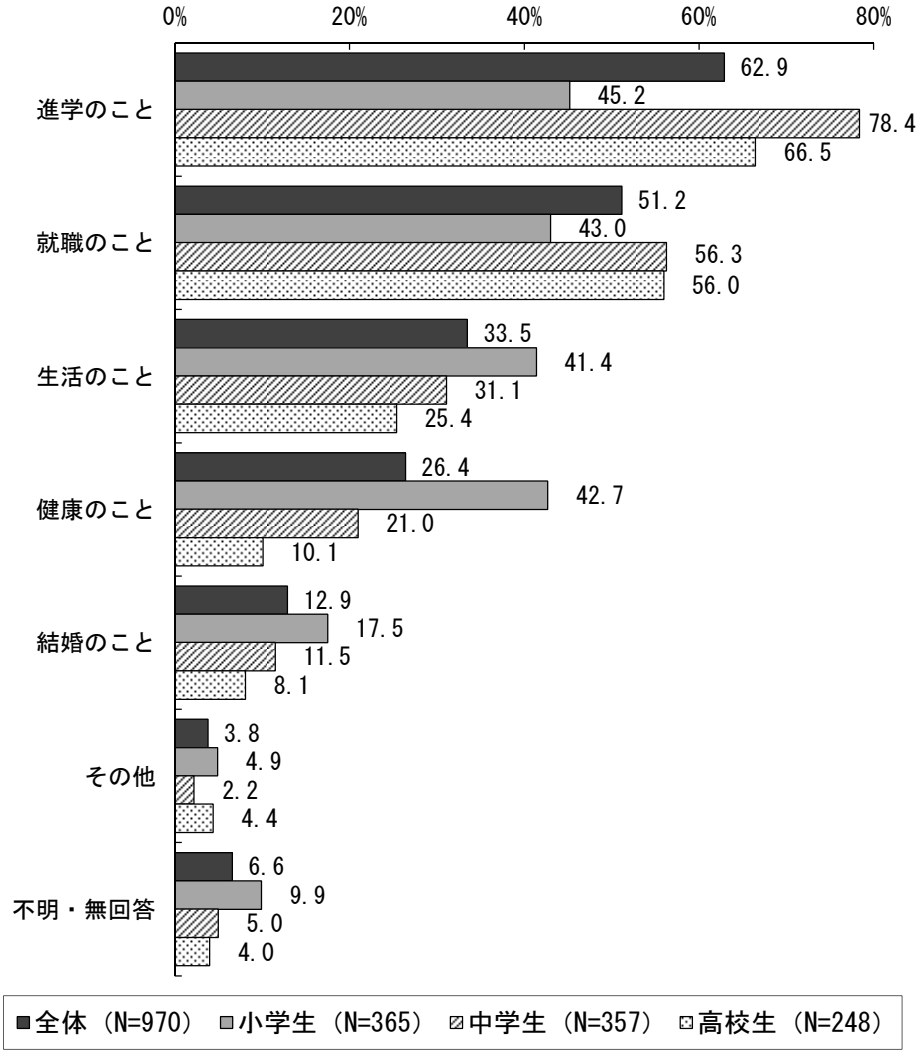
仕事における将来の希望についてみると、いずれの学年も「自分の才能をいかせるやりがいのある仕事につきたい」が最も多く、次いで「収入（稼ぎ）の高い仕事につきたい」が多くなっています。



（３）将来に関することで不安に思っていること〈複数回答〉

〔小学生・中学生・高校生調査…問 20〕

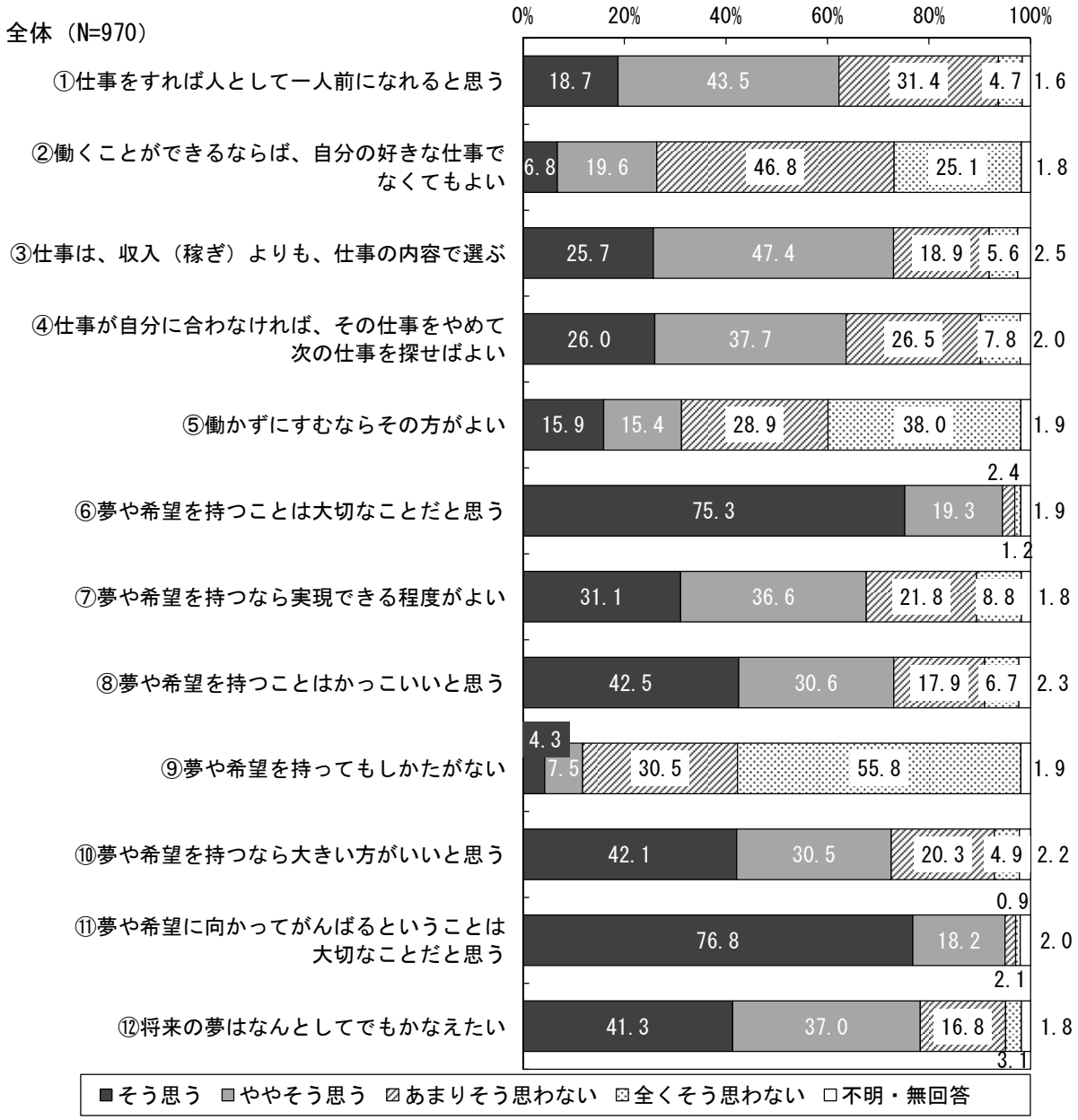
将来に関することで不安に思っていることについてみると、いずれの学年も「進学のこと」が最も多くなっています。また、中学生、高校生については「就職のこと」も５割を超えています。



（４）将来のことに対する考え方（全体）〔小学生・中学生・高校生調査…問 21〕

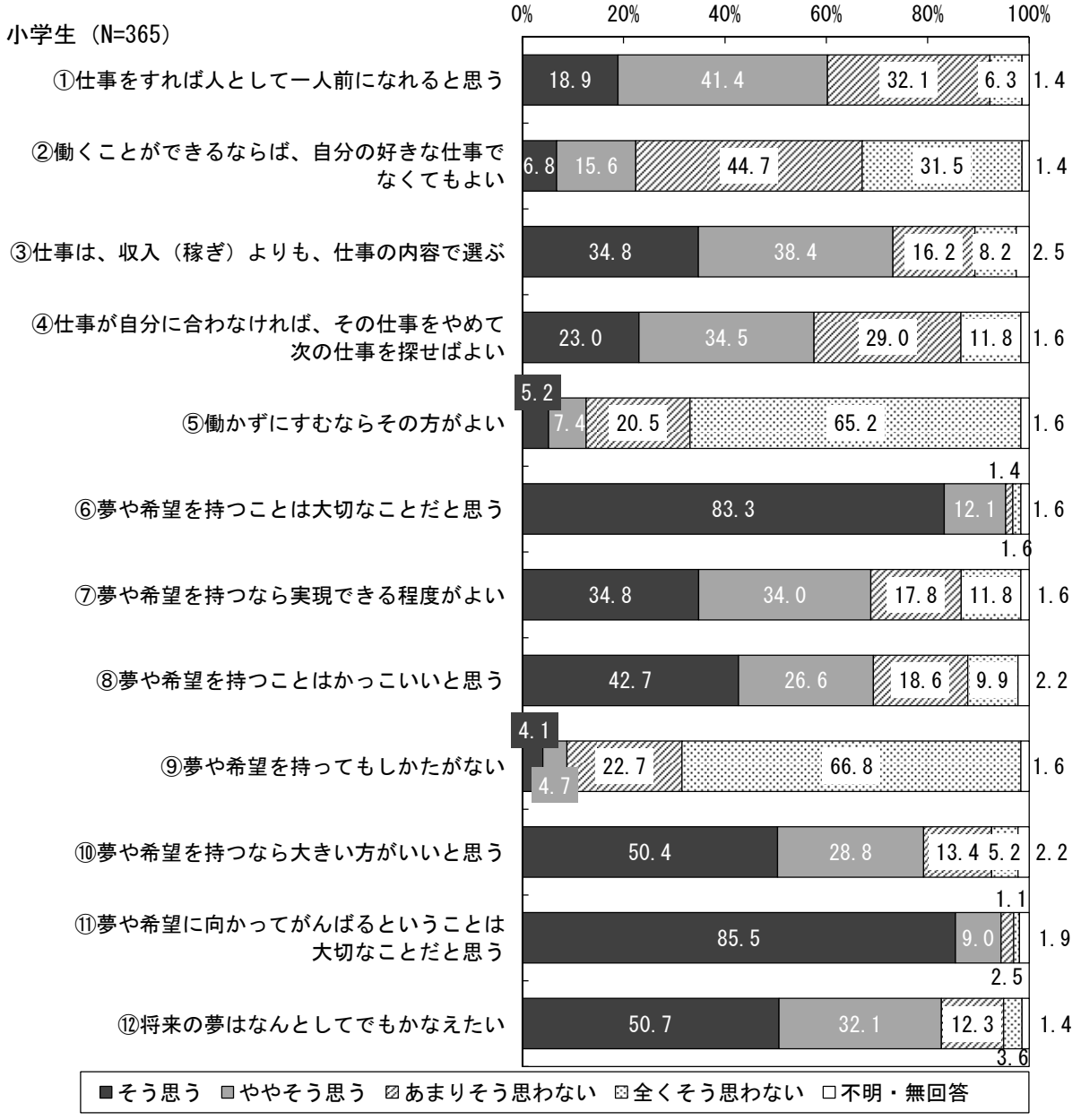
全体の将来のことに対する考え方についてみると、「夢や希望を持つことは大切なことだと思う」「夢や希望に向かってがんばるということは大切なことだと思う」は「そう思う」（「そう思う」「ややそう思う」の合計）が９割を超えています。

一方、「働くことができるならば、自分の好きな仕事でなくてもよい」「働かずにすむならその方がよい」「夢や希望を持ってもしかたがない」については、「そう思わない」（「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の合計）が多くなっています。



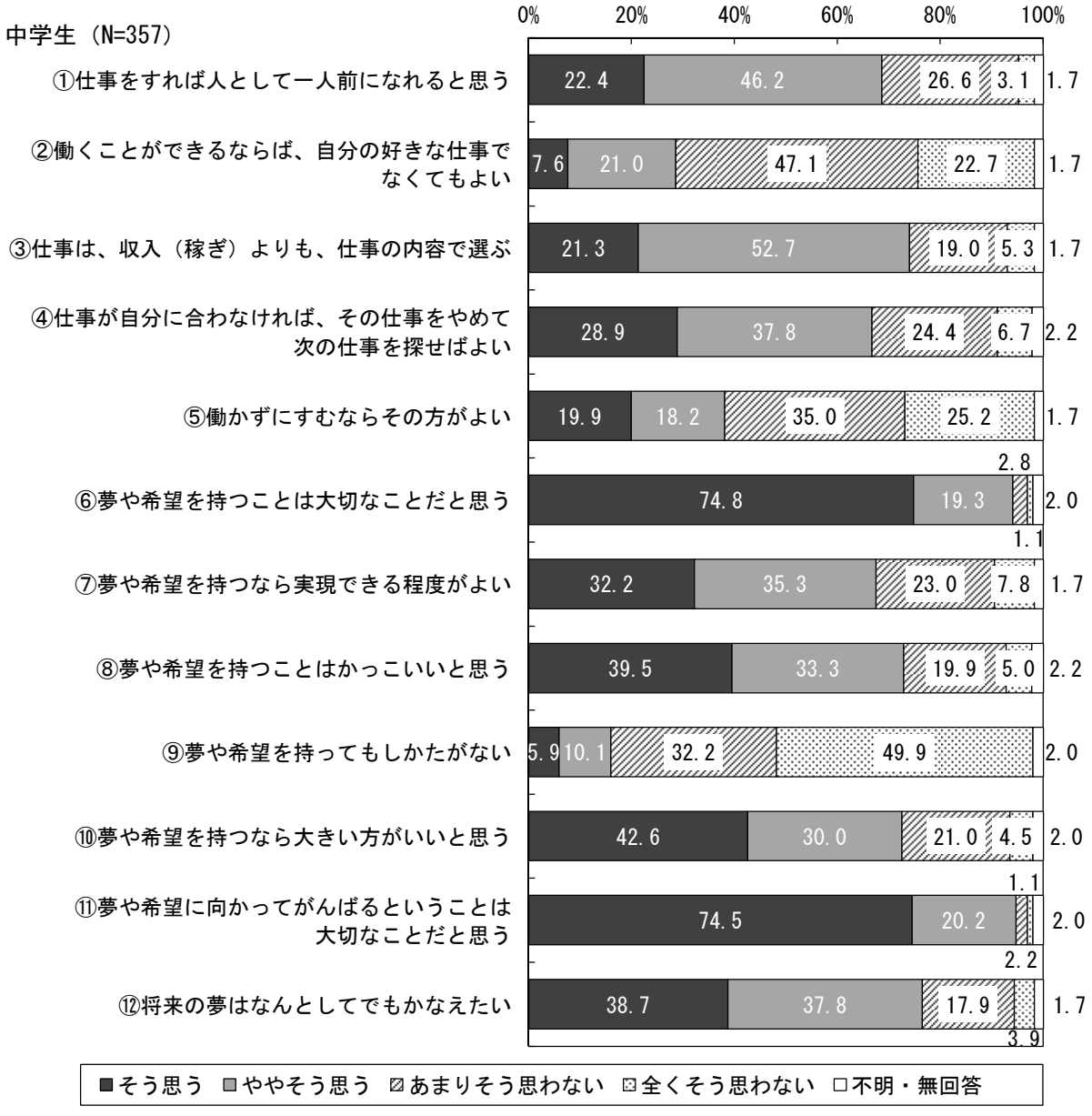
（４）－１　将来のことに対する考え方（小学生）〔小学生・中学生・高校生調査…問 21〕

全体とほぼ同様の傾向ですが、「そう思う」や「全くそう思わない」という強い肯定、または否定の回答が、多くなっています。



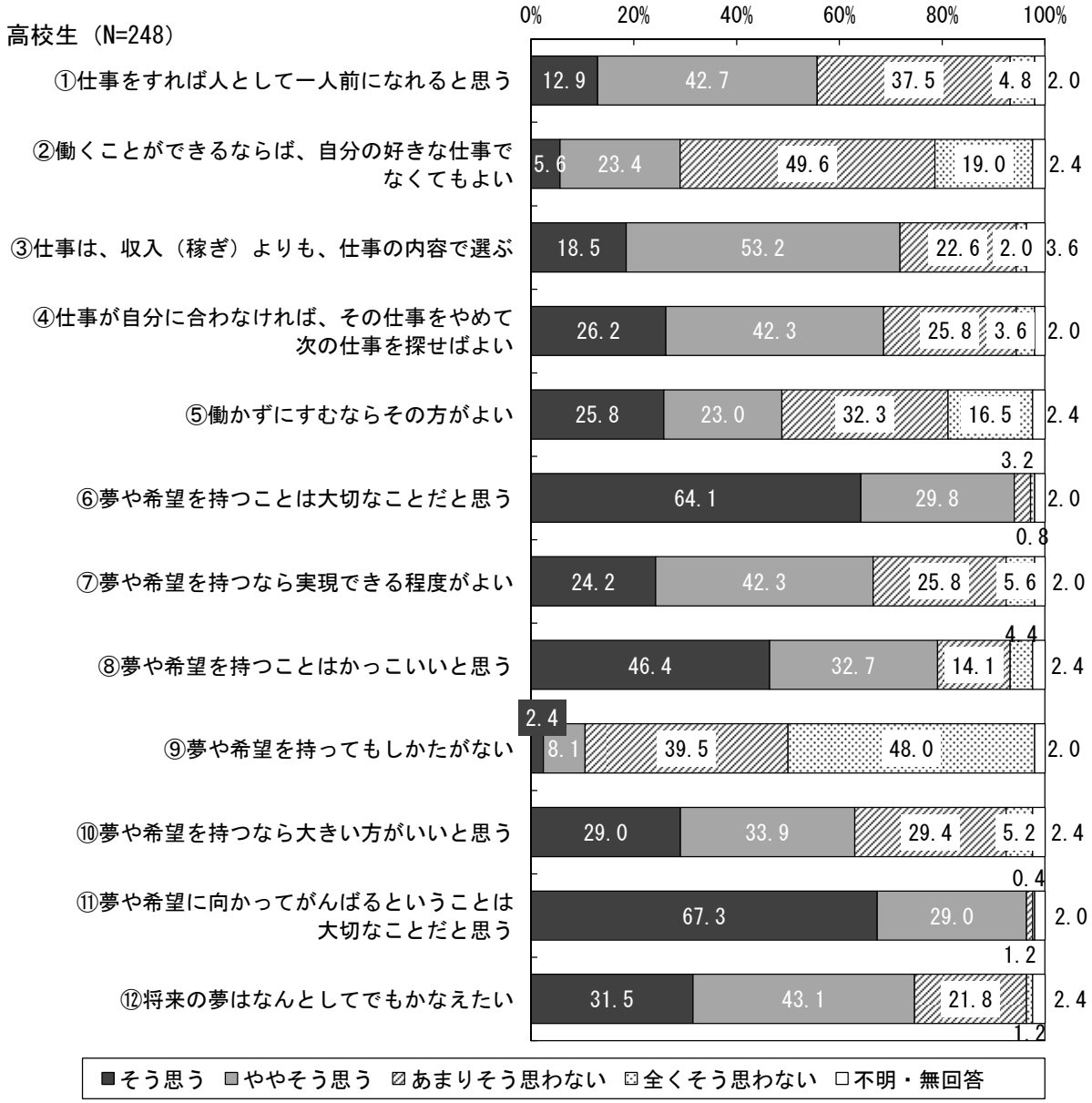
（４）－２　将来のことに対する考え方（中学生）〔小学生・中学生・高校生調査…問 21〕

中学生については、小学生と比べると、「働かずにすむならその方がよい」について「そう思う」が増加しています。また、「夢や希望を持つことは大切なことだと思う」「夢や希望を持つなら大きい方がいいと思う」「夢や希望に向かってがんばるということは大切なことだと思う」「将来の夢はなんとしてでもかなえたい」については、「そう思う」がやや少なくなっています。



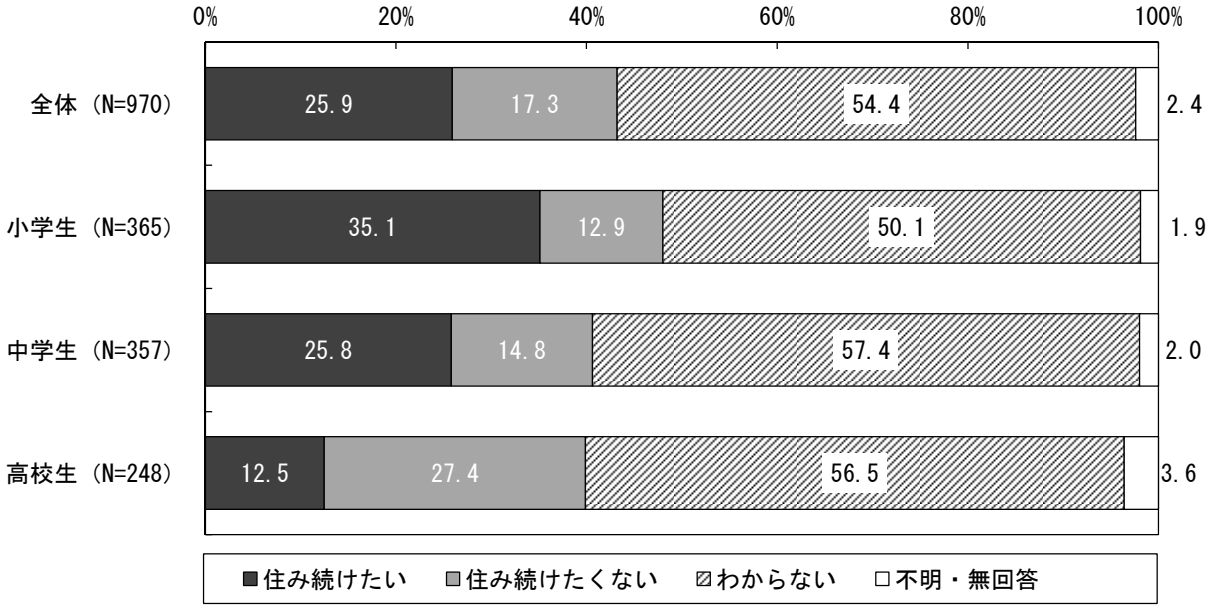
（４）－３　将来のことに対する考え方（高校生）〔小学生・中学生・高校生調査…問 21〕

高校生については、小学生、中学生と比べると、「働かずにすむならその方がよい」について「そう思う」が多くなっています。



（５）和歌山市への定住意向〔小学生・中学生・高校生調査…問 22〕

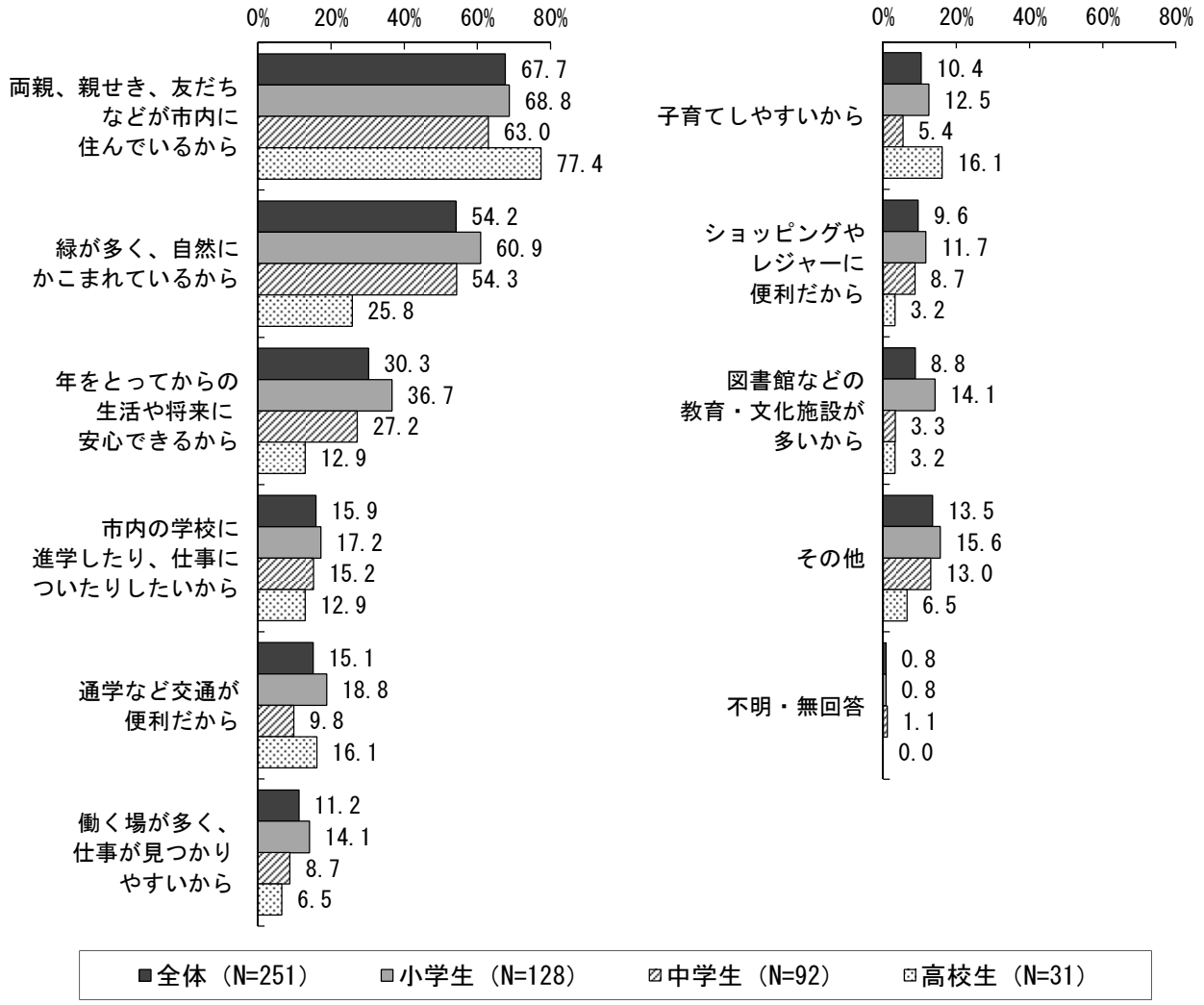
和歌山市への定住意向についてみると、いずれの学年も「わからない」が５割を超えています。学年が上がるほど、「住み続けたい」が減少し、「住み続けたくない」が増加しています。



（５）で「住み続けたい」を選んだ方

（５）－１　住み続けたいと感じる理由〈複数回答〉〔小学生・中学生・高校生調査…問 22-1〕

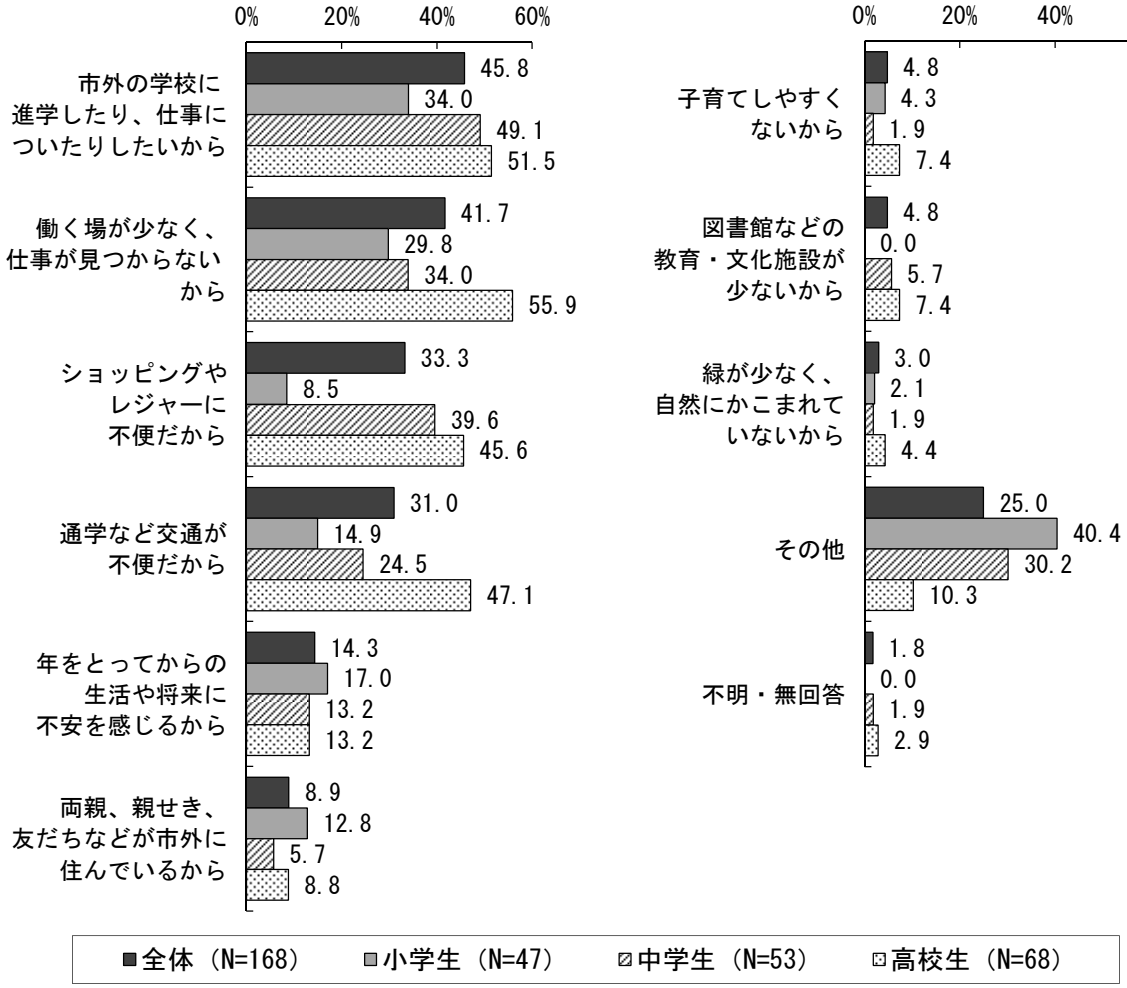
住み続けたいと感じる理由についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「両親、親せき、友だちなどが市内に住んでいるから」が最も多く、次いで「緑が多く、自然にかこまれているから」が多くなっています。



（５）で「住み続けたくない」を選んだ方

（５）－２　住み続けたくないと感じる理由〈複数回答〉〔小学生・中学生・高校生調査…問 22-2〕

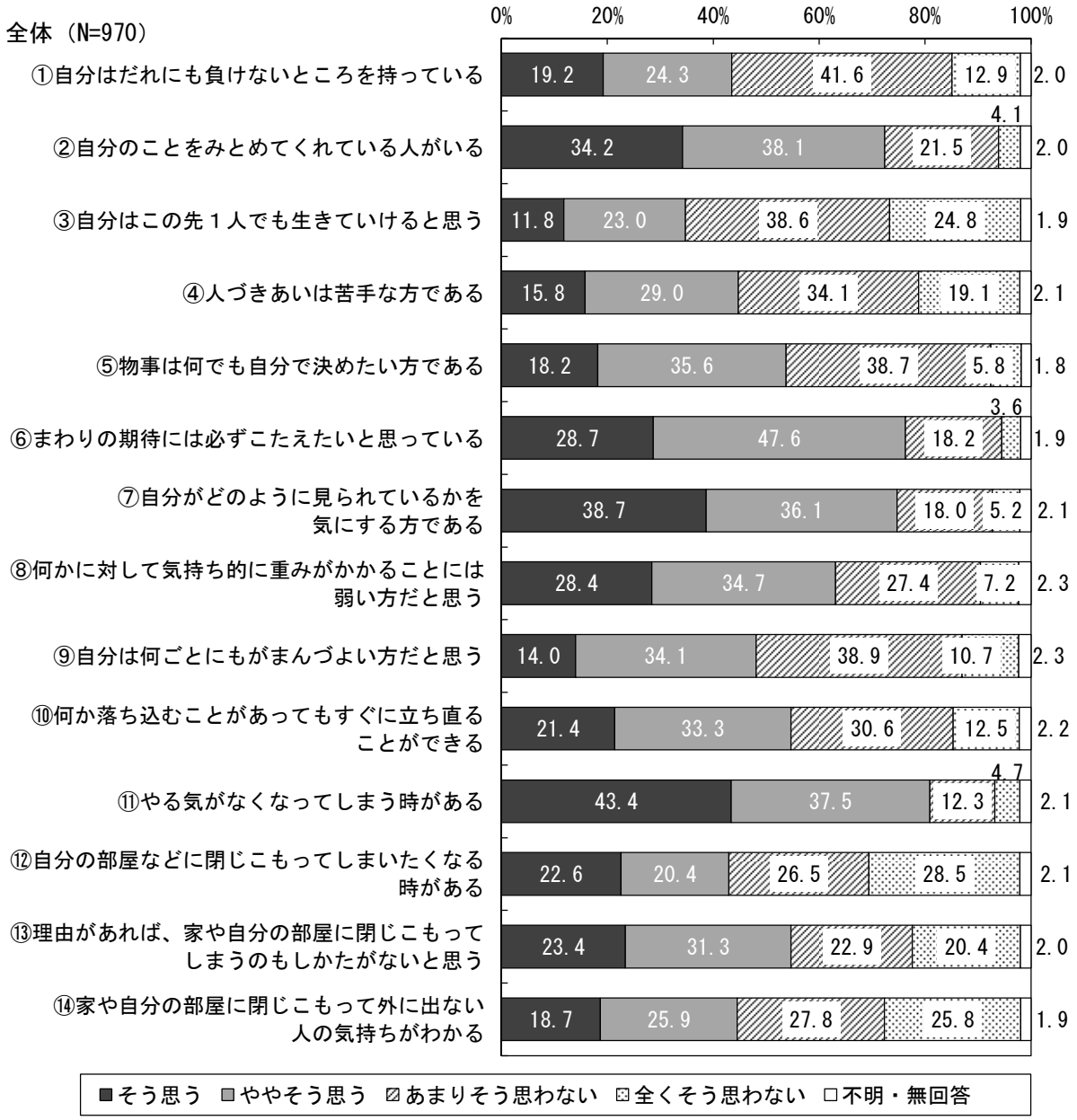
住み続けたくないと感じる理由についてみると、「その他」を除くと、小学生、中学生は「市外の学校に進学したり、仕事についたりしたいから」が最も多く、高校生は「働く場が少なく仕事が見つからないから」が最も多くなっています。



7　あなた自身のことについて

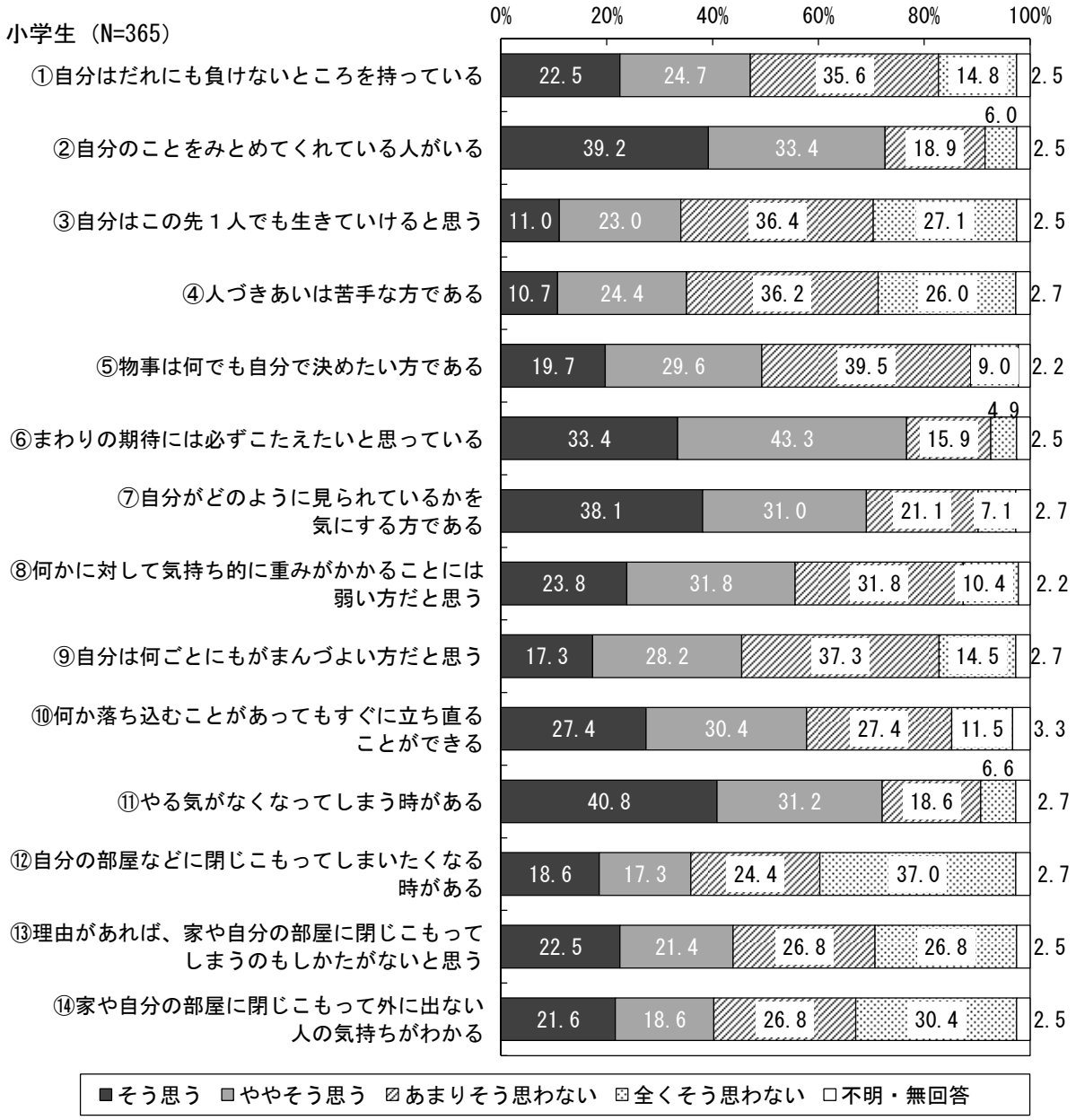
（１）自身のことについての考え（全体）〔小学生・中学生・高校生調査…問 23〕

自身のことについての考えについてみると、そう思う（「そう思う」「ややそう思う」の合計）が多い項目として、「自分のことをみとめてくれている人がいる」「まわりの期待には必ずこたえたいと思っている」「自分がどのようにみられているかを気にする方である」「やる気がなくなってしまう時がある」があります。そう思わない（「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の合計）が多い項目として、「自分はだれにも負けないところを持っている」「自分はこの先１人でも生きていけると思う」「人づきあいは苦手な方である」「自分の部屋などに閉じこもってしまいたくなる時がある」「家や自分の部屋に閉じこもって外に出ない人の気持ちがわかる」があります。



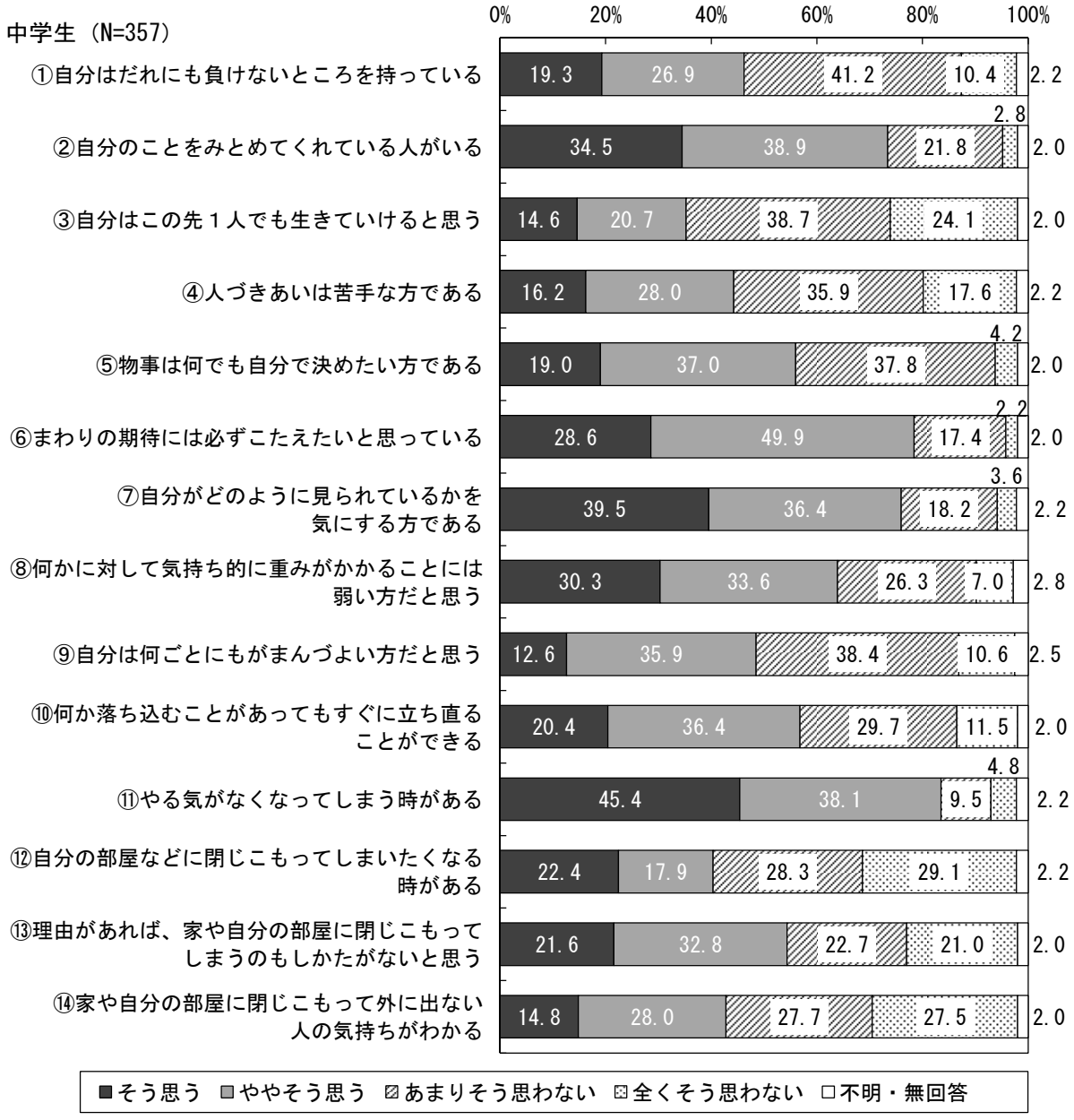
（１）－１　自身のことについての考え（小学生）〔小学生・中学生・高校生調査…問 23〕

小学生の自身のことについての考えについてみると、「自分のことをみとめてくれている人がいる」「まわりの期待には必ずこたえたいと思っている」「やる気がなくなってしまう時がある」については、「そう思う」が７割を超えています。



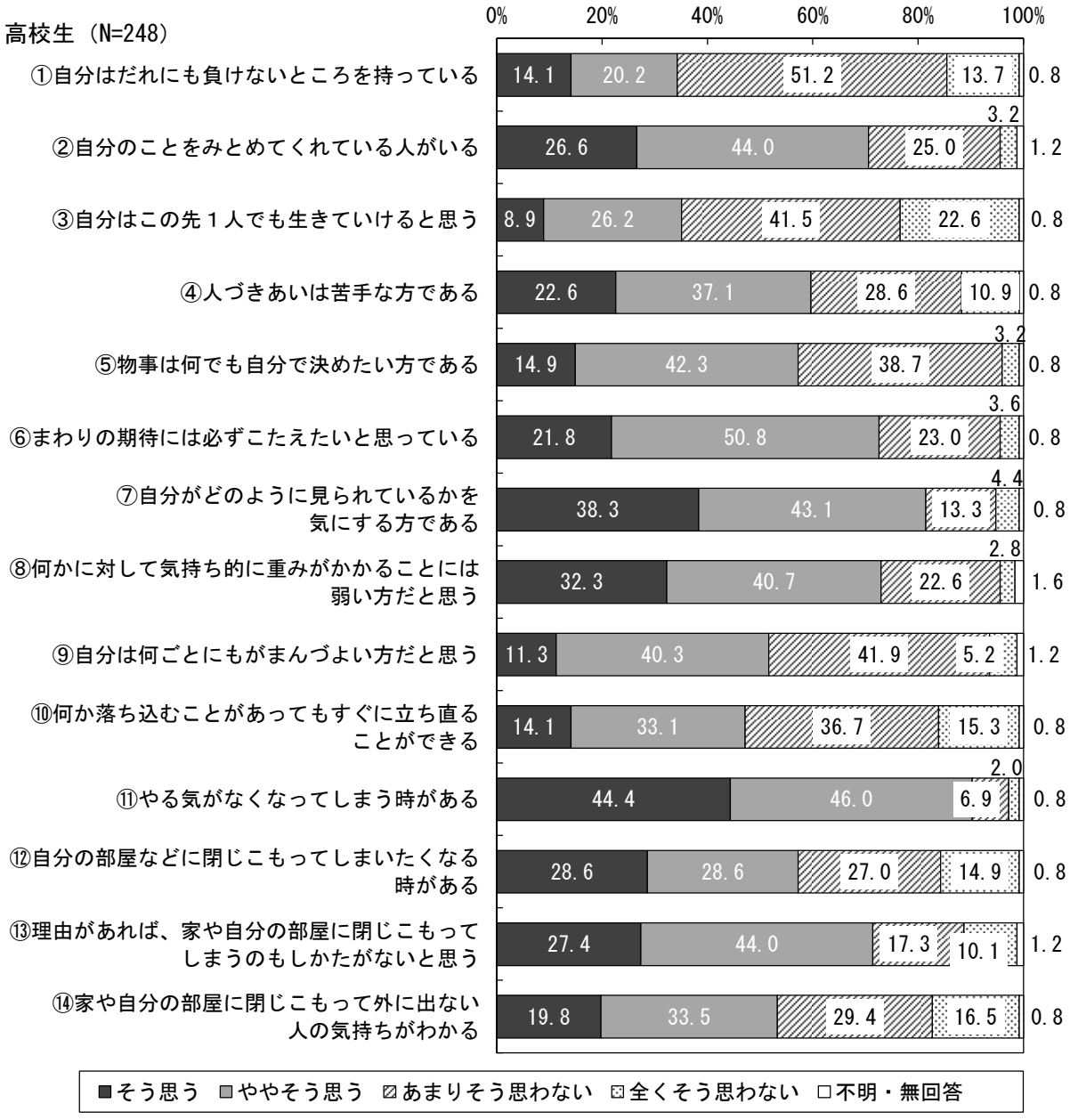
（１）－２　自身のことについての考え（中学生）〔小学生・中学生・高校生調査…問 23〕

中学生の自身のことについての考えについてみると、小学生と比べて「やる気がなくなってしまう時がある」について「そう思う」が多くなっています。



（１）－３　自身のことについての考え（高校生）〔小学生・中学生・高校生調査…問 23〕

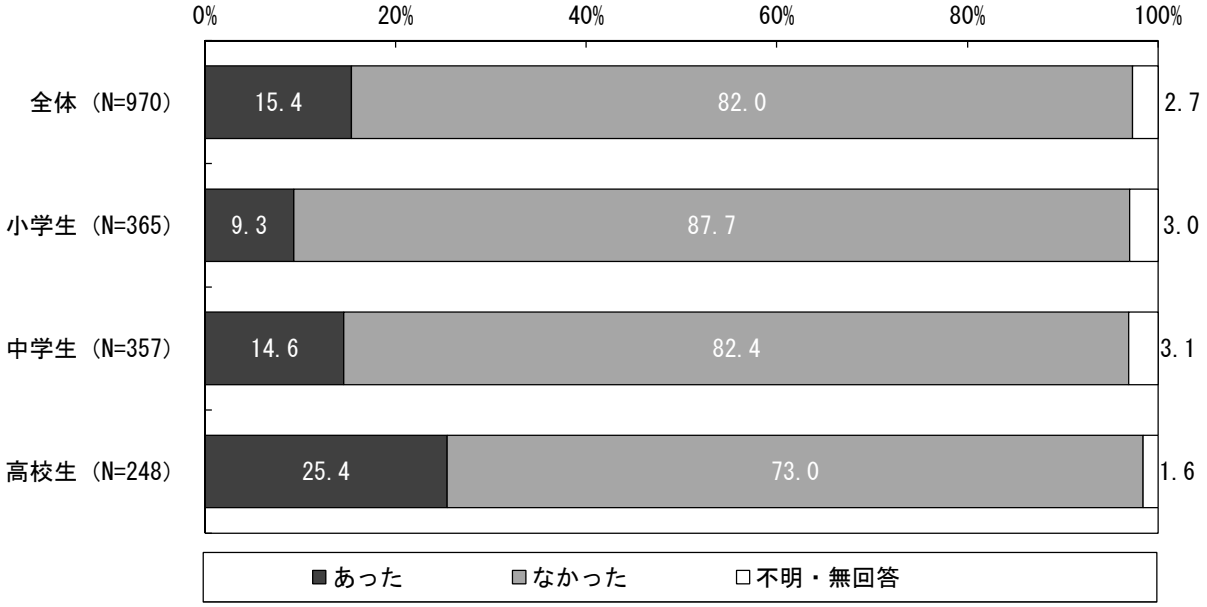
高校生の自身のことについての考えについてみると、「やる気がなくなってしまう時がある」について「そう思う」が９割を超えています。また、「理由があれば、家や自分の部屋に閉じこもってしまうのもしかたがないと思う」についても、他の学年と比べて「そう思う」が多くなっています。



（１）－４　自身のことについての考え（今まで落ち込んだりなどして、学校を休んだり、閉じこもってしまったことの有無）〔小学生･中学生･高校生調査…問 23〕

学校を休んだり部屋に閉じこもってしまうというようなことがあったかどうかについては、学年が上がるほど「あった」が多くなっており、高校生では 25.4%が「あった」と回答しています。

⑮今までに、落ち込んだりざせつするなどして、学校を休んだり部屋に閉じこもってしまうというようなことがあった

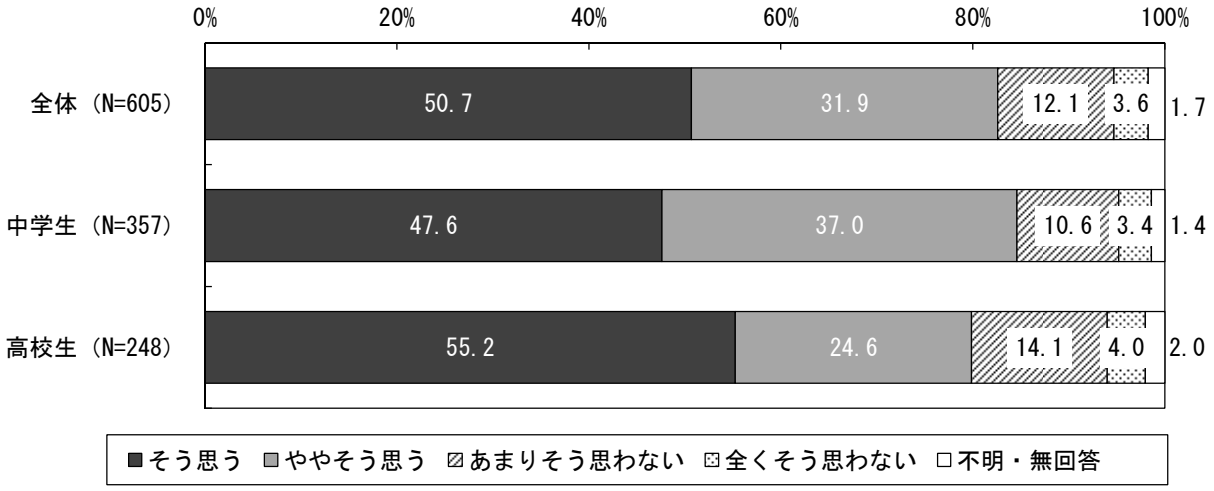


８　将来、家庭を持つことについて（中学生・高校生）

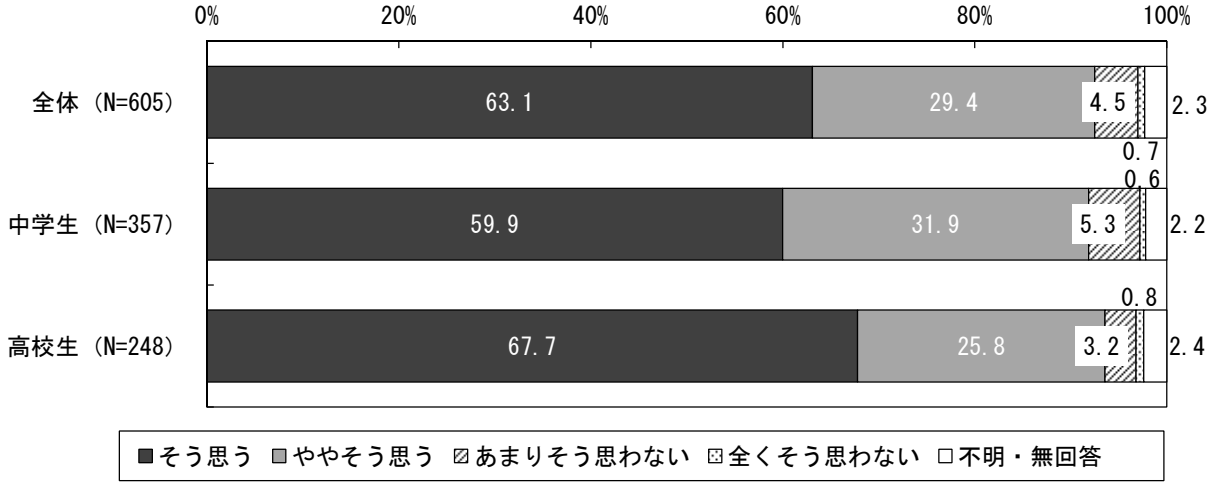
（１）将来の家庭に対する考え〔小学生･中学生･高校生調査…問 25〕

結婚して家庭を持つことへの意向についてみると、いずれの学年も「いつかは結婚して家庭を持ちたい」については８割前後が、「いつかは親からはなれて自分の力で生活したい」については９割以上が、「そう思う」（「そう思う」「ややそう思う」の合計）と回答しています。

①いつかは結婚して家庭を持ちたい

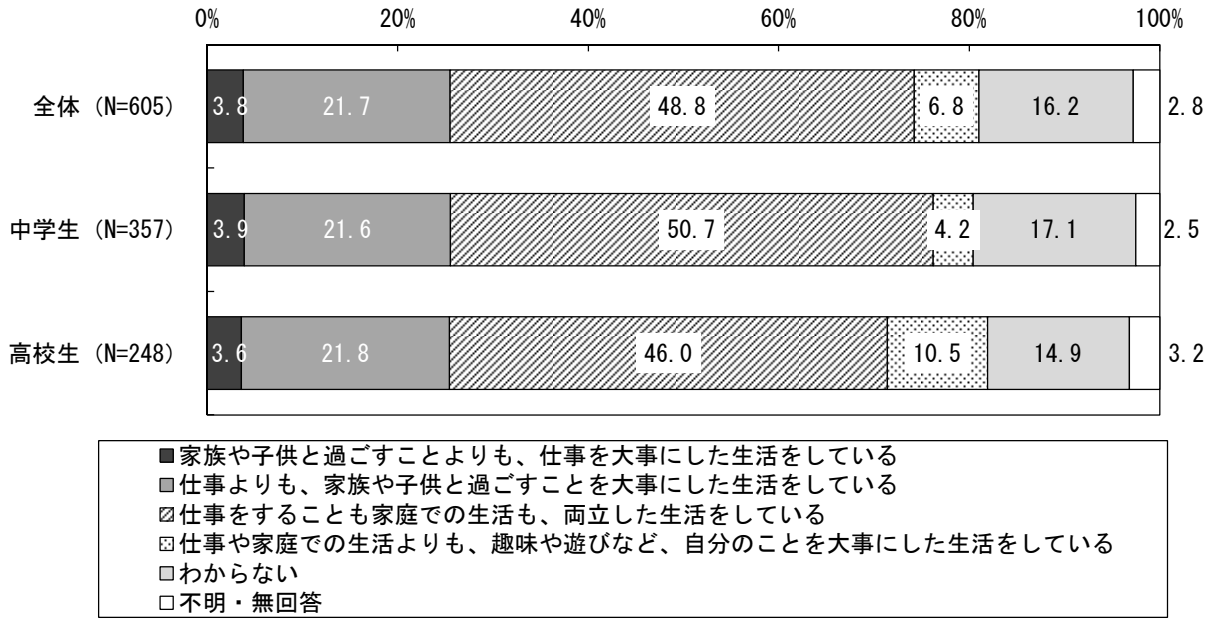


②いつかは親からはなれて自分の力で生活したい



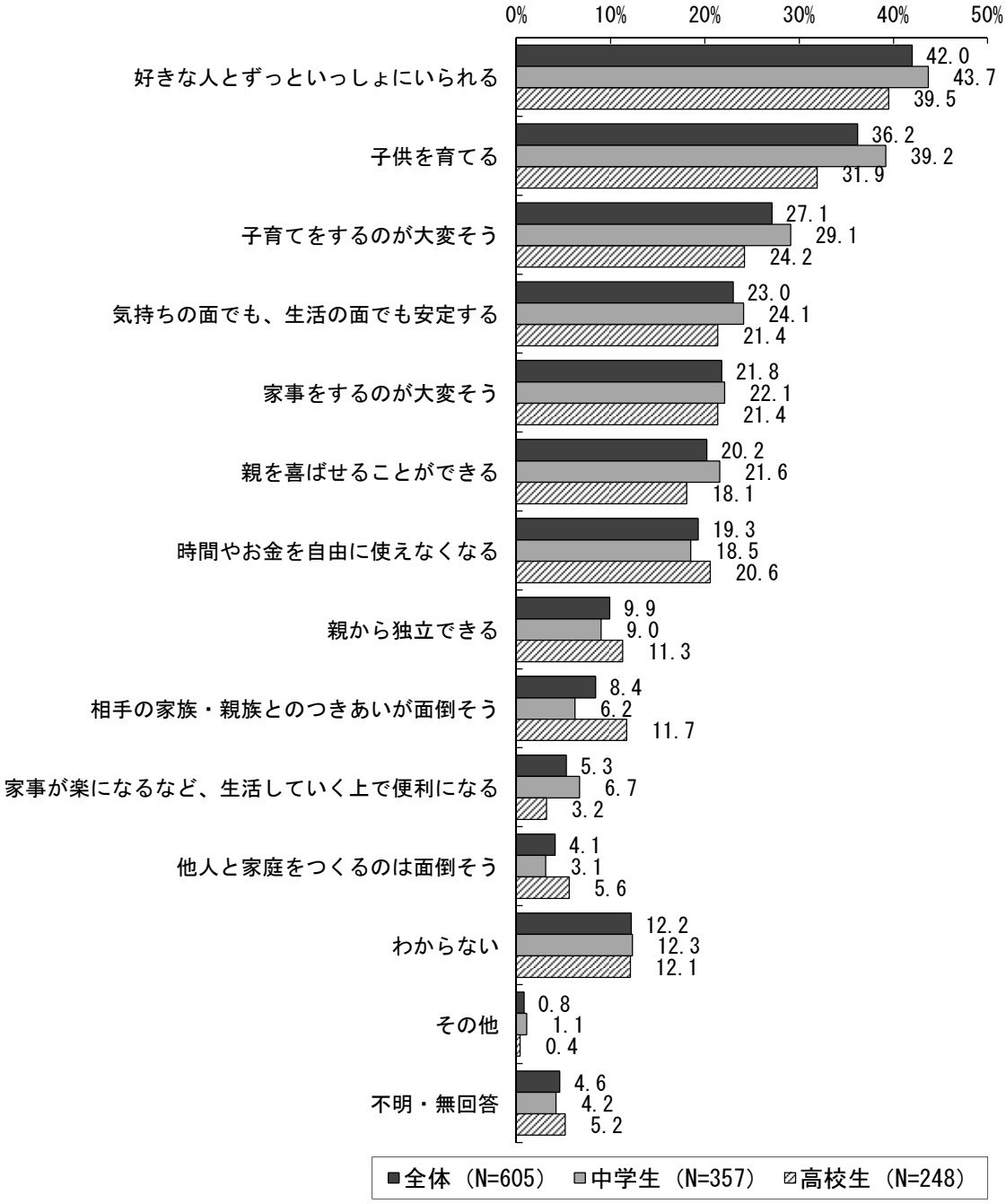
（２）将来における仕事や家庭での生活〔小学生・中学生・高校生調査…問 26〕

将来における仕事や家庭での生活についてみると、中学生、高校生ともに「仕事をすることも家庭での生活も、両立した生活をしている」が最も多く、次いで「仕事よりも、家族や子供と過ごすことを大事にした生活をしている」が多くなっています。



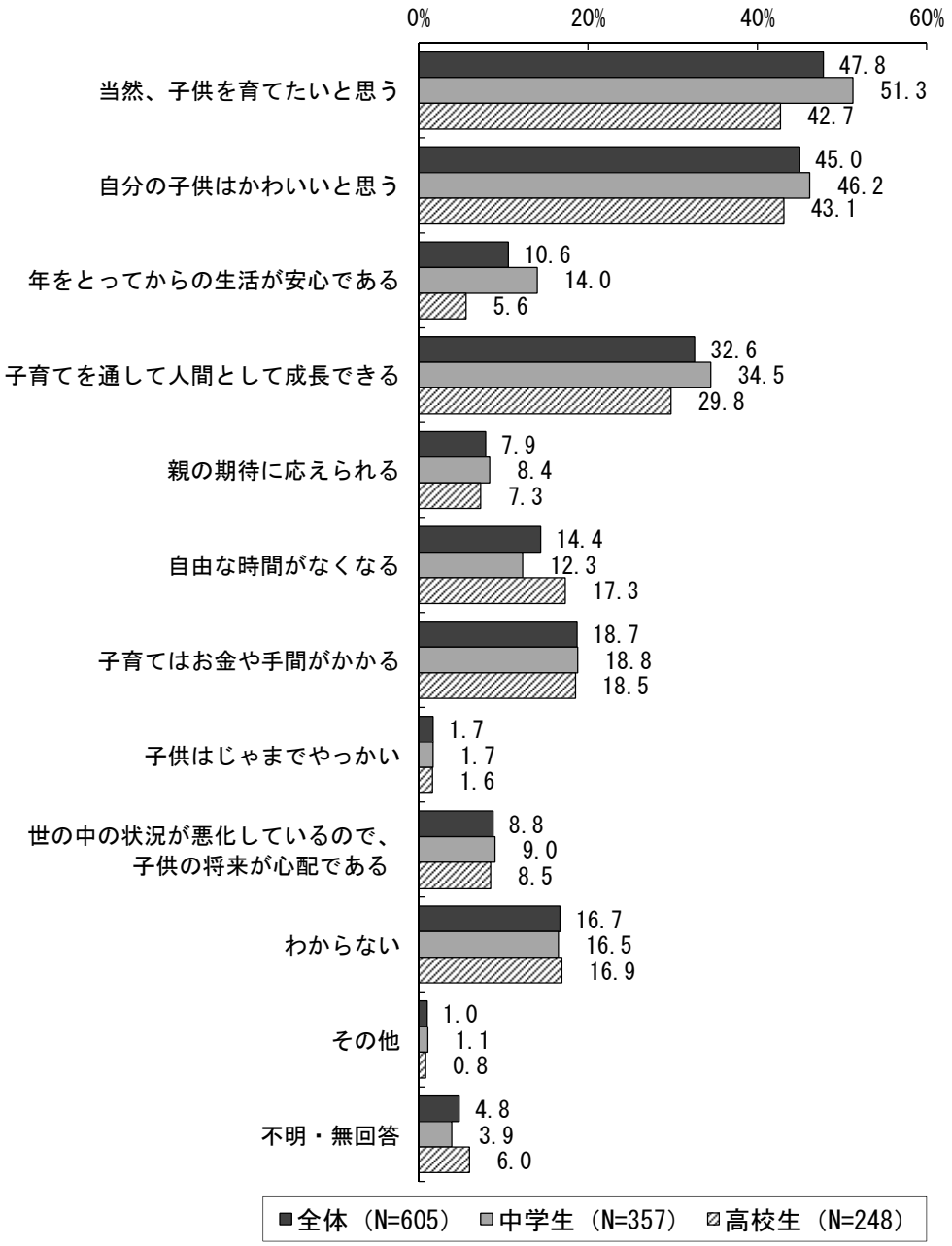
（３）結婚のイメージ〈３つまで回答〉〔小学生・中学生・高校生調査…問 27〕

結婚のイメージについてみると、中学生、高校生ともに「好きな人とずっといっしょにいられる」が最も多くなっています。次いで「子供を育てる」「子育てするのが大変そう」が多くなっています。



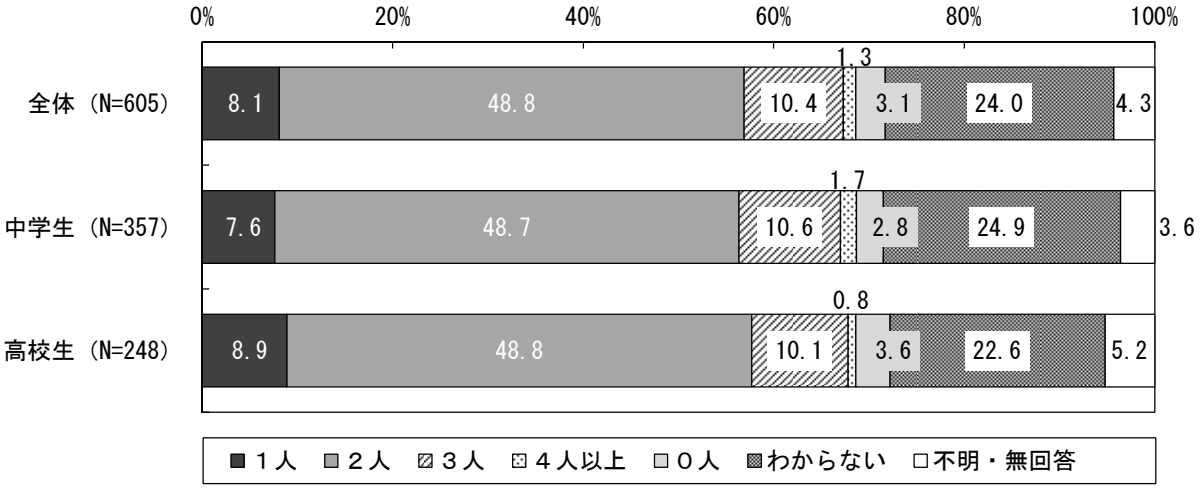
（４）子供を育てることのイメージ〈３つまで回答〉〔小学生･中学生･高校生調査…問 28〕

子供を育てることのイメージについてみると、中学生、高校生ともに「当然、子供を育てたいと思う」と「自分の子供はかわいいと思う」がほぼ同数で多くなっています。次いで、「子育てを通して人間として成長できる」が多くなっています。



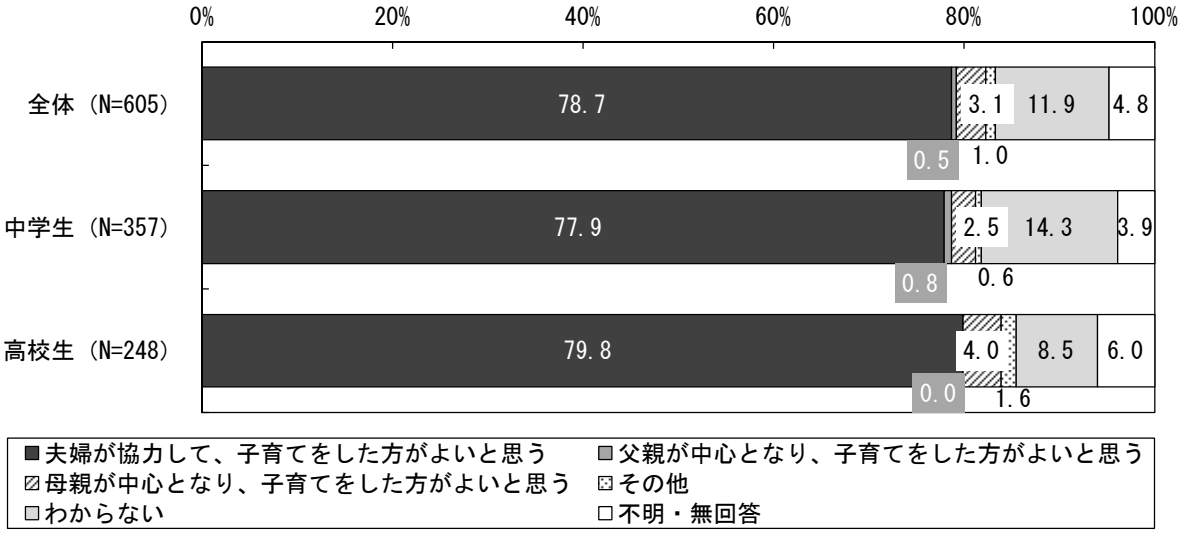
（５）子供を育てるとした場合のほしい子供の人数〔小学生・中学生・高校生調査…問 29〕

子供を育てるとした場合のほしい子供の人数についてみると、中学生、高校生ともに「２人」が約５割で最も多くなっています。１人以下は約１割、３人以上も約１割です。



（６）家庭における子育ての考え方〔小学生・中学生・高校生調査…問 30〕

家庭における子育ての考え方についてみると、中学生、高校生ともに「夫婦が協力して、子育てをした方がよいと思う」が７割を超えて多くなっています。



Ⅳ. 調査結果からみた本市の課題

（１）保護者の孤立の防止

日頃子供をみてもらえる親族・知人については、就学前保護者、小学生保護者の約１割が、日常的にみてもらえる人、または緊急時にみてもらえる人の「いずれもいない」と回答しています。前回調査と比較すると、「日常的に祖父母等にみてもらえる」という回答が減少しており、核家族化の進行により、日頃から親族の支援を得られない保護者が増加していることがうかがえます。また、気軽に相談できる人や場所についても、就学前保護者の 5.4%、小学生保護者の 7.6%が「いない／ない」と回答しており、子育てにおいて支援の乏しい保護者が一定数いることがうかがえます。子育てにおける保護者の孤立を防止する取り組みが引き続き求められます。

（２）保育ニーズの増加への対応

子育て中の母親の就労率が増加していることが、前回調査の比較から明らかになっています。国勢調査等の統計においても、子育て世代の女性の労働力率が増加しており、今後もこの傾向が継続することが考えられます。こうした傾向は、就学前保育や放課後児童クラブのニーズの増加をもたらすことが考えられます。今後国の政策として、就学前教育・保育の無償化が予定されていますが、「利用料が無償なら利用したい」サービスとして、「幼稚園の預かり保育」「事業所内保育施設」という回答が多くなっており、無償化によって追加的なニーズが喚起される可能性が高くなっています。特に利用率の増加余地のある３歳児以下のニーズ量の推計にあたっては、こうした動向を踏まえた慎重な検討が求められるとともに、ニーズの増加に対応した受け皿の整備が急務となります。

（３）子育て支援事業の利用と認知について

地域子育て支援拠点事業については、利用率が就学前保護者の 11.6%となっており、前回の 16.5%から減少しています。利用していない人についてはそのうちの３分の２が就学前教育・保育施設に通っていますが、おおむね、就学前保護者の４分の１が支援拠点も教育・保育施設も利用していない計算になります。「家から遠くて利用しにくい」「交通手段がなかったり、交通が不便で利用しにくい」「地域子育て支援拠点事業について知らなかった」という声は多数ではありませんが存在しており、「現在利用していないができれば今後利用したい」という意見も 26.9%あります。潜在的なニーズは少なくないと考えられ、子育ての孤立を防ぐ取り組みとして、引き続ききめ細かな取り組みが求められます。

各種の子育て支援事業の認知度については、「育児サークル育成支援」「短期入所生活援助事業」「夜間養護等事業」「保育所（園）・幼稚園の子育て相談」「母子・父子・多子世帯の公的賃貸住宅への優先入居」、「こども総合支援センターの相談」については、就学前保護者で認知度が半数未満となっており、このうち「短期入所生活援助事業」「夜間養護等事業」については、小学生保護者の認知度も低くなっています。支援事業が十分に保護者に認知されていない状況が示されており、事業の周知に課題があることがうかがえます。

病児保育については就学前保護者で利用経験があるのは 7.2%となっており、利用しない理由として利用料や手続きの問題をあげる人が３割ほどいます。利用しやすい事業のあり方が検討課題となります。

（４）放課後児童クラブ（若竹学級）の利用ニーズについて

放課後児童クラブについては、小学生保護者で利用しているという回答が 27.8%であるのに対し、就学前保護者の利用希望は 42.8%となっており、今後利用が増加する可能性があります。また、小学生保護者の利用希望についても、利用を希望する保護者の約半数は、５年生以上までの利用を希望しており、今後高学年での利用が増加することも考えられます。

休日利用についても、特に土曜日については、就学前保護者の約４割、小学生保護者の約２割が月に１～２回以上の利用を希望しています。

放課後児童クラブについては、就学前教育・保育の無償化によって保育ニーズが増大した場合、その影響で利用ニーズが増加すると考えられ、入所定員や指導員の確保をはじめとした対応が求められます。

（５）保護者の育児不安について

妊娠中、あるいは出産後、母親が精神的に不安定になったことの有無についてみると、就学前保護者の 15.3%が「よくあった」と回答しており、「時々あった」を合わせると約６割が「あった」と回答しています。また、子育てに関する不安感や負担感については、小学生保護者ともに約４割が「感じる」と回答しており、多くの保護者が育児不安を抱えていることが示されています。

子供に対して、「ときどき、たたいたり、どなったりするなど、つらくあたってしまうことがある」という回答は、就学前保護者の 21.6%、小学生保護者の 27.6%となっており、前回調査より減少しているものの、引き続き支援の課題となっています。

子育てに関して悩んでいることとして、就学前保護者では「子供の教育に関すること」と「病気や発育・発達に関すること」がいずれも３割台で多くなっており、小学生保護者では「子供の教育に関すること」が 48.4%、「子供の友だちづきあい（いじめ等を含む）」が 36.9%となっており、子育て中の保護者に共通した悩みとなっていることがうかがえます。

これらの育児不安や保護者の悩みの解消につながる支援について、引き続き検討が求められます。

（６）相談窓口の利用と認知について

子育てについての相談先として、「子育て支援施設・ＮＰＯ」や「保健所・保健センター」という回答は就学前保護者の１割未満となっており、「自治体の子育て関連担当窓口」についても非常に少なくなっています。先に紹介したとおり、「こども総合支援センターの相談」についても認知度が低くなっており、公的な相談支援を多くの人が利用していない、知らない状況となっています。

一方で、妊娠中や出産後のサポートとして、特に必要なサービスとして、「赤ちゃんの育児相談」「母親の健康面での相談」という回答が、前回調査より増加しており、相談支援の潜在的なニーズがあることが示されています。今後、相談窓口の周知を進めるとともに、相談しやすい体制の整備について検討することが課題となります。

（７）地域活動への参加について

子供の地域活動やグループ活動への参加については、「参加している・参加したことがある」が小学生保護者の 51.9%となっており、前回調査より９ポイント増加しています。また、「地域ぐるみで子供を見守る体制ができていると思いますか」「子育てが地域の人たちに支えられていると感じますか」という質問に対しては、就学前保護者、小学生保護者ともに「はい」という回答が増加しており、地域における子育て支援に対して肯定的な評価が示されています。

一方で、地域の子供たちとの交流や活動を活発にするために必要だと思うことについては、「自治会など地域組織で、子供や子育てについての活動に力を入れる」が大きく減少し、「活動に地域の人が参加する機会を増やす」「身近なところに、地域活動の拠点になる場を作る」もやや減少しており、地域における交流に積極的ではない保護者が増加していることもうかがえます。

（８）和歌山市の子育て施策について

和歌山市の子育て施策等に関して感じることについて、就学前保護者では乳幼児健診の体制や小児医療体制への満足度が高くなっています。一方で、「子供がいても安心して働けると感じていますか」「障害などがある子供を安心して育てられると感じますか」「公園など遊び場が充実していると思いますか」「犯罪被害にあうことの少ない安全なまちだと思いますか」については、「はい」より「いいえ」が多く、市民の評価が低くなっています。

前回調査と比較すると、「保育サービスに満足していますか」「子供がいても安心して働けると感じていますか」「小児医療体制に満足していますか」「子供の教育環境が充実していると思いますか」等の子供の保育・教育に関する項目で肯定的な評価が増加しており、この間の子ども・子育て支援事業の取組が一定の評価を得ていることも示されています。

公園などの遊び場の充実については、小学生保護者においても評価が低くなっており、本市の子育て支援の課題として、今後の取り組みの充実が求められます。

（９）小中高生を対象とした調査について

小中高生を対象とした調査では、前回調査からの顕著な変化として、携帯電話（スマートフォン）の所持率が増加しています。携帯電話（スマートフォン）やパソコンでのインターネットの利用率も小学生、中学生で大幅に増加しています。携帯電話（スマートフォン）やパソコンでインターネットを使う目的として、中学生、高校生ではネット上のコミュニケーションツールとしての利用が８割、高校生ではＳＮＳサイトの利用も約８割となっており、適切なインターネットの利用について、知識やルールの啓発が課題になると考えられます。

悩み事については、中高生の半数近くが「ある」と回答している一方、悩みを相談できる人が「いない」という回答が５%前後あります。

中高生では、進学・就職に不安を抱えている子供が半数以上となっており、和歌山市への定住意向は、小学生では高くなっていますが、高校生では低くなっており、住み続けたくない理由として、市外での進学・就職を希望する意見や、市内に働く場所が少なく仕事が見つからないという意見が多数となっています。

和歌山市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査
結果報告書

平成 31 年３月

和歌山市　福祉局　こども未来部 子育て支援課
〒640-8511　和歌山市七番丁 23 番地
TEL：073-435-1329　FAX：073-435-1341
メール：kosodate@city.wakayama.lg.jp